

はじめに

このシラバスでは、教育課程の中で修得しなければならない科目、単位数、授業概要などについて紹介しています。本学で勉強するにあたって、シラバスに必ず目を通して内容を確認めた上で授業に臨むとともに、シラバスを手元に置いて活用してください。

本書の構成

1. 幼児教育科教育課程表

本学幼児教育科教育課程におけるすべての科目が示され、卒業に必要な単位数や必修科目、幼稚園教諭二種免許状や保育士資格などの取得に必要な単位数や必修科目・選択必修科目がわかるようになっています。

2. カリキュラム・マップ

幼児教育科、専攻科福祉専攻における各科目の学習成果（単位を修得したときに獲得できる能力）が示されています。

3. 授業概要

幼児教育科、専攻科福祉専攻における各授業のテーマや到達目標のほか、授業内容と評価方法、授業時間外の学習などが詳しく示されます。

また、試験の答案やレポート等は、採点后、返却、講評、解説等を行います。

4. 時間割

幼児教育科、専攻科福祉専攻における前・後期の時間割が示されています。

なお、本学の学則では、授業の単位について以下のように定めています。

学則第23条 各授業時間の単位数は、1単位の履修時間を、教室内及び教室外を合わせて45時間とし、次の基準により計算するものとする。

- (1) 講義については15時間、演習については30時間の授業をもって1単位とする。ただし、別に定める演習については15時間の授業をもって1単位とする。
- (2) 実験、実習、実技については45時間の授業をもって1単位とする。ただし、別に定める実習及び実技については30時間の授業をもって1単位とする。

この定めが意味しているのは、講義・演習については1単位につき30時間から15時間の教室外の学習つまり予習や復習が必要ということです。2単位の授業であれば倍の学習時間をもつことを前提としています。もちろん、実験、実習、実技といった授業であっても、授業の到達目標を達成するためには、予習や復習といった授業時間外の学習がきわめて重要であることはいうまでもありません。

学生のみなさんは、授業の意義をよく理解して積極的に授業に取り組んでください。

シラバスについてわからないことがあれば、いつでも教務課に問い合わせてください。担当者が相談や質問に応じます。

平成30年度 シラバス 目次

幼児教育科教育課程表

(平成29年度入学者用) (平成30年度入学者用)

カリキュラム・マップ

授業概要

【幼児教育科】

基礎教養入門	1
倫理学	1
文学	2
日本国憲法	2
経済学	3
総合科目	3
英語コミュニケーション	4
体育講義	5
体育実技	5、6
音楽基礎A (歌)	6
音楽基礎B (器楽)	7
こどもと音楽A (歌)	7
こどもと音楽B (器楽)	8
こどもと音楽C (歌)	9
図画工作	9、10
図画工作Ⅱ	10
体育	11
国語表現法	12
幼児教育者論	12
教育原理	13
教育心理学	13
発達心理学	14
学級経営論	14
保育・教育課程論	15
視聴覚教育論	15
障害児保育	16
指導法の研究	16
保育内容研究 (健康)	17
保育内容研究 (人間関係)	17
保育内容研究 (環境)	18
保育内容研究 (言葉)	18
保育内容研究 (表現)	19
子どもの生活と文化Ⅰ	19
子どもの生活と文化Ⅱ	20
子どもの生活と文化Ⅲ	20
臨床心理学	21
保育・教職実践演習 (幼稚園)	21
教育実習指導	22
教育実習Ⅰ	22
教育実習Ⅱ	23
教育実習Ⅲ	23
情報処理演習	24
保育原理	25
保育原理Ⅱ	25
児童家庭福祉	26
社会福祉概論	26
相談援助	27
社会的養護	27
子どもの保健Ⅰ	28
子どもの保健Ⅱ	29
子どもの保健Ⅲ	29
子どもの食と栄養	30
家庭支援論	30

保育内容総論	31
乳児保育	31
社会的養護内容	32
保育相談支援	32
児童文化	33
保育実習指導Ⅰ	33
保育実習保育所	34
保育実習施設	34
保育実習指導Ⅱ	35
保育実習Ⅱ	35
保育実習指導Ⅲ	36
保育実習Ⅲ	36
保育実践研究Ⅰ	37
保育実践研究Ⅱ	37
保育実践研究Ⅲ	38
子どもの生活と福祉	38
介護福祉総論Ⅰ	39
介護福祉総論Ⅱ	39
介護技術演習	40
社会福祉実習	40
卒業研究	41

【専攻科】

介護保険制度と障害者自立支援制度	43
介護の基本Ⅰ	43、44
介護の基本Ⅱ	44
介護の基本Ⅲ	45
介護の基本Ⅳ	45
介護の基本Ⅴ	46
コミュニケーション技術Ⅰ	46
コミュニケーション技術Ⅱ	47
生活支援技術Ⅰ	47
生活支援技術Ⅱ	48
生活支援技術Ⅲ	48
生活支援技術Ⅳ	49
生活支援技術Ⅴ	49
生活支援技術Ⅵ	50
生活支援技術Ⅶ	50
介護過程Ⅰ	51
介護過程Ⅱ	51
介護過程Ⅲ	52
介護総合演習Ⅰ	52
介護総合演習Ⅱ	53
介護実習Ⅰ-①	53
介護実習Ⅰ-②	54
介護実習Ⅱ	54
発達と老化の理解	55
認知症の理解	55、56
障害の理解	56
こころとからだⅠ	57
こころとからだⅡ	57
社会福祉演習	58
医療的ケアⅠ	59、60
医療的ケアⅡ	61

時間割

平成30年度幼児教育科時間割 (前期)	62
平成30年度幼児教育科時間割 (後期)	63
平成30年度専攻科福祉専攻時間割	64

平成30年度 教育課程表（平成29年度入学者用）（平成30年度入学者用）

区分	No.	授業科目	単位数	開講期	幼免		保育士		主事任用 資格	幼教コース		福祉コース		備考
					必	選必 4単位以上 選必 4単位以上 選必 2科目	必	選必 4科目8単位以上 選必 8単位以上		必	選必 4単位以上 選必 4単位以上	必	選必 4単位以上 選必 4単位以上	
基礎教養科目	1	基礎教養入門	講2	1前										
	2	倫理学	"	1前					○					
	3	文学	"	1前										
	4	日本国憲法	"	2前	●					●		●		
	5	経済学	"	1後					○					
	6	総合科目	"	1後										
	7	英語コミュニケーション	演2	1通	●					●		●		
	8	体育講義	講1	1後	●		●			●		●		
	9	体育実技	実1	1前・後	●		●			●		●		
専門科目	10	音楽基礎A(歌)	演1	1前	●		●			●		●		
	11	音楽基礎B(器楽)	"	1前	●		●			●		●		
	12	こどもと音楽A(歌)	"	1後				◎			◎		◎	
	13	こどもと音楽B(器楽)	演2	1後～2前				◎			◎		◎	
	14	こどもと音楽C(歌)	演1	2前				◎			◎		◎	
	15	図画工作	演2	1通	●		●			●		●		
	16	図画工作Ⅱ	"	2後				◎			◎		◎	
	17	体育	"	2通			●			●		●		
	18	国語表現法	講2	2前										
	19	幼児教育者論	"	1前	●		●			●		●		
	20	教育原理	"	1前	●		●		○	●		●		
	21	教育心理学	演2	1後	●		●			●		●		
	22	発達心理学	講2	1後			●			●		●		
	23	学級経営論	"	1後	●					●		●		
	24	保育・教育課程論	"	1後	●		●			●		●		
	25	視聴覚教育論	"	1前	●					●		●		
	26	障害児保育	演2	2後		★	●			●		●		
	27	指導法の研究	"	1後	●					●		●		
	28	保育内容研究(健康)	演1	2前	●		●			●		●		
	29	保育内容研究(人間関係)	"	2前	●		●			●		●		
	30	保育内容研究(環境)	"	1後	●		●			●		●		
	31	保育内容研究(言葉)	"	2前	●		●			●		●		
	32	保育内容研究(表現)	"	2前	●		●			●		●		
	33	子どもの生活と文化Ⅰ	"	2後		★		◎			◎		◎	
	34	子どもの生活と文化Ⅱ	"	2前		★		◎			◎		◎	
	35	子どもの生活と文化Ⅲ	"	2後		★		◎			◎		◎	
	36	臨床心理学	演2	2前	●			◎		●		●		
	37	保育・教職実践演習(幼稚園)	"	2後	●		●			●		●		
	38	教育実習指導	演1	1前	●					●		●		
	39	教育実習Ⅰ	実1	1年次	●					●		●		
	40	教育実習Ⅱ	実3	2年次	●					●		●		
	41	教育実習Ⅲ	実2	2年次						●		●		
	42	情報処理演習	演2	2通	●					●		●		
	43	保育原理	講2	1前			●		○	●		●		
	44	保育原理Ⅱ	"	2後				◎			◎		◎	
	45	児童家庭福祉	"	1後			●			●		●		
	46	社会福祉概論	"	1前			●		○	●		●		
	47	相談援助	演1	2前			●			●		●		
	48	社会的養護	講2	1前			●			●		●		
	49	社会的養護Ⅱ	"	2後				◎			◎		◎	(休講)
	50	子どもの保健Ⅰ	講4	1通			●			●		●		
	51	子どもの保健Ⅱ	演1	1後			●			●		●		
	52	子どもの保健Ⅲ	講2	2後				◎			◎		◎	
	53	子どもの食と栄養	演2	1前・後			●			●		●		
	54	家庭支援論	講2	2後			●			●		●		
55	保育内容総論	演1	2前			●			●		●			
56	乳児保育	演2	1前			●			●		●			
57	社会的養護内容	演1	2前			●			●		●			
58	保育相談支援	"	2後			●			●		●			
59	児童文化	講2	1前				◎			◎		◎		
60	保育実習指導Ⅰ	演2	1後			●			●		●			
61	保育実習保育所	実2	1年次			●			●		●			
62	保育実習施設	"	1・2年次			●			●		●			
63	保育実習指導Ⅱ	演1	2通			●			●		●			
64	保育実習Ⅱ	実2	2年次				■			■		■		
65	保育実習指導Ⅲ	演1	集中			●			●		●		集中講義	
66	保育実習Ⅲ	実2	2年次				■			■		■		
67	保育実践研究Ⅰ	演1	2後							★				
68	保育実践研究Ⅱ	"	2後							★				
69	保育実践研究Ⅲ	"	集中							★			集中講義	
70	子どもの生活と福祉	演1	1前											
71	介護福祉総論Ⅰ	"	1後								●			
72	介護福祉総論Ⅱ	"	2前								●			
73	介護技術演習	"	1後								●			
74	社会福祉実習	実2	2年次								●			
75	卒業研究	演2	1後～2後											

〔卒業〕 必修9科目14単位を含み62単位以上

●：必修科目

〔コース共通〕

幼免、保育士の必修・選択科目を満たすこと

◎：8単位以上選択必修

■：1科目2単位以上選択必修

〔幼教コース〕

●：必修科目

★：2科目以上選択必修

〔福祉コース〕

●：必修科目

〔実習開始要件〕

幼稚園教諭、保育士及び福祉従事者として働く意志を明確にもち、授業科目の履修状況が良好であること

〔保育士資格〕

◎：8単位以上選択必修

■：1科目2単位以上選択必修

〔社会福祉主事・知的障害者福祉司任用資格〕

○：3科目以上選択必修

幼児教育科カリキュラム・マップ

授業科目名	単位数	学年	学習成果(教育課程レベル・科目レベル)													
			ステップⅠ				ステップⅡ					ステップⅢ				
			コミュニケーション能力				自分で考え、実践できる能力					フィードバック能力			学び続け、成長し続ける能力	
			(1) 社会・理 識・理解 につい ての生 活、	(2) 人間 への信 頼	(3) 伝え 合う手 段を見 つ	(4) 対話 する能 力	(1) 現状 をわか りとし ら	(2) 実践 につい て理解 し	(3) 学際 的な視 点で考 え	(4) 問題 を解決 する様 々な	(5) 自分の 価値観 に基づ 	(1) 検証の こと、 実践を 見	(2) 修正や 改善を する	(3) 実践中 に、瞬 時に判	(1) 実践を 振り返 り、良 い	(2) 自分の 実践を 振り返 り、高 め
文学	講2		○													
英語コミュニケーション	演2		○													
倫理学	講2			○												
視聴覚教育論	講2				○											
社会福祉概論	講2		○													
子どもの保健Ⅰ	講4		○													
乳児保育	演2		○													
子どもの生活と福祉	演1				○											
体育実技	実1				○											
音楽基礎A(歌)	演1				○											
音楽基礎B(器楽)	演1				○											
図画工作	演2				○											
幼児教育者論	講2		○													
教育原理	講2			○												
保育原理	講2		○													
社会的養護	講2									○						
教育実習指導	演1				○											
基礎教養入門	講2						○									
子どもの食と栄養	演2		○													
児童文化	講2				○											
経済学	講2		○													
総合科目	講2		○													
英語コミュニケーション	演2				○											
教育心理学	演2				○											
発達心理学	講2				○											
児童家庭福祉	講2		○													
教育実習Ⅰ	実1				○											
保育実習保育所	実2									○						
体育講義	講1		○													
体育実技	実1									○						
こどもと音楽B(器楽)	演2					○										
図画工作	演2				○											
学級経営論	講2					○										
子どもの保健Ⅰ	講4				○											
介護福祉総論Ⅰ	演1				○											
介護技術演習	演1					○										
保育実習指導Ⅰ	演2					○										
子どもの食と栄養	演2					○										
卒業研究	演2				○											
こどもと音楽A(歌)	演1						○									
保育内容研究(環境)	演1					○										
子どもの保健Ⅱ	演1					○										
保育・教育課程論	講2				○											
指導法の研究	演2					○										
保育実習施設	実2				○											
日本国憲法	講2				○											
国語表現法	講2				○											
臨床心理学	演2				○											
情報処理演習	演2				○											
保育内容研究(人間関係)	演1				○											
保育内容研究(言葉)	演1				○											
相談援助	演1						○									
保育内容研究(健康)	演1				○											
子どもの生活と文化Ⅱ	演1					○										
こどもと音楽C(歌)	演1											○				
保育実践研究Ⅲ	演1											○				
卒業研究	演2										○					
保育内容研究(表現)	演1					○										
こどもと音楽B(器楽)	演2					○										
体育	演2									○						
保育内容総論	演1					○										
社会的養護内容	演1					○										
介護福祉総論Ⅱ	演1		○													
保育実習指導Ⅱ	演2									○						
保育実習指導Ⅲ	演1									○						
保育実習Ⅱ	実2						○									
保育実習施設	実2				○											
社会福祉実習	実2				○											
教育実習Ⅱ	実3						○									
教育実習Ⅲ	実2										○					
保育実習Ⅲ	実2											○				
子どもの生活と文化Ⅰ	演1						○									
情報処理演習	演2						○									
社会的養護Ⅱ (休講)	講2													○		
卒業研究	演2													○		
子どもの保健Ⅲ	講2						○									
保育実践研究Ⅱ	演1											○				
子どもの生活と文化Ⅲ	演1												○			
体育	演2						○									
障害児保育	演2							○								
保育原理Ⅱ	講2				○											
保育実践研究Ⅰ	演1					○										
保育・教職実践演習(幼稚園)	演2						○									
家庭支援論	講2				○											
保育実習指導Ⅱ	演2											○				
保育実習指導Ⅲ	演1												○			
保育相談支援	演1								○							
図画工作Ⅱ	演2								○							

幼兒教育科

授 業 科 目		担 当 者	
基礎教養入門		渡邊洋一、荒木隆俊、柏倉弘和 高橋 寛、高桑秀郎、松田水月 太田裕子、花田嘉雄、松田知明	
		授業形態	単位数
講義	2	1年次 前期	
幼 免	保育士	主事任用	

●テーマ・概要

「人生を豊かにするための究極の目標は、人から学ぶだけでなく自分で適切に考え判断し行動できる人間」である。この科目を通して、これまでの自分の考えをどう組み替えるかなどを考え、そのための序章として欲しい。

●到達目標

「学ぶとは」「教養とは」「専門職とは」「プロ意識とは」「社会活動から学ぶ」の5つのカテゴリーに分けて講義し、人間性ばかりでなく専門職としての能力を育てるために、これまでの認識を新たな合理的な認識に組み替えるとともに、知情意のバランスが取れた能力の確立ができるきっかけとするとともに、「自分で考え、実践できる能力」(3)「学際的な視点で考えることができる」を身につける。

●評価方法

各授業担当者のレポートにより、各領域理解の程度(60%)、「自分で考え、実践できる能力」(3)獲得の程度(30%)、授業参加度(10%)で評価する。

●教科書・参考文献

参考文献は各担当者が説明する。

●授業内容

1. 「学ぶとは」：本学での学びー建学の精神ー
2. 「学ぶとは」：高校までと大学の学習の違い
3. 「学ぶとは」：どんな知識の持ち方が良いか
4. 「教養とは」：なぜ教養が必要か
5. 「教養とは」：教養で何が育てられるか
6. 「プロ意識とは」：素人とプロの違いとは
7. 「プロ意識とは」：プロから見た世界とは
8. 「社会生活から学ぶ」：ボランティアから学ぶ能力
9. 「社会生活から学ぶ」：舞台活動から学ぶ能力
10. 「社会生活から学ぶ」：情報社会から学ぶ能力
11. 「専門職とは」：幼児教育者の醍醐味とは
12. 「専門職とは」：幼児教育者の能力と育て方
13. 「専門職とは」：介護従事者の醍醐味とは
14. 「専門職とは」：介護従事者の能力と育て方
15. 「専門職とは」：介護現場を知る

●授業時間外の学習(必要な時間)

理解を深めるために、授業で配付された資料、紹介された文献で復習すること。

授 業 科 目		担 当 者	
倫理学		平 田 俊 博	
授業形態	単位数	開講時期	
講義	2	1年次 前期	
幼 免	保育士	主事任用	
		○	

●テーマ・概要

保育者として必要な保育力について、現代の時代状況に対応しながら、倫理的観点から考察する。自分や他人の違いを認識して、倫理実践力を養い、互いに協調し協力できる保育者になる。

●到達目標

- ・保育者の倫理観と倫理実践力について、幼児の発達観と時代の変化に即して理解し、説明できる。
- ・メディア革命による家庭環境の急激な変化に対応できる倫理実践力を身につけ、保育に役立てる。
- ・「コミュニケーション能力」(2)「人間への信頼」を身につける。

●評価方法

筆記試験と授業後に提出してもらうレポートにより、保育に関する時代環境の変化や倫理実践力についての理解の程度(55%)、「コミュニケーション能力」(2)獲得の程度(30%)、授業参加度(15%)で評価する。

●教科書・参考文献

(教)清川輝基・内海裕美著『「メディア漬け」で壊れる子どもたち』少年写真新聞社、2009年以降版

●授業内容

1. 倫理学とは何か？：授業計画の全体を説明
2. 倫理とは何か？：法律や慣習との違いを説明
3. 情報倫理とは何か？：メディア革命と倫理
4. 情報化社会とは何か？：家庭の変貌と時間倫理
5. メディア倫理とは何か？：伝統的倫理の危機
6. メディア漬けとは何か？：身体感覚の劣化
7. メディア漬けと社会性：ケータイ依存とコミュニケーション能力の発達不全
8. メディア漬けと大脳異変：自制心の育成と医療
9. メディア漬けと軽度発達障害：生命感覚の育成
10. 世代間倫理とは何か？：メディアと劣化の連鎖
11. メディア中毒：家庭内虐待とモンスター人間
12. 家庭倫理とは何か？：メディア依存と愛着形成
13. メディア依存症とは何か？：少年犯罪の温床
14. メディアと倫理：社会性の育成と相互理解
15. 保育と倫理：まとめと語り合い
16. 筆記試験

●授業時間外の学習(必要な時間)

(予習) 教科書や配付資料の指定箇所を読む。(30分)

(復習) 既習内容を確認し、要点や疑問点を整理する。課題のレポートを完成し、提出する。(30分)

授 業 科 目		担 当 者	
文学		柏 倉 弘 和	
授業形態	単 位 数	開 講 時 期	
講義	2	1 年次 前期	
幼 免	保 育 士	主事任用	

●テーマ・概要

あなたは文学作品を読んで、世界が違って見えたことがあるだろうか。文学には人の心を揺り動かす力がある。大切なのは感じる事、そして、想像することである。感じる力や想像力は、保育にも通じる。豊かな感受性を育てることがねらいである。言葉にこだわり、自分の読みを大切にしながら、虚構の世界を旅してみよう。自己を見つめ、現実を捉え直す旅を。

●到達目標

- ・言葉に即して読む力を身につける。
- ・表現を味わい、想像する力を身につける。
- ・様々な作品を読んで、人間・社会・人生等についての考えを深めることができる。
- ・「コミュニケーション能力」(1)「人間や人間の生活、社会についての知識・理解」を身につける。

●評価方法

筆記試験と授業後に提出してもらったレポートにより、作品の理解・鑑賞の程度(55%)、「コミュニケーション能力」(1)獲得の程度(30%)、授業参加度(15%)で評価する。試験答案、レポートは、採点后返却する。

●教科書・参考文献

教材は、講義時にプリントを配付する。教科書は使用しない。

(参)「新しい文学のために」大江健三郎 岩波新書

●授業内容

1. 文学について。リアリティ、描写。
- 2～4. 宮沢賢治の作品を読む①～③
5. 音楽と文学① 歌詞について
- 6～7. 童話を読む 初版との違い、女性の描かれ方
- 8～12. 谷崎潤一郎の作品を読む①～⑤
13. 映画と文学① 小説の映画化
14. 映画と文学② 原作と映画の比較
15. 音楽と文学② 歌と映像、まとめ
16. 筆記試験

●授業時間外の学習(必要な時間)

(予習) 授業で扱う作品を読んでおく。(30分)

(復習) 他の作品も読んでみる。(30分)

授 業 科 目		担 当 者	
日本国憲法		高 木 統 一	
授業形態	単 位 数	開 講 時 期	
講義	2	2 年次 前期	
幼 免	保 育 士	主事任用	

●テーマ・概要

この授業では、憲法の歴史や政治の仕組み、人権保障に関わる問題を中心に、日本国憲法の基本的原理を学ぶ。これは、国の主権者である国民一人一人の課題である。この授業では、主権者の目から現実社会をみる習慣を身につけることを通してこの課題の達成をめざしたい。

●到達目標

- ・憲法の基本理念、仕組み・内容を理解する。
- ・特に国民主権の原理の内容について、選挙制度、直接参加、地方自治等具体的に理解する。
- ・「自分で考え、実践できる能力」(1)「現状をしっかりとらえることができる」を身につける。

●評価方法

筆記試験及びレポート、授業中に適宜行う小テスト及び課題により、専門的理解の程度(60%)、「自分で考え、実践できる能力」(1)獲得の程度(30%)、授業参加度(10%)で評価する。また、小テスト及び課題については、その都度、講評を行う。

●教科書・参考文献

(教)「憲法読本(第4版)・岩波ジュニア新書」杉原泰雄 岩波書店

(参)「日本国憲法の論点」伊藤 真 (株)トランスビュー

●授業内容

1. オリエンテーション
2. 近代立憲主義とは
3. 国民主権 1 - 明治憲法の基本原理
4. 国民主権 2 - 日本国憲法の国民主権原理の内容
5. 国民主権 3 - 選挙制度と民主主義①
6. 国民主権 4 - 選挙制度と民主主義②
7. 国民主権 5 - 民主主義の形態、直接民主主義
8. 基本的人権 1 - 一般原則と人権の種類 - 自由権・社会権
9. 基本的人権 2 - 自由権・社会権の具体的内容
10. 基本的人権 3 - 死刑存廃論
11. 国民の司法参加と裁判員制度
12. VTR「日本国憲法の誕生」を視聴し、感想文を提出する。
13. 平和主義 1 - 日本国憲法の平和主義と安保条約
14. 平和主義 2 - 憲法 9 条の意義と解釈改憲の歴史
15. 平和主義 3 - 安全保障法制と集団的自衛権
16. 筆記試験

●授業時間外の学習(必要な時間)

(予習) 事前に配付したレジメ・資料を読んで問題意識を持って授業に臨む。(30分)

(復習) 授業中に作成したノートやレジメや参考書等を参考にしながらさらに充実したものに整理する。(30分)

そのほか、新聞、社会面を読む習慣をつけ、テレビのニュースに親しみを持つことにより世の中の動きに関心を持つ努力をすること。

授 業 科 目		担 当 者	
経済学		下 平 裕 之	
授業形態	単 位 数	開 講 時 期	
講義	2	1 年次 後期	
幼 免	保 育 士	主事任用	
		○	

●テーマ・概要

経済学は一見すると難しそうな学問ですが、実はごく簡単な分析手法を知るだけで、現実の経済を理解するのにとても役立ちます。この授業では、社会に出る皆さんにぜひ知っておいてもらいたい経済に関する基礎的な知識と、経済現象を理解するための初歩的な経済学を理解してもらうことを目的としています。

●到達目標

- ・景気や雇用の循環的変動を考えるために必要な、国民経済に関する経済学を身につける。
- ・社会福祉と国・地方自治体の財政との関係、社会福祉の財源とその配分方法について理解し、説明ができる。
- ・「コミュニケーション能力」(1)「人間や人間の生活、社会についての知識・理解」を身につける。

●評価方法

毎回の復習シートの提出と中間試験・期末レポートにより、専門的理解の程度(60%)、「コミュニケーション能力」(1)獲得の程度(30%)、授業参加度(10%)で評価する。試験答案・レポートは採点后、講評を行う。

●教科書・参考文献

(参)「キッチリわかる 経済のしくみ」山下景秋
経営実務出版

(参)「もっと知りたい税のこと」財務省

●授業内容

1. イントロダクション
2. 好景気・不景気とは何か
3. 国内総生産とは何か
4. 経済成長率
5. 国内所得とは何か
6. 国内総支出とは何か
7. 国内総支出とその内訳
8. 経済循環のメカニズム
9. どうすれば景気が良くなるのか
10. 中間試験
11. 福祉の財政
12. 日本の社会保障・税制の仕組み
13. 福祉財源の調達方法
14. 経済成長と社会福祉
15. 全体のまとめ

●授業時間外の学習(必要な時間)

(予習) 新聞・テレビ等の経済に関する報道を見て、関心のあるテーマについてメモ等を取る。(30分)

(復習) 授業内に配付されるプリントの内容を確認する。(30分)

授 業 科 目		担 当 者	
総合科目		渡 邊 洋 一	
授業形態	単 位 数	開 講 時 期	
講義	2	1 年次 後期	
幼 免	保 育 士	主事任用	

●テーマ・概要

幼児教育や保育・福祉の仕事を実践していくためには、個人の経験のみに依存しては限界がある。直感や経験を越えるためには、科学的思考が重要である。この授業では、具体例を通して、人間の心と行動を科学的側面から学ぶ。

●到達目標

- ・日常目にしたり経験する出来事について、科学的に考え、それを人に説明できる。
- ・「コミュニケーション能力」(1)「人間や人間の生活、社会についての知識・理解」を身につける。

●評価方法

毎回の授業で提出する簡単なレポートと学期中に2回提出してもらうレポートにより、授業への参加度(15%)、専門的理解の程度(25%)、正確な表現力(20%)、「コミュニケーション能力」(1)獲得の程度(35%)で評価する。レポートについては採点后、講評する。

●教科書・参考文献

(参)「新・知性と感性の心理」行場次朗・箱田裕司
(編著) 福村出版

●授業内容

1. 科学的思考とは
2. 血液型性格論とは
3. 遺伝と環境
4. 錯覚の科学(環境の認知1)
5. 顔の認知(環境の認知2)
6. 交通の科学(注意と行動規範)
7. リスク認知(環境の認知3)
8. 記憶術の科学
9. 思い出の科学
10. 対人認知(社会的認知)
11. 集団圧力とは(個人と集団)
12. 非認知的能力(1)意欲と失敗
13. 非認知的能力(2)ストレスと感情
14. 注意と行動の障害
15. 講評と振り返り

●授業時間外の学習(必要な時間)

(予習) 毎回、次回の授業のテーマと着眼点を話すので、メディアや書籍を通して、概要をつかんでおく。(30分)

(復習) 授業では、とりあげた具体例について、関係する学術的概念を説明するので、定義等を確認して知識を確実なものにする。(30分)。

授 業 科 目		担 当 者	
英語コミュニケーション		小 林 浩 子	
授業形態	単 位 数	開 講 時 期	
演習	2	1年次 前期	
幼 免	保 育 士	主事任用	
●			

●テーマ・概要

学生が英語を学習することを通じて、英語は日本語に逐語訳できないことを知り、その原因が英語圏の人々の考え方や文化と日本人の考え方や文化が違っているためであることを認識する。

●到達目標

- ・「コミュニケーション能力」(1)「人間や人間の生活、社会についての知識・理解」を身につける。
- ・保育現場で役立つコミュニケーションのための英語を習得する。
- ・英語の4技能(読む、聞く、話す、書く)、特に自力で辞書を使った英文読解力、CDの英文を聞き取るリスニング力、基本的な英会話をマスターする。

●評価方法

筆記試験と授業後に提出してもらったレポートにより授業参加度(10%)、専門的理解の程度(知識理解(30%)、専門的考え方(30%))、「コミュニケーション能力」(1)獲得の程度(30%)で評価する。試験答案、レポートは採点后、講評を行う。

●教科書・参考文献

(教)「新 保育の英語」三修社

●授業内容

1. The School Year Begins
2. The School Year Begins Listening, Exercises
3. Arrival
4. Arrival Listening, Exercises
5. Playtime in the Classroom
6. Playtime in the Classroom Listening, Exercises
7. In the Sandbox
8. In the Sandbox Listening, Exercises
9. In the Playground
10. In the Playground Listening, Exercises
11. Lunchtime
12. Lunchtime Listening, Exercises
13. Changing Clothes and Story Time
14. Changing Clothes and Story Time Listening, Exercises
15. Grammar 1
16. 筆記試験

●授業時間外の学習(必要な時間)

- (予習) 次回授業で行うページを予習する。(30分)
(復習) 今回授業で行ったページを復習する。(30分)

授 業 科 目		担 当 者	
英語コミュニケーション		小 林 浩 子	
授業形態	単 位 数	開 講 時 期	
演習	—	1年次 後期	
幼 免	保 育 士	主事任用	
●			

●テーマ・概要

学生が英語を学習することを通じて、英語は日本語に逐語訳できないことを知り、その原因が英語圏の人々の考え方や文化と日本人の考え方や文化が違っているためであることを認識する。

●到達目標

- ・「コミュニケーション能力」(3)「伝え合う手段を見つけることができる」を身につける。
- ・保育現場で役立つコミュニケーションのための英語を習得する。
- ・英語の4技能(読む、聞く、話す、書く)、特に自力で辞書を使った英文読解力、CDの英文を聞き取るリスニング力、基本的な英会話をマスターする。

●評価方法

筆記試験と授業後に提出してもらったレポートにより授業参加度(10%)、専門的理解の程度(知識理解(30%)、専門的考え方(30%))、「コミュニケーション能力」(3)獲得の程度(30%)で評価する。試験答案、レポートは採点后、講評を行う。

●教科書・参考文献

(教)「新 保育の英語」三修社

●授業内容

17. Nap Time
18. Nap Time
19. Blowing Bubbles
20. Blowing Bubbles Listening, Exercises
21. A Sick Child
22. A Sick Child Listening, Exercises
23. Preparation for the Sports Day
24. Preparation for the Sports Day Listening, Exercises
25. The Sports Day
26. The Sports Day Listening, Exercises
27. Going for a Walk
28. Going for a Walk Listening, Exercises
29. Discovering Autumn
30. Discovering Autumn Listening, Exercises
31. Grammar 2
32. 筆記試験

●授業時間外の学習(必要な時間)

- (予習) 次回授業で行うページを予習する。(30分)
(復習) 今回授業で行ったページを復習する。(30分)

授 業 科 目		担 当 者	
体育講義		高 桑 秀 郎	
授業形態	単 位 数	開 講 時 期	
講義	1	1年次 後期	
幼 免	保 育 士	主事任用	
●	●		

●テーマ・概要

本学で取得する資格に関連する発育期の子どもと高齢者の身体の変化（発育発達・成長と老化）について理解を進める。また、身体運動がもたらす恩恵を理解すると同時に、管理責任者として、活動中に起こる事故とその処置（救急処置）について基礎的な知識と技能を身につける。

●到達目標

- ・子どもの運動器官、運動能力の発達の一般的傾向について理解する。
- ・高齢者の身体について、老化による身体諸機能の変化や特徴について理解する。
- ・子ども、高齢者それぞれに適した運動の進め方について理解する。
- ・怪我の際の応急処置の基本を理解し、救急蘇生法の手順を習得し、実践できる。
- ・「コミュニケーション能力」(1)「人間や人間の生活、社会についての知識・理解」を身につける。

●評価方法

学期末の筆記試験から、専門的理解の程度(60%)、「コミュニケーション能力」(1)獲得の程度(30%)、授業参加度(10%)で評価する。試験については、研究室にて個別に開示、助言を行う。

●教科書・参考文献

- (参)「応急手当講座テキスト」東京法令出版
(参)「スポーツ医学Ⅲ」保育社

●授業内容

1. 子どもの身体の発育・発達の一般的傾向
2. 子どもの発育、発達と運動遊びの関連性
3. 高齢社会と高齢者の身体的特徴
4. 高齢者と運動
5. 救急法に関する基礎知識
6. 外傷の応急処置①（開放性の傷の場合）
7. 外傷の応急処置②（非開放性の傷の場合）
8. 救急蘇生法の手順
9. 救急蘇生人形を用いた蘇生法の実践
10. 熱中症発生の機序と応急処置
11. 試験

●授業時間外の学習（必要な時間）

- （予習）シラバス記載内容の確認。(10分)
（復習）授業内で配付されるプリントや板書された内容を確認し、既習内容についての理解を進める。(30分)

授 業 科 目		担 当 者	
体育実技		高桑秀郎、沼田 尚	
授業形態	単 位 数	開 講 時 期	
実技	1	1年次 前期	
幼 免	保 育 士	主事任用	
●	●		

●テーマ・概要

生涯に亘って必要とされる身体運動を楽しく行うことを再確認していく。体育＝スポーツ種目ではなく、自らの身体を動かして経験することを通じて、自らの情緒を表出すること、他者と経験・情緒を共有することの楽しさを体験して欲しい。2年次の体育（専門体育）に繋がる導入としての科目になる。

●到達目標

- ・「コミュニケーション能力」(4)「対話する能力」を運動の実践を通じて育む。
- ・諸ルールを守り、楽しく身体を動かす経験を積む。
- ・様々な運動種目の経験を通じ、体育の多様性を知り、障害体育に必要な技能と態度を身につける。

●評価方法

授業における活動と提出物によって、授業参加度(30%)、「コミュニケーション能力」(1)獲得の程度(20%)、専門的理解の程度(50%)で評価する。授業終了後、活動について講評を行う。

●教科書・参考文献

- (参)「体育ゲーム大事典」東陽出版
(参)「よく効くふれあいゲーム」杏林書院

●授業内容

1. 授業の運営と授業内のルール、開講日の確認
2. 遊具を使った遊び (高桑)
3. 課題のある手段遊び (高桑)
- 4～5. レクリエーションスポーツ①～②(高桑)
6. 障がい者スポーツの体験 (高桑)
7. ジムニックボール・水遊び (高桑)
8. ゲーム遊び (高桑)
- 9～10. 基礎運動①～② (沼田)
- 11～15. 球技①～⑤ (沼田)

注：授業開講曜日により、高桑担当の授業と沼田担当の授業について、順番が入れ違う形となる。

●授業時間外の学習（必要な時間）

- （予習）シラバス記載内容・授業内予告について確認をしておく。(10分)
（復習）授業内で行った種目を空き時間を利用して、体育館等で実践してみる。(30分)

授 業 科 目		担 当 者	
体育実技		高 桑 秀 郎	
授業形態	単 位 数	開 講 時 期	
実技	1	1 年次 後期	
幼 免	保 育 士	主事任用	
●	●		

●テーマ・概要

ゲーム遊びの実践を通じて、集団遊びの楽しさを理解する。同時に指導者としての役割とゲーム展開に必要な配慮を実践を通じて考える機会を持つ。自らの実践について振り返りを行い、改善点を探る。

●到達目標

- ・「フィードバック能力」(1)「自分の実践について検証し、課題を見つけることができる」を身につける。
- ・対象集団の興味、能力を考慮したゲーム遊びの企画を行い、文章化し、ゲーム案として期限まで提出できる。自らの案を基に実践することができる。
- ・実践を基に、計画の反省を行い、課題の発見と解決の方向性を文章化する。
- ・他の学生が展開する遊びに参加し、参加者の視点から、より良い展開の仕方について考えることができる。

●評価方法

授業における活動と提出物によって、授業参加度(30%)、「フィードバック能力」(1)獲得の程度(25%)、専門的理解の程度(45%)で評価する。前期授業の評価と合算で総合判定を行う。活動実践後、振り返り講評を行う。

●教科書・参考文献

(参)「体育ゲーム大事典」東陽出版

●授業内容

1. ゲーム遊びの紹介・体験。グループ分けと説明
2. プレイリーダーとしてのゲームの企画・実践
3. プレイヤーの立場でのゲーム体験①、自らの企画の検証と振り返りの提出
- 4～5. プレイヤーの立場でのゲーム体験②～③

●授業時間外の学習(必要な時間)

- (予習) ゲーム案作成のための教材研究。(60分)
 教員による指導・助言を受けてのゲーム案修正。(10分)
 (復習) 自らの活動の振り返りと反省レポートの作成。(60分)。

授 業 科 目		担 当 者	
音楽基礎A(歌)		高 橋 寛	
授業形態	単 位 数	開 講 時 期	
演習	1	1 年次 前期	
幼 免	保 育 士	主事任用	
●	●		

●テーマ・概要

音楽をコミュニケーションの重要な手段のひとつとしてとらえ、ピアノを自分の声による「弾き歌い」で自己表現できるようになる。

●到達目標

- ・子どもの歌の楽しさを味わい、必要性を理解できる。
- ・ピアノによる「弾き歌い」の実力をつける。
- ・合唱の楽しさを味わい、幼児向け楽曲を学ぶ。
- ・身体表現の基本となる脱力法を理解し、学ぶ。
- ・音楽理論の入門編とピアノ・コードについて学ぶ。
- ・「コミュニケーション能力」(3)「伝え合う手段を見つけることができる」を身につける。

●評価方法

ミニ筆記テストやレポート、毎回の演習の様子により、子どもの歌を中心とした音楽基礎の領域理解度(15%)、専門的技能習得度(25%)、「コミュニケーション能力」(3)獲得の程度(30%)、授業参加度(15%)、技能習得の努力度(15%)で評価する。レポート等には採点后、講評を行う。

●教科書・参考文献

- (教)「こどもの歌ベストテン」ドレミ出版
 (教)「ピアノ・コードの押さえ方」ドレミ出版
 (教)「シニア世代の思い出ソング」ドレミ出版

●授業内容

1. 音楽とコミュニケーションの関連性について
2. 歌唱や身体表現における呼吸法の重要性について
- 3～4. 脱力体操と発声とリズム運動①～②
- 5～6. 音楽と基礎理論について①～②
- 7～9. 弾き歌い(ピアノによる)の実践①～③
- 10～11. ピアノによるコード理論について①～②
- 12～13. 教科書中の楽曲を歌ってみる①～②
- 14～15. 「人間オーケストラ」の実践①～②

●授業時間外の学習(必要な時間)

- (予習) 授業で扱う楽曲に目を通しておく。(30分)
 (復習) 関連する楽曲にも目を通してみる。(30分)

授 業 科 目		担 当 者	
音楽基礎B (器楽)		白崎直季、福島宏子、櫻田庸子 佐藤 映、米澤美紀、佐々木寿子	
授業形態	単位数	開 講 時 期	
演習	1	1年次 前期	
幼 免	保 育 士	主事任用	
●	●		

●テーマ・概要

保育の現場において、感性や創造力を磨くのに音楽は欠かせないものである。この授業では、音楽の基本的な知識やピアノ演奏技術の基礎をそれぞれの進度に応じたグループレッスンで学ぶ。

●到達目標

- ・ 幼児の歌遊びの課題曲の簡易伴奏を弾くことができる。
- ・ 初歩的な練習課題を弾くことができる。
- ・ 手遊びを用い、豊かな表現活動ができる。
- ・ テキストや資料を基に必要な知識を身につける。
- ・ 「自分で考え、実践できる能力」(1)「現状をしっかりとらえることができる」を身につける。

●評価方法

実技試験と授業後に提出してもらうレポート等により、音楽の基礎的な知識、演奏技術の獲得の程度(70%)、「自分で考え、実践できる能力」(1)獲得の程度(20%)、授業参加度(10%)で評価する。

実技試験は採点后、講評を行う。

●教科書・参考文献

(教)「歌唱教材伴奏法」教育芸術社

(教)「ピアノ小曲集1」音楽之友社

(教)「こどもの歌ベストテン」ドレミ出版

●授業内容

1. オリエンテーション、アンケート調査
2. 鍵盤楽器の基礎的な学習(1)音符、音名について
3. 鍵盤楽器の基礎的な学習(2)指遣いについて
4. 鍵盤楽器の基礎的な学習(3)コード進行①
5. 鍵盤楽器の基礎的な学習(4)コード進行②
6. 鍵盤楽器の基礎的な学習(5)コードを使った伴奏付け
7. 鍵盤楽器の基礎的な学習(6)リズムと拍子
8. 保育教材、手遊びについて
9. 各自の進度に応じた学習(1)こどもの歌①
10. 各自の進度に応じた学習(2)こどもの歌②
11. 各自の進度に応じた学習(3)弾き歌①
12. 各自の進度に応じた学習(4)弾き歌②
13. 各自の進度に応じた学習(5)実技試験に向けて①
14. 各自の進度に応じた学習(6)実技試験に向けて②
15. 各自の進度に応じた学習(7)実技試験に向けて③
16. 実技試験

●授業時間外の学習(必要な時間)

(予習) 毎日、練習をする習慣をつける。(30分)

(復習) 授業で習得した曲を復習する。(30分)

授 業 科 目		担 当 者	
こどもと音楽A (歌)		高 橋 寛	
授業形態	単位数	開 講 時 期	
演習	1	1年次 後期	
幼 免	保 育 士	主事任用	
	◎		

●テーマ・概要

子どもや老人や障がいを持った人たちとのコミュニケーションのきっかけを、音楽や身体表現でつかめる実力を培おう。

●到達目標

- ・ 世代を超えて愛唱されている楽曲を知り、その魅力を理解する。
- ・ グループを組んでの「ミニ・ショウ・タイム」を創ることで、企画力、歌唱力、演技力を培う。
- ・ 移調譜を作成し、歌い易い調性での弾き歌いの方法を学ぶ。
- ・ 「自分で考え、実践できる能力」(4)「実践における様々な問題を解決することができる」を身につける。

●評価方法

毎回の演習の様子やレポートの内容により、歌や音楽を用いた表現の領域理解の程度(15%)、専門的技能習得度(25%)、「自分で考え、実践できる能力」(4)獲得の程度(30%)、授業参加度(15%)、技能習得の努力度(15%)で評価する。レポート等には採点后、講評を行う。

●教科書・参考文献

(教)「こどもの歌ベストテン」ドレミ出版

(教)「ピアノ・コードの押さえ方」ドレミ出版

(教)「シニア世代の思い出ソング」ドレミ出版

●授業内容

1. 伝承歌とわらべ歌
2. 唱歌をうたう
- 3～4. 童謡の歴史①～②
- 5～6. 日本の昔ながらの歌を知り、学ぶ①～②
- 7～8. 流行歌と時代背景について①～②
- 9～10. 絵本の読みきかせと子どもの歌①～②
- 11～13. 「セブン・ミニッツ・ショウ」を創ってみよう①～③
14. テレビのアニメと子どもの歌
15. 音楽のもたらす人間形成への影響

●授業時間外の学習(必要な時間)

(予習) 授業で扱う楽曲に目を通しておく。(30分)

(復習) 関連する楽曲にも目を通してみる。(30分)

授 業 科 目		担 当 者	
こどもと音楽B (器楽)		白崎直季、福島宏子、櫻田庸子 佐藤 映、米澤美紀、佐々木寿子	
授業形態	単 位 数	開 講 時 期	
演習	2	1年次 後期	
幼 免	保 育 士	主事任用	
	◎		

●テーマ・概要

保育の現場において、感性や創造力を磨くのに音楽は欠かせないものである。この授業では、豊かな音楽表現のための知識やピアノ演奏技術の向上、音楽を取り入れた保育教材研究をそれぞれの進度に応じたグループレッスンで学ぶ。

●到達目標

- ・ 幼児の歌遊びの課題曲の簡易伴奏を弾くことができる。
- ・ 自ら読譜をすることができる力を身につける。
- ・ 手遊びを用い、豊かな表現活動ができる。
- ・ 「自分で考え、実践できる能力」(2)「実践について理解したり、分析したりすることができる」を身につける。
- ・ 音楽を取り入れた保育教材の作成、実践のための技術を身につける。

●評価方法

実技試験と授業後に提出してもらったレポート等により、音楽の基礎的な知識、演奏技術の獲得の程度(70%)、「自分で考え、実践できる能力」(2)獲得の程度(20%)、授業参加度(10%)で評価する。実技試験は採点后、講評を行う。

●教科書・参考文献

- (教)「歌唱教材伴奏法」教育芸術社
 (教)「ピアノ小曲集1」音楽之友社
 (教)「こどもの歌ベストテン」ドレミ出版

●授業内容

1. オリエンテーション
2. 教育実習に向けての課題研究①手遊び
3. 教育実習に向けての課題研究②弾き歌い
4. 課題発表会 (手遊び、弾き歌い)
5. 保育実習に向けての課題研究①教材の研究
6. 保育実習に向けての課題研究②手遊び
7. 保育実習に向けての課題研究③こどもの歌
8. 模擬保育成果発表会
- 9～11. 各自の進度に応じた学習①～③
12. 実技試験に向けて①課題曲研究
13. 実技試験に向けて②こどもの歌
14. 実技試験に向けて③まとめ
15. 実技試験

●授業時間外の学習(必要な時間)

- (予習) 毎日、練習をする習慣をつける。(30分)
 (復習) 授業で習得した曲を復習する。(30分)

授 業 科 目		担 当 者	
こどもと音楽B (器楽)		白崎直季、福島宏子、櫻田庸子 佐藤 映、米澤美紀、佐々木寿子	
授業形態	単 位 数	開 講 時 期	
演習	—	2年次 前期	
幼 免	保 育 士	主事任用	
	◎		

●テーマ・概要

保育の現場において、感性や創造力を磨くのに音楽は欠かせないものである。この授業では、豊かな音楽表現のための知識やピアノ演奏技術の向上、音楽を取り入れた保育教材研究をそれぞれの進度に応じたグループレッスンで学ぶ。

●到達目標

- ・ 幼児の歌遊びの課題曲の簡易伴奏を弾くことができる。
- ・ 自ら読譜をすることができる力を身につける。
- ・ 手遊びを用い、豊かな表現活動ができる。
- ・ 「自分で考え、実践できる能力」(2)「実践について理解したり、分析したりすることができる」を身につける。
- ・ 音楽を取り入れた保育教材の作成、実践のための技術を身につける。

●評価方法

実技試験と授業後に提出してもらったレポート等により、音楽の基礎的な知識、演奏技術の獲得の程度(70%)、「自分で考え、実践できる能力」(2)獲得の程度(20%)、授業参加度(10%)で評価する。実技試験は採点后、講評を行う。

●教科書・参考文献

- (教)「歌唱教材伴奏法」教育芸術社
 (教)「ピアノ小曲集1」音楽之友社
 (教)「こどもの歌ベストテン」ドレミ出版

●授業内容

16. オリエンテーション
17. 課題発表会に向けて①手遊び
18. 課題発表会に向けて②課題曲
19. 課題発表会 (手遊び、課題曲)
20. 保育実習に向けての課題研究①保育教材の研究
21. 保育実習に向けての課題研究②手遊び
22. 保育実習に向けての課題研究③こどもの歌
23. 模擬保育成果発表会
- 24～27. 各自の進度に応じた学習①～④
28. 実技試験に向けて①課題曲研究
29. 実技試験に向けて②弾き歌い
30. 実技試験に向けて③まとめ
31. 実技試験

●授業時間外の学習(必要な時間)

- (予習) 毎日、練習をする習慣をつける。(30分)
 (復習) 授業で習得した曲を復習する。(30分)

授 業 科 目		担 当 者	
こどもと音楽C (歌)		高 橋 寛	
授業形態	単 位 数	開 講 時 期	
演習	1	2 年次 前期	
幼 免	保 育 士	主事任用	
	◎		

●テーマ・概要

あらゆる種別の施設を利用する人たちとのコミュニケーションの有効な手段として、音楽や身体表現を活用できるようになろう。

●到達目標

- ・ 世代を超えて愛唱されている楽曲を知り、その魅力を理解する。
- ・ 童謡や唱歌の成り立ちを学び、時代背景を理解する。
- ・ 昭和の歌謡曲とその時代背景について学ぶ。
- ・ 新しい手遊び歌を学び、楽しみ方を理解する。
- ・ 「学び続け、成長し続ける能力」(1)「自分の実践について振り返り、より良い実践を目指して、主体的に学ぶことができる」を身につける。

●評価方法

毎回の演習やレポートの内容により、歌や音楽を用いた表現の領域理解の程度(15%)、専門的技能習得度(25%)、「学び続け、成長し続ける能力」(1)獲得の程度(30%)、授業参加度(15%)、技能習得の努力度(15%)で評価する。レポート等には採点后、講評を行う。

●教科書・参考文献

- (教)「こどもの歌ベストテン」ドレミ出版
 (教)「ピアノ・コードの押さえ方」ドレミ出版
 (教)「シニア世代の想い出ソング」ドレミ出版

●授業内容

- 1～2. 明治から大正にかけての童謡と唱歌①～②
- 3～4. 昭和から平成にかけての子どもの歌①～②
5. 明治・大正の流行歌
6. 昭和前期の流行歌
7. 昭和後期の流行歌
8. 各時代の流行歌を合唱で試みる
9. 「人間オーケストラ」の再確認
10. 音楽の基礎理論の再確認
11. ピアノによるコード理論の再確認
12. 人体の生理と感情の表出について
13. 脱力体操と呼吸法の再確認
14. マン・ウォッチングと「セブン・ミニッツ・ショウ」の再確認
15. 絵本の読みきかせと弾き歌い法の再確認

●授業時間外の学習(必要な時間)

- (予習) 授業で扱う楽曲に目を通しておく。(30分)
 (復習) 関連する楽曲にも目を通してみる。(30分)

授 業 科 目		担 当 者	
図画工作		樋 口 健 介	
授業形態	単 位 数	開 講 時 期	
演習	2	1 年次 前期	
幼 免	保 育 士	主事任用	
	●		

●テーマ・概要

絵を描いたり、ものを作ったりすることが嫌いな人、苦手な人もいるかもしれません。そんな人でもはじめから描くこと、作ることが嫌いだったわけではないはずです。初めてクレヨンで線を引いたときの喜びを思い出しながら、まずは描くこと、作ることが楽しめる、そんな授業にしていきたいと思います。

●到達目標

- ・ 様々な造形活動を実践し、造形の喜びや楽しさを感じる。
- ・ 幼児の造形活動を支えるにあたって、望ましい造形活動観を持てる。
- ・ 幼児の造形活動を支えるにあたって、基礎的な理論や知識、技術を身につける。
- ・ 「コミュニケーション能力」(3)「伝え合う手段を見つかることができる」を身につける。

●評価方法

授業で制作する作品とスケッチブックにより、基礎的な理論や知識、技術の獲得の程度(60%)、「コミュニケーション能力」(3)獲得の程度(10%)、出席状況、授業参加度(30%)で評価する。評価においては、作品の巧拙よりも制作に対して心が動いているかを重視する。提出された作品やスケッチブックに対しては講評を行う。

●教科書・参考文献

- (教)「保育をひらく造形表現」萌文書林

●授業内容

1. OR、デザイン演習①(スケルメン似顔絵)
2. デザイン演習②(他已紹介)
3. 造形遊び演習①(ふわっふわ紙、ぐるぐる描き)
4. 造形遊び演習②(アイロンパチック、ビー玉)
5. 造形遊び演習③(フロッタージュ)
6. 造形遊び演習④(クレヨンスクラッチ)
7. 造形遊び演習⑤(コラージュ)
8. 色について①(オリジナル色相環づくり)
9. 色について②(マッピング、染め紙遊び)
10. おもちゃについて(動くおもちゃの製作)
11. とびだすカード制作①
12. とびだすカード制作②
13. 版画演習①(スタンプ) 幼児画の特徴①
14. 版画演習②(なんでもコラージュ版画)
15. 幼児画の特徴②、まとめ

●授業時間外の学習(必要な時間)

- (予習) 次回の授業で制作する作品の構想を練る。(20分)
 (復習) 授業を振り返りながら、作品などをスケッチブックにまとめる。(20分)

授 業 科 目		担 当 者	
図画工作		花 田 嘉 雄	
授業形態	単 位 数	開 講 時 期	
演習	—	1 年次 後期	
幼 免	保 育 士	主事任用	
●	●		

●テーマ・概要

空き時間に友達に贈る誕生日カードを作っている時の学生は、どんなものを渡したら友達が喜んでくれるだろうかと、色々アイデアを工夫して楽しそうに見える。その姿がそのまま授業時の姿になることを理想として授業の内容や進め方を考えている。後期の図画工作では、紙を中心とした身近な素材による作品制作等を通して、どんな工夫ができるか、楽しんでもらいたい。

●到達目標

- ・身近な素材を使用した作品制作等を通して、造形表現には様々な可能性があることを学ぶ。
- ・共同制作を通して、チームワークの大切さを理解する。
- ・作品発表を通して、「コミュニケーション能力」(3)「伝え合う手段を見つける」能力を身につける。

●評価方法

作品提出・レポートによる専門技術・アイデア・工夫の程度(65%)、授業参加度(15%)、作品発表による「コミュニケーション能力」(3)獲得の程度(20%)で評価する。提出作品や発表については、その場で講評を行う。

●教科書・参考文献

(教)「保育をひらく造形表現」萌文書林

●授業内容

1. オリエンテーション・鉛筆グラデーション
2. 子どもの遊び場づくり①
- 3～5. 保育教材制作①～③ パネルシアター
6. パネルシアター発表
7. 子どもの遊び場づくり②
8. 粘土遊び
- 9～11. 工作演習①～③ お弁当づくり
- 12～15. 工作演習④～⑦ 壁面装飾
16. 壁面装飾発表

●授業時間外の学習(必要な時間)

(予習) 作品のイメージを考える。発表のための準備、シミュレーションをする。(30分)

(復習) 提出に向けて作品を完成させる。(30分)

授 業 科 目		担 当 者	
図画工作Ⅱ		樋 口 健 介	
授業形態	単 位 数	開 講 時 期	
演習	2	2 年次 後期	
幼 免	保 育 士	主事任用	
	◎		

●テーマ・概要

身の回りには様々な素材があります。とにかく楽しみながら素材を一生懸命こねくり回してみましよう。上手い、下手に関わらず、そこには今まで知らなかった自分が見えてくると思います。

●到達目標

- ・じっくりと様々な造形活動に取り組み、造形の喜びや楽しさを感じる。
- ・様々な素材を使った表現方法を実践し、造形活動に関する見識を深める。
- ・幼児の造形活動を主導する視点を持って、制作活動を行うことができる。
- ・「フィードバック能力」(1)「自分の実践について検証し、課題を見つけることができる」を身につける。

●評価方法

授業で制作する作品とレポートにより、造形活動に関する理論や知識、技術の獲得の程度(60%)、「フィードバック能力」(1)獲得の程度(10%)、出席状況、授業参加度(30%)で評価する。評価においては、作品の巧拙よりも制作に対して心が動いているかを重視する。提出された作品に対しては講評を行う。

●教科書・参考文献

(参)「保育をひらく造形表現」萌文書林

●授業内容

1. オリエンテーション
2. 絵画演習①(四つの色面)
- 3～8. 工作演習①～⑥(うよもん)
- 9～10. 素材研究①～②(光る泥だんご)
- 11～12. 素材研究③～④(土粘土遊び)
- 13～16. 工作演習⑦～⑩(張り子でお面)
17. 絵画演習②(色砂づくり、ペタペタコラージュ)
18. 絵画演習③(砂絵)
19. 絵画演習④(額縁づくり)
20. 絵本制作①(バタバタ絵本、くるくる絵本)
21. 絵本制作②(まる絵本、つぎはぎ絵本)
22. 版画演習①(消しゴムはんこ、ステンシル)
- 23～24. 影絵遊び①～②
25. 版画演習②(紙版画)
26. 版画演習③(旗づくり)
27. 素材研究⑤(キャンドルづくり)
28. 素材研究⑥(ろうけつ染め)
- 29～30. まとめ

ーレッジョ・エミリアの保育実践についてー

●授業時間外の学習(必要な時間)

(予習) 次回の授業で制作する作品の構想を練る。(20分)

(復習) 制作過程を振り返り、保育実践への活かし方を考える。(20分)

授 業 科 目		担 当 者	
体 育		大 木 みどり	
授業形態	単 位 数	開 講 時 期	
演 習	2	2 年次 前期	
幼 免	保 育 士	主事任用	
	●		

●テーマ・概要

生きる主体としての自己の身体に目を向け、動き・感じ・考え・創造していく過程を楽しむ自分自身を再発見し、活動する喜びを実感してほしい。

授業では、様々な運動遊びの実践を通し、自己の身体活動の深化をたどると同時に講義も行い、理論と実践を並行して進めていく。

●到達目標

- ・様々な運動遊び（主に身体遊び・様々な手具を使った遊びなど等）の実践を通し、その特徴・活動の展開・指導法等を理解し、実践することができる。
- ・授業時における様々な課題の実践により、創造力及び保育実践力を身につける。
- ・保育所実習における幼児の遊びの実態を踏まえ、幼児期における運動遊びに関するレポートの作成を通し、幼児の心身の発達と幼児期における身体活動の意味と重要性を理解する。
- ・「フィードバック能力」(2)「見つけた課題について修正や改善をすることができる」を身につける。

●評価方法

実践活動と課題レポートの提出により、「体育」の理解と実践力の程度(60%)、「フィードバック能力」(2)獲得の程度(20%)、授業参加度(20%)で評価する。課題レポートは、採点・講評後、返却する。

●教科書・参考文献

(参)「幼児のからだところを育てる運動遊び」杏林書院

●授業内容（前期）

1. オリエンテーション・幼児期と運動遊びについて
- 2～3. からだ遊びの実際・展開及び指導法①～②
- 4～5. ジャンケン遊びの実際・展開及び指導法①～②
- 6～10. 手具を使った遊びの実際・展開及び指導法①～⑤
- 11～13. 大型遊具を使つての表現遊び・ダンスの実際・創作及び指導法①～③
14. 大型遊具を使つての創作作品の発表・振り返り
15. まとめ・課題レポートの発表

●授業時間外の学習（必要な時間）

(予習) 参考文献や関連授業の学修を通し、乳幼児の心身の発達についての知識と理解を深める。(30分)

(復習) 授業時の課題についてまとめる。(30分)

授 業 科 目		担 当 者	
体 育		大 木 みどり	
授業形態	単 位 数	開 講 時 期	
演 習	—	2 年次 後期	
幼 免	保 育 士	主事任用	
	●		

●テーマ・概要

生きる主体としての自己の身体に目を向け、動き・感じ・考え・創造していく過程を楽しむ自分自身を再発見し、活動する喜びを実感してほしい。

授業では、様々な運動遊びの実践を通し、自己の身体活動の深化をたどると同時に講義も行い、理論と実践を並行して進めていく。

●到達目標

- ・様々な運動遊び（主に器械運動遊び）の実践を通し、その特徴・活動の展開・指導法を理解し、実践することができる。
- ・授業における様々な課題の実践を通し、創造力及び保育実践力を身につける。
- ・対象児・者にあった活動内容について、指導計画を作成し、実践することができる。
- ・健康・身体活動・遊びにおける様々な問題や課題を捉え、それらについての研究レポートを作成することを通し、広く人間の健康・身体活動・遊びについて考え、意識を高める。
- ・「自分で考え、実践できる能力」(4)「実践における様々な問題を解決することができる」を身につける。

●評価方法

実践活動と課題レポートの提出により、「体育」の理解と実践力の程度(60%)、「自分で考え、実践できる能力」(4)獲得の程度(20%)、授業参加度(20%)で評価する。課題レポートは採点后、講評を行う。

●教科書・参考文献

(参)「幼児のからだところを育てる運動遊び」杏林書院

●授業内容

16. オリエンテーション
- 17～22. 器械運動遊びの実際・展開及び指導法①～⑥
- 23～24. 総合的遊びの実際・展開及び指導法①～②
- 25～28. グループ演習①～④
29. グループレポート課題の発表
30. まとめ

●授業時間外の学習（必要な時間）

(予習) 参考文献や関連授業及び実習の振り返りから、具体的な運動遊び教材、遊び方についての知識や理解を深める。(30分)

(復習) 授業時の課題についてまとめる。(30分)

授 業 科 目		担 当 者	
国語表現法		柏 倉 弘 和	
授業形態	単 位 数	開 講 時 期	
講義	2	2 年次 前期	
幼 免	保 育 士	主事任用	

●テーマ・概要

文章を書くことはなかなか難しい。それは、総合的な力を必要とするからである。端的に言えば、書く内容と表現の仕方である。読む人の心を動かす文章を書くには、書く人自身の心が豊かでなければならない。様々な優れた文章を模範とし、その特徴（文体、語彙、着想、構成等）をまねながら様々なテーマで書く練習をし、力をつけていこう。

●到達目標

- ・書く内容を適切に考えることができる。
- ・いろいろな表現の仕方について理解することができる。
- ・より良い表現を工夫することができる。
- ・「コミュニケーション能力」(3)「伝え合う手段を見つけることができる」を身につける。

●評価方法

授業中に書いてもらう文章により、書く内容の考察と表現の理解・工夫の程度(65%)、「コミュニケーション能力」(3)獲得の程度(20%)、授業参加度(15%)で評価する。文章は、評価後、返却する。

●教科書・参考文献

必要な資料等は、講義時に配付する。教科書は使用しない。

(参)「言語表現法講義」加藤典洋 岩波書店

●授業内容

1. 文章を書くとは。内容と表現について。
2. 「好きな食べ物」(練習)
3. テーマへのアプローチ。(検討)
4. 「十年後の私」(練習)
5. 個性的な表現とは。紋切型、通念化。(検討)
6. 「音楽を聞いて」(練習)
7. 心に浮かぶことをとらえる。想像力。(検討)
8. 「実習を振り返って」(練習)
9. 場面の切り取り方。描写と説明。(検討)
10. 「恋愛について」(練習)
11. 自分の考えを書く。具体性とは。(検討)
12. 映画をみて感想を書く。(練習)
13. 感想とは何か。自分に引きつける。(検討)
14. 自分にとっての文章を書くことの意義と課題について考える。
15. まとめ

●授業時間外の学習(必要な時間)

(予習) 興味のある本をいろいろと読んでみる。

(30分)

(復習) 授業中に書いた文章を書き直してみる。

(30分)

授 業 科 目		担 当 者	
幼児教育者論		大 関 嘉 成	
授業形態	単 位 数	開 講 時 期	
講義	2	1 年次 前期	
幼 免	保 育 士	主事任用	

●テーマ・概要

幼児教育者とはどうあるべきか。幼児教育者の存在意義、そして必要な能力について、求められる資質・能力を理解した上で、自己の理想の「先生像」を思い描きながら、追求する。

●到達目標

- ・幼児教育者の基本的資質と専門的能力について説明できる。
- ・子どもの発達の概要を説明できる。
- ・子育て支援における内外専門家との連携の必要性について説明できる。
- ・幼児教育者としての服務上の義務について説明できる。
- ・「コミュニケーション能力」(1)「人間や人間の生活、社会についての知識・理解」を身につける。

●評価方法

毎時提出するワークシート、最終レポートから、各領域理解の程度(75%)、「コミュニケーション能力」(1)獲得の程度(10%)、授業参加度(15%)で評価する。ワークシートは次回、最終レポートは最終回で、採点の後、レビューする。

●教科書・参考文献

(参)文部科学省(2017)「幼稚園教育要領」

(参)厚生労働省(2017)「保育所保育指針」

(参)内閣府・文部科学省・厚生労働省(2017)「幼保連携型認定こども園教育・保育要領」

●授業内容

1. イントロダクションー教育者とはー
2. 幼児教育者の試写会的意義と職務
3. 幼児教育者の資質・能力
4. 子ども理解
5. 主体性とは
6. 幼児教育の共同性
7. ピアジェの発達観
8. フロイト・エリクソンの発達観
9. 発達と保育の関係(1)〔未満児〕
10. 発達と保育の関係(2)〔以上児〕
11. 子どもの遊び
12. 遊びにおける保育者
13. 子育て支援
14. 幼児教育者の生涯の学び
15. 総括

●授業時間外の学習(必要な時間)

(予習) 配付物を基にノートを作成する。(30分)

(復習) 授業内で提示されたキーワードについて説明できるようにする。(30分)

授 業 科 目		担 当 者	
教育原理		大 関 嘉 成	
授業形態	単 位 数	開 講 時 期	
講義	2	1 年次 前期	
幼 免	保 育 士	主事任用	
●	●	○	

●テーマ・概要

教育の意義、教育史等を理解し、「教えるとはどういうことなのか。教師とはどのような存在なのか。子どもたちにはどのようになってほしいのか。」について追求する。

●到達目標

- ・人間の特殊性や伝統的な教育観から教育の意義を説明できる。
- ・学校教育史や教育に関する思想から、その教育理念を推察できる。
- ・人間の成長・発達における教育・学校・教師の役割について説明できる。
- ・「コミュニケーション能力」(2)「人間への信頼」を身につける。

●評価方法

毎時提出するワークシート、中間レポート、そして最終レポートから、各領域理解の程度(75%)、「コミュニケーション能力」(2)獲得の程度(10%)、授業参加度(15%)で評価する。ワークシートは次回、中間レポートは第9回目、最終レポートは最終回で、採点の後、レビューする

●教科書・参考文献

(参)青木久子・磯部裕子・大豆生田啓友(2009)
「教育学への視座」萌文書林

●授業内容

1. イントロダクションー教育とは何かー
2. 学ぶ・教える能力
3. 教育の重要性
4. 発達への助成的介入
5. 共同体の人間形成能力
6. 日本の学校史・思想家
7. 世界の学校(1)〔～近代〕
8. 世界の学校(2)〔近代～現代〕・思想家
9. 学力とは何か
10. 道徳と教育
11. 教育と言語・文化
12. 学習の意義
13. 教師の役割
14. 教育と人権
15. 総括

●授業時間外の学習(必要な時間)

- (予習) 配付物を基にノートを作成する。(30分)
(復習) 授業内で提示されたキーワードについて説明できるようにする。(30分)

授 業 科 目		担 当 者	
教育心理学		大 関 嘉 成	
授業形態	単 位 数	開 講 時 期	
演習	2	1 年次 後期	
幼 免	保 育 士	主事任用	
●	●		

●テーマ・概要

近年、教育における諸問題に関連して、心理学が話題とされることが増え、それに対する期待も高まっている。実際、教育心理学はどこまでその期待に応えられそうなのか、基本的な知見を理解し、考察する。

●到達目標

- ・学習者の内因の枠組みとして知識、学習等の諸概念について説明できる。
- ・学習観をもとに自己の観点を確認し、望ましい学習活動についての展望を記述できる。
- ・効果的な指導のために、幼児、教師、教授活動などを要因群として捉える分析的な視点を身につけ、説明できる。
- ・「自分で考え、実践できる能力」(1)「現状をしっかりとりえることができる」を身につける。

●評価方法

毎時提出するワークシート、そして最終レポートから、各領域理解の程度(60%)、「自分で考え、実践できる能力」(1)獲得の程度(10%)、授業参加度(30%)で評価する。ワークシートは次回、最終レポートは最終回で、採点の後、レビューする

●教科書・参考文献

(参)中澤潤編(2008)「よくわかる教育心理学」ミネルヴァ書房

●授業内容

1. イントロダクションー教育心理学とはー
2. 記憶(1)ー記憶システムー
3. 記憶(2)ー忘却ー
4. 知識とその種類
5. 知識と問題解決
6. 学習過程(1)ー条件付けー
7. 学習過程(2)ー観察学習その他ー
8. 動機づけ(1)ー統制感と原因帰属ー
9. 動機づけ(2)ー内発的動機づけー
10. 学級集団(1)ー教師と子どもー
11. 学級集団(2)ー学級の人間関係ー
12. 人格・知能の発達
13. 教授法と評価
14. カウンセリング
15. まとめ

●授業時間外の学習(必要な時間)

- (予習) 配付物を基にノートを作成する。(30分)
(復習) 授業内で提示されたキーワードについて説明できるようにする。(30分)

授 業 科 目		担 当 者	
発達心理学		太 田 裕 子	
授業形態	単 位 数	開 講 時 期	
講義	2	1 年次 後期	
幼 免	保 育 士	主事任用	
	●		

●テーマ・概要

乳幼児の発達の様子や発達についての考え方を学ぶ。また、映像視聴等を通して、心身の発達に応じた保育についての理解を深めていきたい。

●到達目標

- ・乳幼児の発達に関する諸概念について理解し、説明ができる。
- ・乳幼児の運動発達、言語発達、認知発達、社会性の発達について理解し、説明ができる。
- ・乳幼児の心身の発達に応じた、主体性を育む保育の考え方を理解し、説明ができる。
- ・「自分で考え、実践できる能力」(1)「現状をしっかりとらえることができる」を身につける。

●評価方法

筆記試験と授業後に提出する小レポートにより、乳幼児の発達についての諸概念、様相、発達に応じた保育に関する理解の程度(70%)、「自分で考え、実践できる能力」(1)獲得の程度(20%)、授業参加度(10%)で評価する。筆記試験については、採点後、講評する。

●教科書・参考文献

- (教)「幼稚園教育要領」フレーベル館
(教)「保育所保育指針」フレーベル館
(教)「幼保連携型認定こども園教育・保育要領」フレーベル館
(参)保育の心理学Ⅰ 北大路書房
(参)保育の心理学Ⅱ 北大路書房
また、授業中に適宜資料を配付する。

●授業内容

1. 人間における発達の独自性
2. 発達理解の方法と意義
3. 発達の理論と保育
4. 子どもの身体機能と運動の発達
5. 子どもの言語の発達
6. 子どもの社会性の発達
7. 愛着の形成
8. 子どもの考え方の特徴
9. 子どもの知的発達
10. 子どもの主体性を育む保育の評価の考え方
11. 発達状況に応じた援助や関わり
12. 遊びの中で育む主体性
13. 子どもの主体性を育む保育者の役割と援助
14. 発達障害の概要と支援
15. まとめ

●授業時間外の学習(必要な時間)

- (予習) 授業で扱う資料を読む。(20分)
(復習) 紹介した文献や配付資料を読む。(20分)

授 業 科 目		担 当 者	
学級経営論		松 田 知 明	
授業形態	単 位 数	開 講 時 期	
講義	2	1 年次 後期	
幼 免	保 育 士	主事任用	
	●		

●テーマ・概要

保育者の仕事は様々なものがあることを理解する必要がある。また、保育制度を理解することも必要である。それらの学習を通して、保育者特に幼稚園教諭の仕事を理解し、能力を向上できるきっかけとなるようにしたい。

●到達目標

- ・幼稚園教諭の役割を理解し、必要な能力について考え実践できる。
- ・幼稚園等の幼児教育制度を説明できる。
- ・地域との連携や保育の安全管理について説明する。
- ・「自分で考え、実践できる能力」(2)「実践について理解したり、分析したりすることができる」を身につける。

●評価方法

毎回提出されたリアクションペーパー、最終レポートから、知識の理解(30%)、専門的な考え方(30%)、自分で考え、実践できる能力(25%)、授業参加度(15%)で評価する。リアクションペーパーについては次回の講義で、最終レポートは評価後にそれぞれ講評と解説を行う。

●教科書・参考文献

(参)「専門職としての保育者」光生館、教育六法他参考文献は、適宜紹介する。

●授業内容

1. 社会における保育者の役割について
2. 保育者の仕事について
- 3～4. 保育者の役割について①～②
5. 幼稚園教諭の役割と能力について
- 6～8. 保育の制度について①～③
- 9～11. 保育に関わる法律について①～③
12. 保育における地域社会との連携について①
13. 安全管理と安全教育の取り組みについて
15. 保育中の事故、災害等の事例について
16. まとめ

●授業時間外の学習(必要な時間)

- (予習) 紹介した文献等を読むこと。(30分)
(復習) 配付資料と紹介した文献等を読むこと。(30分)

授 業 科 目		担 当 者
保育・教育課程論		小 林 浩 子
授業形態	単 位 数	開 講 時 期
講義	2	1 年次 後期
幼 免	保 育 士	主事任用
	●	

●テーマ・概要

保育所・幼稚園・認定こども園での仕事とはどんなことか、それらの社会的・制度的な意義づけとは？等を考えていく。この授業では教育課程・保育課程に基づき、子どもの実態や生活に即した保育の展開を可能にする指導計画の作成とその留意事項について、学生が実践につながる理解を深めていくことをめざす。

●到達目標

- ・「自分で考え、実践できる能力」(1)「現状をしっかりとらえることができる」を身につける。
- ・保育内容の充実と質の向上に資する保育の計画と評価について理解する。
- ・保育課程の編成と指導計画の作成について具体的に理解する。
- ・計画、実践、省察・評価、改善の過程についてその全体構造を動的にとらえ、理解する。

●評価方法

筆記試験と授業後に提出してもらったレポートにより、知識の理解の程度(60%)、「自分で考え、実践できる能力」(1)獲得の程度(30%)、授業参加度(10%)で評価する。レポート採点后、講評を行う。

●教科書・参考文献

- (教)「新保育課程・教育課程論」同文書院
 (教)「幼稚園教育要領」フレーベル館
 (教)「保育所保育指針」フレーベル館
 (教)「幼保連携型認定こども園保育要領」フレーベル館

教科書と資料により授業を進める。資料はその都度配付する。

●授業内容

- 1～2. 保育所、幼稚園の歴史と制度①～②
3. カリキュラムの基礎理論
4. 保育におけるPDCAサイクル
5. 「保育所の保育計画」「幼稚園の教育課程・指導計画」と「評価」の意義
6. 保育所以外の児童福祉施設における計画と評価の意義
7. 「保育所保育指針」と「幼稚園教育要領」
8. 「保育課程」と「指導計画」
9. 幼稚園の「教育課程」と「指導計画」
10. 子どもの発達と指導計画（長期的・短期的）の作成と留意点
- 11～12. 指導計画作成の具体例①～②
13. 認定こども園
14. 認定こども園における「指導計画」と「評価」
15. 保育所、幼稚園、認定こども園についてのまとめと学生レポートの講評

●授業時間外の学習（必要な時間）

- (予習) 次回授業で行う章を予習する。(30分)
 (復習) 今回授業で行った章を復習する。(30分)

授 業 科 目		担 当 者
視聴覚教育論		坂 部 忠 彦
授業形態	単 位 数	開 講 時 期
講義	2	1 年次 前期
幼 免	保 育 士	主事任用
	●	

●テーマ・概要

視覚と聴覚を効率良く組み合わせることにより、情報の保持吸収力は大幅にアップする。視聴覚教育は、様々な視聴覚機材を有効に利用することにより、効率的な教育を行うことを目的にしている。幼児教育者（保育者）が、幼児や保護者に情報をいかに効率良く伝達できるかを学ぶ作業でもある。

●到達目標

- ・視聴覚機材を使用し、企画、編集等のソフト制作を経験することで、幼児教育の現場での視聴覚機材の活用を容易に行うことができる。
- ・「コミュニケーション能力」(3)「伝え合う手段を見つけることができる」を身につける。

●評価方法

個人作品とグループ作品で各領域理解の程度(50%)、「コミュニケーション能力」(3)獲得の程度(35%)、授業参加度(15%)で評価する。個人作品とグループ作品は、作品発表会で講評し採点する。

●教科書・参考文献

- (参)「改訂視聴覚メディアと教育」佐賀啓男編著
 樹林房
 資料や材料はその都度配付する。教科書は使用しない。

●授業内容

1. 授業展開と評価方法説明、視聴覚教育論説明、ビデオソフト制作方法説明とカメラワークの紹介
 2. 映像表現方法紹介、OHP作品制作方法説明
 3. ビデオ実習『カメラ操作実習、企画会議』
 4. ビデオ実習『カメラ操作実習、シナリオ作成』
 5. ビデオ実習『取材リハーサル、小道具制作』
 6. ビデオ実習『取材本番、タイトル作成』
 7. ビデオ実習『編集』
 8. ビデオ実習『アフレコ、DVD作成』
 9. OHP実習『授業計画作成』
 10. OHP実習『企画』
 11. OHP実習『下絵』
 12. OHP実習『トレース、色付け』
 13. OHP実習『色付け』
 14. OHP実習『完成、試写、提出』
 15. 作品発表、まとめ
- 3～8. はグループ作品。9～14. は個人作品。
 クラスを4グループにわけて、2グループごとで前後交代する。

●授業時間外の学習（必要な時間）

映画やテレビを視聴する時、カメラワークやシナリオのメリハリがコミュニケーションにいかに関与しているのか知る習慣をつける。(30分)

授 業 科 目		担 当 者	
障害児保育		鏡 昭 子	
授業形態	単 位 数	開 講 時 期	
演習	2	2 年次 後期	
幼 免	保 育 士	主事任用	
★	●		

●テーマ・概要

たいていの場合、保育園や幼稚園は家庭の外で子ども達が初めて出会う集団の場です。人間は集団で生活しながら学び育っていきます。ごく普通の子も、何らかの弱さを持った子も、居場所を見つけ、友達を見つけて豊かに集団生活を楽しんでもらいたいの。その先導役になるのが保育士の先生方です。障がい児が、持っている力を十分に発揮し社会に親しんで行けるようになるために、子どもの特性に合わせてながら、どのように見守り、どのようにリードし、どのように社会ルールを示していけるか、授業や演習を通して学びながら考えましょう。

●到達目標

学生が以下のような知識や判断力、特性をとらえた対応力を獲得すること。

- ・「自分で考え、実践できる能力」(5)「自分の価値観に基づいて判断し、実践することができる」を身につける。
- ・子ども達の行動から、彼らの困り感や本当にしたいことを読み取れるようになる。その為の記録方法に習熟する。
- ・「わからなさ」や「できなさ」を助ける具体的な方法について学び実践できるようになる。
- ・模擬保育場面で保育士としての課題や子ども達の思いを感じ取れる(実践練習を予定)。

●評価方法

レポート、模擬保育の取組みで評価する。授業参加度(15%)、領域理解の程度(50%)、「自分で考え、実践できる能力」(5)獲得の程度(35%)、提出物を含む。課題(レポート)については、採点后、講評を行う。

●教科書

(参)「ライフステージを見通した障害児の保育・教育」株式会社みらい

●授業内容

1. オリエンテーション
2. 障害児保育の歴史・理念
3. 障害児保育の概念・現況
4. [子どもの発達のみちすじ]
5. 知的障害(障害の特性と対応)
6. 発達障害(障害の特性と対応)
7. 視覚・聴覚障害(障害の特性と対応)
8. 肢体不自由・重症心身(障害の特性と対応)
9. 知的障害 症例の分析・理解
10. 発達障害 症例の分析・理解
11. [子育てや保育で大切なこと] 又は障害児の保護者の話
12. 模擬保育リハーサル
13. 模擬保育・演習
14. 模擬保育・演習
15. 授業のまとめ・レポート作成

●授業時間外の学習(必要な時間)

- (予習) 自分の生活記録をとる。(30分)
(復習) 担当の障害の特性の対応を発表当日までまとめる。(30分)

授 業 科 目		担 当 者	
指導法の研究		大 関 嘉 成	
授業形態	単 位 数	開 講 時 期	
演習	2	1 年次 後期	
幼 免	保 育 士	主事任用	
●			

●テーマ・概要

幼児教育において育みたい資質・能力を理解し、具体的な保育場面を想定して計画の立案・演習を行い、評価する。

●到達目標

- ・実際の教材作成を通して当教材の可能性、実践上の注意点等を理解し、それを説明できる。
- ・幼児の発達を促し、なおかつ教師の個性を反映させた指導案を予測できる。
- ・保育実践とその研究法について説明できる。
- ・評価の意義と基本的な枠組みを説明できる。
- ・「自分で考え、実践できる能力」(2)「実践について理解したり、分析したりすることができる」を身につける。

●評価方法

毎時提出するワークシート、そして最終レポートから、各領域理解の程度(60%)、「自分で考え、実践できる能力」(2)獲得の程度(10%)、授業参加度(30%)で評価する。ワークシートは次回、最終レポートは最終回で、採点后、レビューする。

●教科書・参考文献

- (参) 幼少年教育研究所編(2010)「新版 遊びの指導 乳・幼児編」同文書院
(参) 文部科学省(2017)「幼稚園教育要領」
(参) 厚生労働省(2017)「保育所保育指針」
(参) 内閣府・文部科学省・厚生労働省(2017)「幼保連携型認定こども園教育・保育要領」

●授業内容

1. イントロダクションー教材研究とはー
2. 教材演習(1)「しゃぼん玉」
3. 教材演習(2)「スライム」
4. 教材演習(3)「びゅんびゅんごま」
5. 教材演習(4)「ストローとんぼ」
6. 教材演習(5)「ストローグライダー」
7. 教材演習(6)「光の万華鏡」
8. 評価の方法と役割
9. 各種評価尺度に基づく評価
10. 指導案の考え方
11. 指導案の書き方
12. 指導案の精緻化
13. 保育研究と実践記録の意義
14. 誤概念について
15. 総括

●授業時間外の学習(必要な時間)

- (予習) 演習に必要な道具・材料・案等を準備する。(30分)
(復習) 授業で行った演習資料、製作物を整理し、復習を行う。(30分)

授 業 科 目		担 当 者
保育内容研究 (健康)		高 桑 秀 郎
授業形態	単 位 数	開 講 時 期
演 習	1	2 年 次 前 期
幼 免	保 育 士	主 事 任 用
●	●	

●テーマ・概要

五領域の中心な側面を持つ領域「健康」。子どもの心身の発育・発達について一般的な傾向と相互影響について論じていく。保育士、幼稚園教諭が子ども達の生活や遊びを適切に支援・指導していく際の考え方やポイントについての理解を進めたい。

●到達目標

- ・子どもの心身の発育発達と領域「健康」が目指す指導内容について理解し、説明ができる。
- ・子どもの経験と育ちの相互関係に関する理解と指導における観点の説明ができる。
- ・授業に適切に参加し、授業内容の理解に努めている。
- ・「自分で考え、実践できる能力」(1)「現状をしっかりとりとえることができる」を身につける。

●評価方法

学期末の筆記試験から、専門的理解の程度(60%)、「自分で考え、実践できる能力」(1)獲得の程度(30%)、授業参加度(10%)で評価する。試験結果については、研究室にて個別開示、助言指導を行う。

●教科書・参考文献

- (教)「保育所保育指針・幼稚園教育要領ガイドブック」フレーベル館
 (参)保育内容「健康」建帛社
 (参)「幼保連携型認定こども園教育・保育要領」フレーベル館

●授業内容

1. 領域「健康」の考え方
2. 領域「健康」と他の領域の関係
3. 小学校教育と領域「健康」の関連性
4. 健康にかかわる子どもの生活実態
5. 体格の発達と生理機能の発達
6. 運動能力と動きの獲得
7. 生活習慣と動作の発達
8. 子どもに多い病気
9. 情緒・社会性の発達と運動
10. パーソナリティーの発達と運動
11. 運動経験とパーソナリティー形成の関係
12. 感覚運動的知能と概念的知能の発達と運動
13. 子どもの生活と運動
14. 全身的活動(運動遊び)と指導
15. 子どもの生活と指導
16. 筆記試験

●授業時間外の学習(必要な時間)

(予習) シラバス記載内容・幼稚園教育要領・保育所保育指針・認定こども園教育・保育要領の内容を確認しておく。(30分)

(復習) 配付した資料と板書内容を確認し、既習内容を確認する。(30分)

実習での子どもの観察の様子と授業で取り扱っている内容を関連付けて考える習慣をつける。(10分)

授 業 科 目		担 当 者
保育内容研究(人間関係)		太 田 裕 子
授業形態	単 位 数	開 講 時 期
演 習	1	2 年 次 前 期
幼 免	保 育 士	主 事 任 用
●	●	

●テーマ・概要

乳幼児期の人間関係の発達を学ぶとともに、人と関わる力を育む保育についての理解を深める。実習での体験や映像視聴の視聴、指導案の作成やグループ討議を通して学んでいきたい。

●到達目標

- ・幼稚園教育要領、保育所保育指針、幼保連携型認定こども園教育・保育要領の領域「人間関係」のねらいと内容を理解し、説明ができる。
- ・乳幼児期の人間関係の発達について理解し、説明ができる。
- ・人と関わる力を育むための保育を構想し、指導案の作成と改善を行うことができる。
- ・「コミュニケーション能力」(4)「対話する能力」を身につける。

●評価方法

最終レポートと毎回の授業後に提出する小レポートにより、乳幼児期の人間関係の発達、人と関わる力を育む保育についての理解の程度(70%)、「コミュニケーション能力」(4)獲得の程度(20%)、授業参加度(10%)で評価する。最終レポートについては、採点后講評する。

●教科書・参考文献

- (教)「幼稚園教育要領」フレーベル館
 (教)「保育所保育指針」フレーベル館
 (教)「幼保連携型認定こども園教育・保育要領」フレーベル館

また、授業中に適宜資料を配付する。

●授業内容

1. 子どもをとりまく人間関係
2. 領域「人間関係」のねらい及び内容
3. 遊びの中で育つ人との関わり
4. 領域「人間関係」における内容と指導上の留意点
5. 「自立心」「生活との関わり」に関する子どもの発達
6. 「協同性」「道徳性・規範意識の芽生え」に関する子どもの発達
7. 「人間関係」の特性及び子どもの体験との関連を考慮した教材の活用
8. 指導案の作成① 協同性を育む活動
9. 指導案の作成② 人と関わる力を育む活動
10. 保育実践の振り返りと改善
11. 子どもと保育者の関わり① 自立心の育ち
12. 子どもと保育者の関わり② 自己主張と他者理解の育ち
13. 子どもと保育者の関わり③ 協同性の育ち
14. 乳幼児期の人との関わりと、小学校以降の生活や教科とのつながり
15. 「人間関係」に関わる現代的課題と保育実践の動向

●授業時間外の学習(必要な時間)

(予習) 授業で扱う資料を読む。(20分)

(復習) 紹介した文献や配付資料を読む。(20分)

授 業 科 目		担 当 者	
保育内容研究 (環境)		大 類 豊太郎	
授業形態	単 位 数	開 講 時 期	
演習	1	1 年次 後期	
幼 免	保 育 士	主事任用	
●	●		

●テーマ・概要

幼児は、身の回りの事象について強い興味や関心を示し、それらに働き掛けることによって成長する。そのため保育者は、子どもと取り巻く事象のかかわり、事象そのものを理解することが大切である。本演習では、身近な事象の理解と子どもへの下ろし方を探る。

●到達目標

- ・領域「環境」の意義を考えることができる。
- ・身の回りの事象について、子どもの活動との関わりから、教材としての価値を探ることができる。
- ・グループごとに、1つの題材を担当し、教材化と指導法について、保育者としての模擬保育演習ができる。
- ・「自分で考え、実践できる能力」(2)「実践について理解したり、分析したりすることができる」を身につける。

●評価方法

担当した題材を用いた授業内での模擬保育活動実演、反省のレポート、保育活動の指導案により、身近な事象と保育活動との関わりについての理解の程度(65%)、「自分で考え、実践できる能力」(2)獲得の程度(20%)、授業参加度(15%)で評価する。レポート、指導案は、採点後講評を行う。

●教科書・参考文献

- (教)「保育内容環境の実践」伊神大四郎他
 (参)「幼稚園教育要領」フレーベル館
 (参)「保育所保育指針」フレーベル館
 (参)「幼保連携型認定こども園教育・保育要領」フレーベル館

●授業内容

1. 演習の概要、領域「環境」のねらいと内容について
2. 領域「環境」の内容の取扱い及びグループの分担演習について
3. 領域「環境」の保育活動と指導案について
4. 分担演習①
5. 同上 ②
6. 同上 ③
7. 同上 ④
8. 同上 ⑤
9. 同上 ⑥
10. 同上 ⑦
11. 同上 ⑧
12. 同上 ⑨
13. 同上 ⑩
14. 身近な素材と素材の教材化
15. 領域「環境」における子どもの活動について

グループごとに1題材を選択分担し、道具・材料等を準備し、子ども(級友)を相手に活動を指導し、効果的方法を探る。
 ・選択題材の例
 木の葉、木の実、色水、シャボン玉、積み木、磁石、砂と水、石、音、独楽、影、雪や氷、風船など

●授業時間外の学習(必要な時間)

- (予習) 模擬保育演習の教材研究(60分)と演習後の反省レポート。(30分)
 (復習) 領域「環境」についての保育実践案の作成。(60分)

授 業 科 目		担 当 者	
保育内容研究 (言葉)		柏 倉 弘 和	
授業形態	単 位 数	開 講 時 期	
演習	1	2 年次 前期	
幼 免	保 育 士	主事任用	
●	●		

●テーマ・概要

言葉とは何か。言葉の意味とは何か。人は言葉をどのようにして獲得するのか。普段何気なく使っている言葉であるが、改めて考えてみると色々な疑問が浮かんでくる。保育の場でより良いコミュニケーションをとるためにはどうすればいいのか、よく考えてみよう。

●到達目標

- ・記号や意味といった言葉の基本的性質を理解することができる。
- ・言葉の発達過程や幼児言語の特徴について理解し、言語感覚を豊かにする保育活動を考えることができる。
- ・幼児とより良いコミュニケーションをとるための方法について考えることができる。
- ・「コミュニケーション能力」(4)「対話する能力」を身につける。

●評価方法

授業中に行う演習により、言葉の性質や発達についての理解の程度(55%)、「コミュニケーション能力」(4)獲得の程度(30%)、授業参加度(15%)で評価する。演習のペーパーは、評価後、返却する。

●教科書・参考文献

- (参)「思考と行動における言語」S. I. ハヤカワ 岩波書店
 (参)「幼稚園教育要領」フレーベル館
 (参)「保育所保育指針」フレーベル館
 (参)「幼保連携型認定こども園教育・保育要領」フレーベル館

必要な資料等は、適宜配付する。教科書は使用しない。

●授業内容

1. ものと言葉、コミュニケーションについて
2. 「記号」、「意味」について
3. 「奇跡のひと」を観て考える
4. 伝達、文脈、定義
5. 幼児を取り巻く言語環境について
6. 幼児と絵本について
- 7~8. 実習の映像を見て、導入について考える
- 9~10. 言葉と信頼関係、通じ合いについて
11. 言葉と映像、音楽(アニメのテーマソング)
12. 言語感覚について
13. 保育と言葉
14. 伝えるということ
15. まとめの演習

●授業時間外の学習(必要な時間)

- (予習) 普段から言葉を意識して、話したり書いたりする。(30分)
 (復習) 自分の言葉について振り返る。(30分)

授 業 科 目		担 当 者	
保育内容研究（表現）		大木みどり、樋口健介、白崎直季	
授業形態	単 位 数	開 講 時 期	
演習	1	2 年次 前期	
幼 免	保 育 士	主事任用	
●	●		

●テーマ・概要

人間と人間、人間と自然、人間と動物というように、互いに響き合い、語り合うことが表現活動の根底にある。自分の心の世界を表現していくことは、現代の社会において心と心をつなげ、人間としての大切な他者の痛みまたは喜び悲しみを分かり合い、共に生きていくための真のコミュニケーションの道筋となっていく。

この講座では、様々な実践活動を通し、多様なコミュニケーションの在り方や課題を探っていく。

●到達目標

- ・自己表現力を引き出すための即興表現を重視した実践活動を通し、多様なコミュニケーションの方法を探り、実践することができる。
- ・総合的活動としての表現を様々な角度から実践的に体得する。
- ・幼児の豊かな感性と表現力を引き出すための指導法について考え、実践することができる。
- ・「コミュニケーション能力」(3)「伝え合う手段を見つけることができる」を身につける。

●評価方法

実技試験と筆記試験及び授業後に提出のレポート等により、保育内容研究（表現）の理解の程度(40%)、「コミュニケーション能力」(3)獲得の程度(30%)、授業参加度(30%)で評価する。レポートは、採点后、講評を行う。

●教科書・参考文献

- (参)「表現Ⅰ 感性と表現」「表現Ⅱ 音楽的表現」チャイルド社
- (参)「表現幼児音楽1・2」保育出版社
- (参)「保育の一日とその周辺」フレーベル館
- (参)「幼稚園教育要領」「保育所保育指針」「幼保連携型認定こども園教育・保育要領」(平成29年告示)フレーベル館

●授業内容

1. オリエンテーション
2. 感性と表現①
- 3～5. 心と体のリラクゼーション①～③
- 6～8. 表現遊び①～③ (即興表現活動)
- 9～10. 子どもの感性と表現②～③
- 11～14. 総合的表現活動①～④
15. まとめ (課題レポート作成)

●授業時間外の学習 (必要な時間)

- (予習) 参考文献や配付資料を読み、幼児期の表現や保育について理解する。(30分)
- (復習) 毎時の授業実践活動記録による振り返りから、自己の課題について把握する。(30分)

授 業 科 目		担 当 者	
子どもの生活と文化Ⅰ		柏 倉 弘 和	
授業形態	単 位 数	開 講 時 期	
演習	1	2 年次 後期	
幼 免	保 育 士	主事任用	
★	◎		

●テーマ・概要

現代社会では、子どもと大人のボーダーレス化が進んでいる面があるが、子どもにとっての文化は、まずもって遊びであり、それを十分に享受することが大切ではないだろうか。この授業では、子どもの生活や文化について遊びを通して考えていく。幼児を取り巻く環境は、遊びにどんな影響を与えるのか。どんな遊びを幼児は好むのか。実態を分析し、考えていきたい。

●到達目標

- ・幼児の生活や文化の実態を遊びを通して捉えることができる。
- ・幼児を取り巻く環境の特質や、遊びに与える影響について理解することができる。
- ・集団遊びを実践することができる。
- ・「自分で考え、実践できる能力」(3)「学際的な視点で考えることができる」を身につける。

●評価方法

授業中に行う演習により、遊びや幼児の生活、環境についての理解の程度(35%)、集団遊びの実践におけるPDCAの達成度(35%)「自分で考え、実践できる能力」(3)獲得の程度(20%)、授業参加度(10%)で評価する。演習のペーパーは、評価後、返却する。

●教科書・参考文献

- 必要な資料等は、適宜配付する。教科書は使用しない。
- (参)「これがボクらの新・子どもの遊び論だ」汐見稔幸・加用文男・加藤繁美 童心社

●授業内容

1. 遊びの性質について
2. 遊びの変化について
3. 幼児の生活の実態について
4. 幼児を取り巻く環境の変化について
5. 環境が遊びに与える影響について
6. 幼児番組について
- 7～8. 集団遊び(1)意義、特徴 (2)協力、工夫
- 9～10. 集団遊び(3)日案の作成 (4)実践の計画
- 11～12. 集団遊び(5)園での実践 (6)振り返り
13. 集団遊び(7)実践の改善
14. 集団遊び(8)園での再実践
15. 集団遊び(9)実践全体の振り返り

●授業時間外の学習 (必要な時間)

- (予習) 幼児の生活や遊びについて調べておく。(30分)
- (復習) 実習での自分の実践と比べてみる。(30分)

授業科目		担当者
子どもの生活と文化Ⅱ		大類 豊太郎
授業形態	単位数	開講時期
演習	1	2年次 前期
幼 免	保育士	主事任用
★	◎	

●テーマ・概要

幼児は、環境へ働き掛け、その反応をもとに自分の生活・文化をつくり、成長を続けている。保育者が、豊かな経験をもとに幼児と環境双方に関わることによって、幼児は、生活・文化をさらに広げ、より大きく成長していく。本演習では、身近な事象について、観察や操作を通して、子どもたちとの望ましい関わり方を探っていく。

●到達目標

- ・身近な素材を利用した活動を体験し、幼児の活動教材としての利用法・指導法を考えることができる。
- ・幼児の活動を支えるための材料の利用法、道具の操作法などの技能を身につける。
- ・「自分で考え、実践できる能力」(2)「実践について理解したり、分析したりすることができる」を身につける。

●評価方法

授業で製作した作品と道具、保育活動について作成した指導案により、身近な素材の保育活動における利用法・指導法についての理解の程度(65%)、「自分で考え、実践できる能力」(2)獲得の程度(20%)、授業参加度(15%)で評価する。指導案は、採点后講評を行う。

●教科書・参考文献

(参)「保育内容環境の実践」伊神大四郎他

●授業内容

1. 演習「子どもの生活と文化Ⅱ」の意義と内容
- 2.
- 3.
4. 「つくって遊ぶ」ことを中心に活動を取り上げる。
5. ・植物の栽培
6. 栽培して面白い植物、用土、肥料、手入れなど
7. ・野外観察
8. 道端の植物と小動物、草や木で遊ぶ、草花の葉
9. ・作って遊ぶ
10. 紙で作る動くもの
11. 木や竹で作る動くもの
12. ※季節や天候によって活動が制限されるので、前時に次時の予告をする。
- 13.
- 14.

15. 身近な自然を利用した活動についてのまとめ

●授業時間外の学習(必要な時間)

領域「環境」についての保育実践指導案の作成。(60分)

授業科目		担当者
子どもの生活と文化Ⅲ		高桑秀郎、太田裕子
授業形態	単位数	開講時期
演習	1	2年次 後期
幼 免	保育士	主事任用
★	◎	

●テーマ・概要

附属幼稚園の園児を短大の校舎に招いて、保育活動の実践を行う。複数回の実践を通し、計画・立案・実践・評価・改善のプロセスと教材研究能力、計画、準備段階での環境構成能力を養っていく。

●到達目標

- ・対象園児に適した保育活動をグループで企画・実践できる能力を身につける。
- ・協力者に的確な指示を与えるなど、保育活動に必要なマンパワーの掌握に関する能力を身につける。
- ・他者の保育活動の観察を通じ、他者の活動の反省を自己の計画に活かすことができるようになる。
- ・「学び続け、成長し続ける能力」(2)「実践の経験を再構築して、専門的知識・理解・技術へと高めることができる」を身につける。

●評価方法

授業中の活動の様子と提出物から、授業への参加度(30%)、「学び続け、成長し続ける能力」(2)獲得の程度(30%)、専門的理解の程度(40%)で評価する。提出物についてはコメントを入れて返却する。

●教科書・参考文献

(参)「実習ノート」羽陽学園短期大学実習委員会編

●授業内容

1. グループ保育活動のポイントと役割分担の重要性
2. 保育計画Ⅰ(グルーピングと保育のねらいの決定)
3. 保育計画Ⅱ(主たる活動と準備物)
4. 保育計画Ⅲ(保育教材の作成と準備)
5. 保育計画Ⅳ(実践に向けた準備計画の発表・他グループへの協力要請)
6. 実践保育Ⅰ-①(全員での準備と環境整備)
7. 実践保育Ⅰ-②(園児を招いての実践保育)
8. 反省と討論会(課題の明確化と次回への反映事項の把握)
9. 保育計画Ⅴ(実践に向けた準備計画の発表・他グループへの協力要請)
10. 実践保育Ⅱ-①(全員での準備と環境整備)
11. 保育実践Ⅱ-②(園児を招いての実践保育)
12. 反省と討論会(課題の明確化と次回への反映事項の把握)
13. 保育計画Ⅵ(実践に向けた準備計画の発表・他グループへの協力要請)
14. 実践保育Ⅲ-①(全員での準備と環境整備)
15. 保育実践Ⅲ-②(園児を招いての実践保育)
16. 反省と授業全体の統括

●授業時間外の学習(必要な時間)

(予習) 保育教材の準備・制作活動。(60分以上)
(復習) 改善した日案の作成。(60分)

授 業 科 目		担 当 者
臨床心理学		浅 倉 次 男
授業形態	単 位 数	開 講 時 期
演 習	2	2 年 次 前 期
幼 免	保 育 士	主 事 任 用
●	◎	

●テーマ・概要

保育・教育・福祉の実践に必要な『臨床心理学』について講義と演習を通じて学習する。特に幼児を対象とする職員にとって大切な人格形成、行動、知能、ストレス等の知識を身につけ心理支援を考える。この授業は将来自分の専門領域（仕事の対象）となる「人間」に関する内容なので能動的、主体的に講義、演習に臨ませたい。

●到達目標

- ・臨床心理学、特に人間関係構築に必要な知識を理解する。
- ・人格形成と行動について理解する。
- ・自己分析、自己理解、ストレス、発達障害について学習する。
- ・カウンセリング等の演習を通じて、「自分で考え、実践できる能力」(2)「実践について理解したり、分析したりすることができる」を身につける。
- ・発達障害、不適応行動について理解し、心理支援について考える。

●評価方法

提出されたレポートにより、専門的理解の程度(50%)、「自分で考え、実践できる能力」(2)獲得の程度(35%)、授業参加度(15%)で評価する。

●教科書・参考文献

(教)「子どもを理解する」へるす出版

(参)「よくわかる臨床心理学」ミネルヴァ書房

●授業内容

1. オリエンテーション、臨床心理学とは
2. 人間の心理（それぞれの立場からの心理）
（心身障害児、家族、専門家）専門家の心構えは
3. 人格形成と行動、知能について ヒトとサル
4. ストレスとうつについて
5. 自己理解について
交流分析（エゴグラム）の演習
6. カウンセリングの理論について
- 7～8. クライアント中心カウンセリングの演習①～②
9. 不登校とスクールカウンセリング
10. 発達障害と心理支援①小児自閉症、アスペルガー
11. 発達障害と心理支援②AD/HD、LD
12. 不適応行動と心理支援、不安と恐怖、PTSD
13. 難治性進行性疾患児（者）への心理支援
14. 老人の心理（認知症を含む）
15. まとめ

●授業時間外の学習(必要な時間)

(予習) 次回の授業について目を通しておく。(30分)

(復習) 前回学習した内容を確認しておく。(30分)

授 業 科 目		担 当 者
保育・教職実践演習(幼稚園)		柏倉弘和、高桑秀郎、花田嘉雄
授業形態	単 位 数	開 講 時 期
演 習	2	2 年 次 後 期
幼 免	保 育 士	主 事 任 用
●	●	

●テーマ・概要

幼児教育や保育は、理論や知識を学ぶだけでなく、実践することが大切であるが、その実践がなかなか難しい。なぜなら、幼児の状態を完璧に捉えたり、計画通りに完璧に実践することは至難の業であるからだ。実践力を高めるためには、他者の実践に学ぶことが有効である。実践記録を観て分析・考察することにより、実践力を向上させていきたい。

●到達目標

- ・実践の特徴について理解することができる。
- ・実践を分析する意義について理解することができる。
- ・他者の実践を観てしっかり捉え、分析することができる。
- ・「自分で考え、実践できる能力」(4)「実践における様々な問題を解決することができる」を身につける。

●評価方法

授業中の演習とレポートにより、実践の特徴や分析についての理解の程度(50%)、「自分で考え、実践できる能力」(4)獲得の程度(35%)、授業参加度(15%)で評価する。レポートは、採点后、返却する。

●教科書・参考文献

実習での実践の記録を使用する。その他の資料は、適宜配付する。教科書は使用しない。

(参)「専門家として教師を育てる」佐藤 学 岩波書店

●授業内容

1. 実践とは何か。実践の特徴について。
2. 実践分析について。実践分析①
3. 実践分析② 実践の事実を捉える。
4. 実践分析③ 子どもたちへの対応のしかたを中心に。
5. 実践分析④ 分析、考察、まとめ。
6. 学級経営について。春からの子どもたちとの信頼関係の構築の仕方。
7. 保育案作成の基本。
8. 実践分析⑤ 保育案から見た実践の分析。
9. 実践分析⑥ 保育案の再構成、ねらいとの整合性。
10. 実践分析⑦ 考察、まとめ。
11. 園行事を企画する① 役割分担。
12. 園行事を企画する② 子どもや保護者を意識したねらい、内容の設定。
13. 園行事を企画する③ 企画をまとめる。
14. 園行事を企画する④ 発表。
15. 人間関係の構築や保護者への支援について

●授業時間外の学習(必要な時間)

(予習) 日案等に実践の資料を読んでおく。(30分)

(復習) 授業で扱った実践と自分の実践を比べてみる。(30分)

授 業 科 目		担 当 者	
教育実習指導		実習委員会	
授業形態	単位数	開 講 時 期	
演習	1	1年次 前期	
幼 免	保育士	主事任用	
●			

●テーマ・概要

教育実習をはじめ、実習全般に関する意義や心構えの指導を行う。実り多い実習となるように、実習開始に向けて、一つ一つ着実に確認したい。なお、この授業は教育実習の必修5単位のうちの1単位になる。

●到達目標

- ・教育実習をはじめ、各実習の意義や内容、目的、心構えについて説明できる。
- ・実習を行う施設や実習の観察、実践、記録、評価の方法などについて具体的に説明できる。
- ・実習の開始に向けて、個々の課題を明確にする。
- ・「コミュニケーション能力」(3)「伝え合う手段を見つけることができる」を身につける。

●評価方法

レポート、提出物、実習ノートから、各領域理解の程度(60%)、「コミュニケーション能力」(3)獲得の程度(10%)、授業参加度(30%)で評価する。レポート、提出物、実習ノートは確認・採点の後、講評を行う。

●教科書・参考文献

(教)「実習ノート」羽陽学園短期大学実習委員会編

●授業内容

1. 実習の意義、実習の形態と方法
保育実習保育所・保育実習ⅡOR
2. 保育実習保育所・保育実習Ⅱ依頼事務
社会福祉実習OR
3. 実習の心構え
4. 様々な施設
5. 教育実習ⅠOR①
6. 幼稚園見学OR
7. 幼稚園見学
8. 記録の書き方
9. 実習生調書・実習のねらい①
10. 実習生調書・実習のねらい②
教育実習Ⅱ(附属外)・教育実習Ⅲ希望調査
11. 保育者になること
12. 手紙の書き方
13. 教育実習ⅠOR②
14. 保育技術について
15. まとめ

●授業時間外の学習(必要な時間)

- (予習) 実習ノート指定箇所を読む。(30分)
(復習) 実習ノート、配付物に基づく課題を着実に
行う。(30分)

授 業 科 目		担 当 者	
教育実習Ⅰ		実習委員会	
授業形態	単位数	開 講 時 期	
実習	1	1年次	
幼 免	保育士	主事任用	
●			

●テーマ・概要

本学で行う最初の実習となる。実習の開始にあたっては実習の意義や目的、心構えについて十分に理解して臨むこと。また、具体的な目標を持って実習に臨み、実習後には自分の学習課題を明確にしている。失敗を恐れず、実りの多い実習期間にしてほしい。

●到達目標

- ・幼稚園の概要、幼稚園教諭の勤務内容を説明できる。
- ・幼児の個性を知り、それに応じた関わりを試みる。
- ・観察したことを丁寧に記録できる。
- ・ねらいをもって絵本・紙芝居を選択し、また、幼児の関心を惹く読み聞かせを試みる。
- ・「自分で考え、実践できる能力」(1)「現状をしっかりとりとえることができる」を身につける。

●評価方法

附属幼稚園の評価、学内で課したレポート、提出物、日誌等から、各領域理解の程度(60%)、「自分で考え、実践できる能力」(1)獲得の程度(16%)、実習参加度(24%)で評価する。園評価・各種提出物の得点は全てフィードバックし、講評を行う。

●教科書・参考文献

(教)「実習ノート」羽陽学園短期大学実習委員会編

●授業内容

<実習内容>

- ・日課、幼稚園教諭の職務を観察を通して理解する。
- ・幼児の成長や遊びの実態について、観察・参加を通して理解する。
- ・実際に日誌を記入することにより、保育記録の取り方を身につける。
- ・絵本や紙芝居の読み聞かせを実践する。
- ・実習態度、保育指導能力の観点から自己評価を行い、自身の課題を明確化する。

●授業時間外の学習(必要な時間)

- (予習) 実習の意義や目的、心構えについて十分に確認すること。そして、体調共々、準備を整えておくこと。(30分)
(復習) 日誌を記入すること。(180分)

授 業 科 目		担 当 者	
教育実習Ⅱ		実習委員会	
授業形態	単 位 数	開 講 時 期	
実習	3	2年次	
幼 免	保育士	主事任用	
●			

●テーマ・概要

1年次の教育実習Ⅰを踏まえ、2年次で3週間の実習を行う。幼稚園教諭二種免許状取得のための必修科目である。幼稚園教諭としての保育実践力を身につけるとともに、自己の子ども観、保育観、望ましい保育者像を確立していくことを目指す。

●到達目標

- ・ 幼児の発達、個性を把握した上で、指導計画作成、保育実践、記録、評価、改善を適切に行うことができる。
- ・ 絵画、音楽、運動などの保育技能を高め、実践に活かすことができる。
- ・ 社会人としての責任、幼稚園教諭の職務の多様性とその重要性について認識し、説明ができる。
- ・ 「自分で考え、実践できる能力」(4)「実践における様々な問題を解決することができる」を身につける。

●評価方法

幼稚園からの評価と学内における提出物により、実習参加度(30%)、専門的技術の獲得の程度(20%)、専門的な考え方の獲得の程度(20%)、「自分で考え、実践できる能力」(4)獲得の程度(30%)で評価する。提出物等には、採点后、講評を行う。

●教科書・参考文献

(教)「実習ノート」羽陽学園短期大学実習委員会編

●授業内容

<実習内容>

- ・ クラス運営や行事に参加することで、幼稚園教諭に求められる資質・能力・技術・職務の多様性や重要性を理解する。
- ・ 園児との触れ合いを通して幼児の特性や一人一人の個性を理解し、適切な対応を実践する。
- ・ 幼児の実情の把握、教材研究を行い指導計画を作成し、部分実習や全日実習を実践することで、計画と実践の関係について学ぶ。
- ・ 実践についての記録を踏まえて自己評価を行い、自己課題と、目指す幼稚園教諭像を明確化する。
- ・ 子育て支援について理解を深め、幼稚園の役割を学ぶ。

●授業時間外の学習(必要な時間)

(予習) 指導計画の作成や教材研究を計画的に行い、実習に向けての準備を整えておく。
(30分)

(復習) 日誌を読み返し、実習内容を振り返る。
(30分)

授 業 科 目		担 当 者	
教育実習Ⅲ		実習委員会	
授業形態	単 位 数	開 講 時 期	
実習	2	2年次	
幼 免	保育士	主事任用	

●テーマ・概要

2年次の教育実習Ⅱに引き続き、2年次での2週間の実習を行う。幼稚園教諭二種免許状に関連する選択科目である。幼稚園教諭としての保育実践力を高めるとともに、自己の子ども観、保育観、望ましい保育者像を確立してほしい。

●到達目標

- ・ 幼児の発達、個性を把握した上で、指導計画作成、保育実践、記録、評価、改善を適切に行うことができる。
- ・ 幼児の個性を把握し、一人ひとりに即した対応を考え、実践することができる。
- ・ 絵画、音楽、運動等の保育技能及び教材の開発・研究能力を高め、実践に活かすことができる。
- ・ 社会人としての責任を認識するとともに、幼稚園教諭の職務内容とその意義についての見識をさらに深める。
- ・ 「フィードバック能力」(3)「実践中に瞬時に判断し、修正や改善をすることができる」を身につける。

●評価方法

幼稚園からの評価及び学内で課すレポート・実習日誌内容より、実習の参加度(20%)、専門的理解や実践力の程度(60%)、「フィードバック能力」(3)獲得の程度(20%)で評価する。レポート等には、採点后、講評を行う。

●教科書・参考文献

(教)「実習ノート」羽陽学園短期大学実習委員会編

●授業内容

<実習内容>

- ・ クラス運営や行事に参加することで、幼稚園教諭に求められる資質・能力・技術・職務の多様性や重要性を理解する。
- ・ 園児との触れ合いを通して幼児一人一人の個性を理解し、適切な対応をする。
- ・ 幼児の実情の把握、教材研究を行い指導計画を作成し、部分実習や全日実習を実践することで、計画と実践の関係について学ぶ。
- ・ 実践についての記録を踏まえて自己評価を行い、次の課題と、目指す幼児教育者像を明確にする。
- ・ 子育て支援についての理解を深め、幼稚園の役割を学ぶ。

●授業時間外の学習(必要な時間)

(予習) 指導計画の作成や教材研究を計画的に行い、実習に向けての準備を整えておく。
(30分)

(復習) 実習内容や、日誌を再読する。(30分)

授 業 科 目		担 当 者	
情報処理演習		松 田 知 明	
授業形態	単 位 数	開 講 時 期	
演習	2	2 年次 前期	
幼 免	保 育 士	主事任用	
●			

●テーマ・概要

私たちの生活とパソコンなどの情報機器とのかかわりは深くなっている。また、インターネット等のネットワークが広く社会に普及し、それが我々のコミュニケーション手段の一つとなっている。この講義では、幼児教育者として情報化社会へ対応できる能力と活用できる能力を習得できるようにしたい。

●到達目標

- ・情報化社会の仕組みの理解と倫理を理解し、説明できる。
- ・基本的なパソコンの操作とアプリケーションソフトの操作ができる。
- ・「コミュニケーション能力」(3)「伝え合う手段を見つけることができる」を身につける。

●評価方法

毎回提出された課題により、情報についての知識の理解の程度(60%)、「コミュニケーション能力」(3)獲得の程度(25%)、授業参加度(15%)で評価する。課題は、講評と解説を行います。

●教科書・参考文献

(参)「Word&Excel」ノア出版社
他参考文献は、適宜紹介する。

●授業内容

1. 保育と情報機器との関わりについて
- 2～3. コンピューターの基礎的操作①～②
- 4～10. 文書作成について①～⑦
- 11～13. インターネットの利用①～③
- 14～15. ホームページの作成①～②

●授業時間外の学習(必要な時間)

- (予習) 授業で紹介した資料等を読むこと。(30分)
(復習) 授業で操作したことを確認する。(30分)

授 業 科 目		担 当 者	
情報処理演習		松 田 知 明	
授業形態	単 位 数	開 講 時 期	
演習	2	2 年次 後期	
幼 免	保 育 士	主事任用	
●			

●テーマ・概要

私たちの生活とパソコンなどの情報機器とのかかわりは深くなっている。また、インターネット等のネットワークが広く社会に普及し、それが我々のコミュニケーション手段の一つとなっている。この講義では、幼児教育者として情報化社会へ対応できる能力と活用できる能力を習得できるようにしたい。

●到達目標

- ・情報化社会の仕組みの理解と倫理を理解し、説明できる。
- ・基本的なパソコンの操作とアプリケーションソフトの操作ができる。
- ・「自分で考え、実践できる能力」(3)「学際的な視点で考えることができる」を身につける。

●評価方法

毎回提出された課題により、情報についての知識の理解の程度(60%)、「コミュニケーション能力」(3)獲得の程度(25%)、授業参加度(15%)で評価する。課題は、講評と解説を行います。

●教科書・参考文献

(参)「Word&Excel」ノア出版社
他参考文献は、適宜紹介する。

●授業内容

16. 文書作成について⑧
- 17～23. 表計算について①～⑦
- 24～27. プレゼンテーション資料の作成について①～④
28. 課題作業① Word
29. 課題作業② Excel
30. 課題作業③ レポート作成

●授業時間外の学習(必要な時間)

- (予習) 授業で紹介した資料等を読むこと。(30分)
(復習) 授業で操作したことを確認する。(30分)

授 業 科 目		担 当 者	
保育原理		太 田 裕 子	
授業形態	単 位 数	開 講 時 期	
講 義	2	1 年次 前期	
幼 免	保 育 士	主事任用	
	●	○	

●テーマ・概要

「保育すること」には、どのような意味があり、どのような活動が含まれるのだろうか。子どもや家族を取り巻く社会環境の多様化が進む中で、保育者の果たすべき役割とは、どのようなものなのだろうか。保育についての基本的な知識や考え方を学び、保育に関わる問題に向き合っていきたい。

●到達目標

- ・保育の意義を捉え、保育活動、保育者の役割の多様性と重要性について理解し、説明ができる。
- ・保育に関する現状と課題について理解し、説明ができる。
- ・「コミュニケーション能力」(1)「人間や人間の生活、社会についての知識・理解」を身につける。

●評価方法

筆記試験と授業後に提出する小レポートにより、保育に関する社会環境や保育職の重要性についての理解の程度(70%)、「コミュニケーション能力」(1)獲得の程度(20%)、授業参加度(10%)で評価する。筆記試験については、採点后講評する。

●教科書・参考文献

- (教)「幼稚園教育要領」フレーベル館
 (教)「保育所保育指針」フレーベル館
 (教)「幼保連携型認定こども園保育要領」フレーベル館

●授業内容

1. オリエンテーション
2. 保育の歴史① 世界の保育
3. 保育の歴史② 日本の保育
4. 認可保育所と認可外保育所
5. 保育所、幼稚園、認定こども園の違い
6. 保育における領域の考え方
7. 保育の形態① 活動の仕方の違いによる形態
8. 保育の形態② 構成員の違いによる形態
9. 保育における行事の意味
10. 保育課程、教育課程と指導計画の考え方
11. 保育の記録
12. 保育の評価
13. 現代社会の保育に関する諸課題
14. 保育機関と家庭との連携の必要性
15. まとめ

●授業時間外の学習(必要な時間)

(予習) 指定された教科書の単元を読んでくる。
(20分)

(復習) 配付資料を読み、要点や疑問点を整理する。(30分)

授 業 科 目		担 当 者	
保育原理Ⅱ		海 和 宏 子	
授業形態	単 位 数	開 講 時 期	
講 義	2	2 年次 後期	
幼 免	保 育 士	主事任用	
	◎		

●テーマ・概要

改訂された保育所保育指針の重要なこととして「乳児保育」「1歳以上3歳未満児の保育」「3歳以上児保育」の3つに区分され、特に乳児保育に関しては「ねらい及び内容」が3つの視点に整理し明示された。このことは保育所保育の専門性や、保育の質が問われることである。また、保育者の保育力も子供に及ぼす影響が大きいことから、専門的な知識を習得すると同時にいろいろなことを学び、感性を磨きながら、保育者の自覚を高めていきたい。

●到達目標

- ・月齢及び年齢における子どもの発達過程を把握し、子ども理解を深める。
- ・「養護と教育の一体的保育」の内容を習得する。
- ・月案作成を通し「自分で考え、実践できる能力」
(1)「現状をしっかりとらえることができる」を身につける。

●評価方法

筆記試験、レポート内容により、保育に係る基本的な知識、専門職に取り組む姿勢の重要性等の認識や理解の程度(55%)、「自分で考え、実践できる能力」(1)獲得の程度(30%)、授業参加度(15%)で評価する。

●教科書・参考文献

- (参)「保育所保育指針」フレーベル館
 講義時にレジメを配付する。教科書は使用しない。

●授業内容

1. オリエンテーション
2. 新保育所保育指針の重点項目について
3. 保育所保育「養護と教育」の内容と一体的保育とは
 - ・乳児及び1歳以上3歳未満児の保育
 - ・保育所保育における幼児教育について
4. 子どもの発達のとらえ方、考え方
 - ・子どもの理解
 - ・子どもの行為
5. 保育の内容の保育の環境のポイント
6. 教育の全体計画とはどのようなことか
7. 月案作成の留意点
- 8～9. 月案作成の実践①～②
10. 保育の記録の留意点
11. 保育の省察と評価について
12. 保護者支援の必要性と対応について
13. 職員間の連携と役割について
14. 専門職の資質と高め方
15. まとめ
16. 筆記試験

●授業時間外の学習(必要な時間)

各授業の習得した事項の整理、及び確認の習慣をつける。

授 業 科 目		担 当 者	
児童家庭福祉		菅 原 温	
授業形態	単 位 数	開 講 時 期	
講義	2	1 年次 後期	
幼 免	保 育 士	主事任用	
	●		

●テーマ・概要

今、子どもたちを取り巻く社会環境、家庭環境は本当に豊かといえるだろうか。21世紀を担う子どもたちのために私たちは何をしなければならないかを、「児童の権利」という視点から学習したい。

●到達目標

- ・現代社会における児童福祉事業の重要性とその事業の機能と役割について理解し、説明ができる。
- ・児童福祉の発展過程、現状と課題・関わるしくみについて理解する。
- ・児童福祉の専門職としての責任感、専門性への意識を身につける。
- ・「コミュニケーション能力」(1)「人間や人間の生活、社会についての知識・理解」を身につける。

●評価方法

筆記試験と授業後に提出してもらったレポートにより、専門的理解の程度(60%)、「コミュニケーション能力」(1)獲得の程度(30%)、授業参加度(10%)で評価する。採点后、返却または解説を行う。

●教科書・参考文献

(教)「保育と児童家庭福祉(第2版)」みらい

(参)「保育福祉小六法最新版」みらい

●授業内容

1. オリエンテーション
2. 社会福祉と児童福祉
3. 子ども家庭の現状と課題：総論
- 4～5. 児童(子ども家庭)福祉の発展過程①～②
- 6～7. 児童(子ども家庭)福祉にかかわる法制度①～②
8. 各論的なVTRの視聴
9. 子ども家庭の現状と課題(各論)①貧困
10. 子ども家庭の現状と課題②ひとり親
11. 子ども家庭の現状と課題③障害児・難病
12. 子ども家庭の現状と課題④虐待・権利擁護
13. 子ども家庭の現状と課題⑤非行・情緒障害
14. 子ども家庭の現状と課題⑥健全育成・教育
15. これからの子ども家庭福祉 講義のまとめ

●授業時間外の学習(必要な時間)

授業内で配付されるプリントや課題の内容を確認する。少しずつでも教科書を読む習慣をつける。(30分)

授 業 科 目		担 当 者	
社会福祉概論		伊 藤 和 雄	
授業形態	単 位 数	開 講 時 期	
講義	2	1 年次 前期	
幼 免	保 育 士	主事任用	
	●	○	

●テーマ・概要

「福祉とは何か」と問われると、「高齢者問題」や「障がい者問題」あるいは、暗いイメージなど、様々思い浮かべてみるだろう。ここでは社会福祉の形成史と現状及び課題について理解したい。

●到達目標

- ・社会福祉事業の機能と全般について、基礎的知識を説明できる。
- ・社会福祉事業の機能と役割を理解し、社会福祉専門職としての保育士の責任と専門性を説明できる。
- ・「コミュニケーション能力」(1)「人間や人間の生活、社会についての知識・理解」を身につける。

●評価方法

授業におけるレポート・筆記試験及び出席状況により、専門的理解の程度(60%)、「コミュニケーション能力」(1)獲得の程度(25%)、授業参加度(15%)で評価する。試験採点后、講評を行う。

●教科書・参考文献

(教)「社会福祉概論」中央法規出版

●授業内容

1. オリエンテーション 現代社会と社会福祉
2. 社会福祉の歴史 欧米の社会福祉の歴史
3. 社会福祉の歴史 日本の社会福祉の歴史
4. 社会福祉法制の形成史と現状課題
5. 生活保護の形成史と現状課題
6. 子ども家庭福祉の形成史と現状課題
7. 障がい者福祉の形成史と現状課題
8. 高齢者福祉の形成史と現状課題
9. 母子・寡婦・父子福祉などの現状課題
10. 地域福祉の形成史と現状課題
11. 介護福祉の形成史と現状課題
12. 社会福祉従事者の形成史と現状課題
13. 社会福祉の展望
14. 社会福祉援助技術の形成史と現状課題
15. まとめ
16. 筆記試験

●授業時間外の学習(必要な時間)

- (予習) 次回行う単元部分の教科書を読む。(20分)
- (復習) 要点、キーワードをまとめる。(20分)

授 業 科 目		担 当 者	
相談援助		竹田雅彦、八柳律子	
授業形態	単位数	開 講 時 期	
演習	1	2年次 前期	
幼 免	保 育 士	主事任用	
	●		

●テーマ・概要

多様な生活環境にある保護者を、保育所や地域で支援することが期待されています。そのため、保育士にも相談援助の知識や理論の取得が必須となりました。相談援助の知識や理論を保育の現場でどう活用していけばよいのか、共に学びたいと思います。

●到達目標

- ・相談援助の概要や方法、技術及び具体的展開について理解できる。
- ・保育におけるソーシャルワークの応用と事例分析を通して、対象者への理解を深める。
- ・保護者などとの信頼関係構築のための知識、技術を習得できる。
- ・「自分で考え、実践できる能力」(3)「学際的な視点で考えることができる」を身につける。

●評価方法

課題やレポート等により、各領域理解の程度(80%)、「自分で考え、実践できる能力」(3)獲得の程度(10%)、出席状況及び授業態度(10%)で評価する。課題やレポートは採点后、講評や解説を行う。

●教科書・参考文献

(教)「相談援助」建帛社

●授業内容

1. 相談援助とは
- 2～4. 相談援助の概要①～③
- 5～8. 相談援助の方法と技術①～④
- 9～11. 相談援助の具体的展開①～③
- 12～14. 事例検討①～③
15. 保育士に求められる相談援助(まとめ)

●授業時間外の学習(必要な時間)

- (予習) 授業範囲の教科書を読んでおく。(20分)
(復習) 配付されたプリントや教科書にて学習内容を復習し、習得する。(20分)

授 業 科 目		担 当 者	
社会的養護		菅 原 温	
授業形態	単位数	開 講 時 期	
講義	2	1年次 前期	
幼 免	保 育 士	主事任用	
	●		

●テーマ・概要

社会で子どもを育むこと、これが社会的養護である。家庭が失われたり、障がいがあったり、不登校等で社会適応できなかつたりという子どもたちを支えるわが国の社会の仕組みが児童福祉であり、育む仕組みが社会的養護(児童養護)である。子どもたちの現状や専門職として求められるものについて一緒に学びたい。

●到達目標

- ・社会的養護の意義と目的、法(仕組み)を理解し、里親・各施設の養護の意義の理解ができる。
- ・保育士における社会的養護の倫理と責務、支援のあり方について理解する。
- ・「フィードバック能力」(1)「自分の実践について検証し、課題を見つけることができる」を身につける。

●評価方法

筆記試験と授業後に提出してもらったレポートにより、子どもにおける人間関係の重要性の理解の程度(60%)、「フィードバック能力」(1)獲得の程度(30%)、授業参加度(10%)で評価する。採点后、解説を行う。

●教科書・参考文献

(教)「保育と社会的養護の原理(第2版)」みらい
(参)「保育福祉小六法最新版」みらい

●授業内容

1. オリエンテーション 児童と社会的養護
2. 児童の養護と福祉 児童の生活の理解
3. 児童養護の法と制度 家庭養護と施設養護
4. 施設養護の体系
5. 施設養護の変遷
6. 施設養護の対象
7. 家庭養護
8. 児童の権利擁護と保育士の倫理及び責務
9. 各論的なVTRの視聴
10. 個別支援計画・日常生活支援の事例分析
11. 治療的支援に関する事例分析
12. 自立支援に関する事例分析
13. 記録及び自己評価
14. 保育士の専門性とソーシャルワークに関わる知識・技術とその応用
15. 社会的養護の課題と展望
16. 筆記試験

●授業時間外の学習(必要な時間)

授業内で配付されるプリントや課題の内容を確認する。少しずつでも教科書を読む習慣をつける。(30分)

授 業 科 目		担 当 者	
子どもの保健Ⅰ		小 林 美佐子	
授業形態	単 位 数	開 講 時 期	
講義	4	1年次 前期	
幼 免	保 育 士	主事任用	
	●		

●テーマ・概要

乳児期・幼児期は人間として育つ過程で、生物学的に精神的に又情緒的に最も成長著しい時期である。その時期を健やかに、そして子どもの持つ無限の可能性を引き出すために、その土台となる、子どもの各年齢に応じた発育・発達及び健康の概念等、基礎的知識を身につけることが大切である。今社会から求められている科学的根拠に基づいた保育が実践できる保育士になるために、各理論を通して共に学んでいきたい。

●到達目標

- ・子どもの健康と保健の意義を理解できる。
- ・子どもの心身の発育・発達について、年齢ごとの特徴が理解できる。
- ・子どもが罹り易い疾病とその特徴及び予防法について理解できる。
- ・地域における保健活動と児童虐待防止法について理解できる。
- ・「コミュニケーション能力」(1)「人間や人間の生活、社会についての知識・理解」を身につける。

●評価方法

筆記試験により各単元の理解の程度(60%)、「コミュニケーション能力」(1)獲得の程度(25%)、授業参加度(15%)で評価する。試験答案、レポートは採点后、講評を行う。

●教科書・参考文献

(教)「子どもの保健(第7巻)(改訂2版)」全国社会福祉協議会
 (教)「国民衛生の動向」厚生労働省統計協会
 (参)「子どもの保健－理論と実際－」同文書院
 その他関連資料は授業の中で配付する。

●授業内容

1. シラバスオリエンテーション
2. 生命の保持と情緒の安定に関わる保健活動
3. 健康の概念と健康指標
- 4～5. 地域における保健活動と虐待防止①～②
6. 生物としてのヒトの成り立ち
7. 身体発育と保健
8. 生理機能の発達と保健
- 9～10. 運動機能の発達と保健①～②
11. 精神機能の発達と保健
- 12～13. 子どもの健康状態の把握と疾病の特徴①～②
- 14～15. 子どもの疾病の予防と適切な対応①～②
16. 筆記試験

●授業時間外の学習(必要な時間)

- (予習) 前回の授業内容やプリントの既習内容を確認・整理する。(30分)
 (復習) 保育に関連した文献や新聞・雑誌等種々の情報誌を読み社会の動向を知る。(30分)

授 業 科 目		担 当 者	
子どもの保健Ⅰ		小 林 美佐子	
授業形態	単 位 数	開 講 時 期	
講義	—	1年次 後期	
幼 免	保 育 士	主事任用	
	●		

●テーマ・概要

乳児期は人として育つ過程で生物学的に、精神的に又情緒的に最も成長著しい時期である。その時期を健やかに生活するために、それぞれの子どもの発育・発達に応じた適切な保健環境を整えてあげることが求められている。保育現場の衛生管理や感染対策、事故防止対策そして職員間の情報の共有など、具体的な行動内容を知ることで、より保育士の役割が明確に認識できるよう、共に学びを深めていきたい。

●到達目標

- ・子どもの心の問題や発達障害、及び心身症について知ることができる。
- ・保育環境の整備及び衛生管理の必要性について理解できる。
- ・保育現場の事故防止対策や安全管理対策の必要性について理解できる。
- ・保育所職員間の連携及び家庭や地域との連携の必要性について理解できる。
- ・「自分で考え、実践できる能力」(1)「現状をしっかりとりとえることができる」を身につける。

●評価方法

筆記試験により各単元の理解の程度(60%)、「自分で考え、実践できる能力」(1)獲得の程度(25%)、授業参加度(15%)で評価する。試験答案、レポートは採点后、講評を行う。

●教科書・参考文献

(教)「子どもの保健(第7巻)(改訂2版)」全国社会福祉協議会
 (教)「国民衛生の動向」厚生労働省統計協会
 (参)「子どもの保健－理論と実際－」同文書院
 その他関連資料は授業の中で配付する。

●授業内容

17. 子どもの生活環境と精神保健
- 18～19. 子どものこころの健康とその課題
発達障害と心身症について①～②
20. 保育環境整備と保健
- 21～22. 保育現場における衛生管理
清掃・消毒について①～②
- 23～24. 保育現場における事故防止及び安全対策・
危機管理
子どもの事故の特性、安全教育①～②
25. 職員間の連携と組織的取り組み
26. 家庭・専門機関・地域との連携
27. 保健計画と作成及びその活用
28. 保健活動の記録と自己評価
29. 個別対応と子ども集団全体の健康と安全・衛生管理
- 30～31. 子育て支援対策と母子保健①～②
32. 筆記試験

●授業時間外の学習(必要な時間)

- (予習) 前回の授業内容やプリントの既習内容を確認・整理する。(30分)
 (復習) 保育に関連した文献や新聞・雑誌等種々の情報誌を読み社会の動向を知る。(30分)

授 業 科 目		担 当 者	
子どもの保健Ⅱ		柴 田 ふじみ	
授業形態	単 位 数	開 講 時 期	
演習	1	1 年次 後期	
幼 免	保 育 士	主事任用	
	●		

●テーマ・概要

子どもが健やかに成長発達する基本は健康である。演習を通じて、子どもの健康状態並びに発育・発達の把握、健康増進及び安全な環境を基礎とし、保育の場において実践できる応用的能力を養う知識と技術を教授する。

●到達目標

- ・子どもの成長・発達段階に応じた健康及び安全に関して保健活動の重要性を理解できる。
- ・保健活動の必要な実践的知識、技術を理解できる。
- ・子どもの疾病と予防の適切な対応を理解できる。
- ・緊急時の対応や事故防止、安全管理を理解できる。
- ・「自分で考え、実践できる能力」(2)「実践について理解したり、分析したりすることができる」を身につける。

●評価方法

演習態度・レポートにより、子どもの状態の把握と疾病時の対応についての理解の程度(50%)、「自分で考え、実践できる能力」(2)獲得の程度(30%)、授業参加度・態度(20%)で評価する。試験答案、レポートは採点后、講評を行う。

●教科書・参考文献

(教)「子どもの保健Ⅱ」医歯薬出版株式会社
(参)「国民衛生の動向」厚生労働省統計協会

●授業内容

1. オリエンテーション、保育における保健活動
2. 保健活動の計画及び評価・保健計画の作成
3. 保健活動の記録・健康状態の観察
4. 保健活動の記録・身体発育の測定方法
5. 保健活動の記録・評価の方法
6. 子どもの保健と環境・生活習慣と心身の健康
7. 子どもの保健と環境・発達援助と養護技術
8. 子どもの保健と環境・養護技術(調乳方法)
9. 子どもの保健と環境・養護技術(入浴方法)
10. グループ活動・保育実習からの学び
11. グループ発表(発表7分、質疑応答5分)
12. 子どもの疾病と適切な対応・感染症の予防と対策(予防接種、感染症の発生時の対応)
13. 救急処置及び救急蘇生法の習得・意義と手順
14. 救急処置及び救急蘇生法の習得・グループ演習
15. 応急処置・異物誤飲、気管内異物の場合の応急手技の演習(まとめ)

●授業時間外の学習(必要な時間)

・前期で学んだ「乳児保育」を復習して臨むこと。授業内に配付する資料の内容を再度確認し、主体的なものごとに取り組む姿勢を身につけよう。

(予習) 授業で扱う資料を読んでおく。(30分)

(復習) 他の関連資料も幅広く読んでみる。(30分)

授 業 科 目		担 当 者	
子どもの保健Ⅲ		小 林 美佐子	
授業形態	単 位 数	開 講 時 期	
講義	2	2 年次 後期	
幼 免	保 育 士	主事任用	
	◎		

●テーマ・概要

乳幼児が集団で生活する場所では、感染症の流行や事故の発生は避けきれない場合がある。そのため乳幼児の保育・教育に携わろうとする人は、集団を対象とした健康管理の在り方、特に病気や事故を未然に防ぐための対策、それらが発生した時の対応や危機管理等、迅速な対応を知っておくことが重要である。また保育は母子保健法の連携の上に成り立っていることも併せて学んでいきたい。

●到達目標

- ・これからの保育は、子どもの発達段階に応じた養護と教育を一体化した考えのもとで実践にあたらなければならないことを理解できる。
- ・子どもが基本的な生活習慣を身につけることは、自らのセルフケア能力を高めることに繋がるということが理解できる。
- ・子どもに多い事故の対応や救急・応急処置・予防対策を理解できる。
- ・「自分で考え、実践できる能力」(4)「実践における様々な問題を解決することができる」を身につける。

●評価方法

筆記試験により、各単元の理解の程度(65%)、「自分で考え、実践できる能力」(4)獲得の程度(20%)、授業参加度(15%)で評価する。レポートや試験答案は採点后、講評を行う。

●教科書・参考文献

(教)「子どもの保健(第7巻)(改訂2版)」全国社会福祉協議会

(教)「国民衛生の動向」厚生労働省統計協会
(参)「子どもの保健-理論と実際-」同文書院
その他関連資料は授業の中で配付する。

●授業内容

1. シラバスオリエンテーション
2. 保健における養護と教育の一体性
3. 子どもの健康増進と保育の環境
4. 子どもの生活習慣と心身の健康
5. 子どもの発達援助と保健活動
6. 体調不良や傷害が発生した場合の対応
7. 感染症の予防と対応・予防接種
8. 個別的な配慮を必要とする子どもへの対応
- 9~10. 乳児への適切な対応①~②
11. 障害のある子どもへの適切な対応
12. 事故防止及び健康安全に関する組織的取り組み
13. 救急処置及び救急蘇生法の習得
14. 保育における看護と応急処置
災害への備えと危機管理
15. 心と身体の健康問題と地域保健活動
16. 筆記試験

●授業時間外の学習(必要な時間)

(予習) 前回の授業内容やプリントの既習内容を確認・整理する。(30分)

(復習) 保育に関連した文献や新聞・雑誌等種々の情報誌等を読み、自分としての考えを纏める習慣をつける。(30分)

授 業 科 目		担 当 者	
子どもの食と栄養		中 村 美和子	
授業形態	単 位 数	開 講 時 期	
演習	2	1年次 前・後期	
幼 免	保 育 士	主事任用	
	●		

●テーマ・概要

食べることは小児期の特性である発育・発達の基礎となる。故に基本的理論を理解し、さらに実践力を身につけることが大切である。

●到達目標

- ・栄養バランスのとれた食生活とは何か、具体的な食事法を理解する。
- ・小児期の発育・発達と栄養の関係を理解し、離乳食・幼児食の実習を通し、各ステージにおける望ましい食べ方を学ぶ。
- ・子ども達に、食の大切さ・楽しさを指導する一つの方法として、食育紙芝居を作成する。
- ・「コミュニケーション能力」(1)「人間や人間の生活、社会についての知識・理解」を身につけるレポートは、採点后、講評して返却する。

●評価方法

課題レポートにより、専門的理解の程度(40%)、専門的修得度(40%)、「コミュニケーション能力」(1)獲得の程度(10%)、授業参加度(10%)で評価する。レポートは、採点后、講評して返却する。

●教科書・参考文献

(教)「子どもの食生活」ななみ書房

(教)「食品80キロカロリー成分表」女子栄養短期大学

●授業内容

- A. 小児栄養の意義と重要性
B. 実習オリエンテーション
- A. 子どもの食生活の現状と課題
B. レシピ・調理の基本の説明
- A. バランスのとれた食事法
B. 離乳食実習
- A. 四群点数法の成り立ち
B. 離乳食実習
- A. 四群点数法の基本
B. 離乳食実習
- A. 四群点数法の実践
B. 幼児食実習
- A. 母性の栄養
B. 幼児食実習
- A. 乳児期の栄養
B. 幼児食実習
- A. 乳児期の栄養
B. 行事食実習
- A. 離乳期の栄養
B. 食育の基本
- A. 離乳期の栄養
B. 食育紙芝居演習
- A. 幼児期の栄養
B. 食育紙芝居演習
- A. 学童期の栄養
B. 食育紙芝居製作発表
- A. 摂食機能について
B. 食育紙芝居製作発表
- A. まとめ
B. 食育紙芝居製作発表

●授業時間外の学習(必要な時間)

(予習) レシピに目を通し、教科書を読んでくる。
(30分)

(復習) 実習後は毎回レポートを作成してくる。
(30分)

授 業 科 目		担 当 者	
家庭支援論		伊 藤 和 雄	
授業形態	単 位 数	開 講 時 期	
演習	2	2年次 後期	
幼 免	保 育 士	主事任用	
	●	●	

●テーマ・概要

虐待、いじめ、不登校、引きこもりなど、子どもと家族をめぐる問題が深刻化している。このため保育所や施設の保育士にとって、家族への支援が重要な課題となっている。そこで、子どもと家族の問題や課題について理解したい。

●到達目標

- ・保育所の「子育て支援」を重要な社会的役割として理解し、児童・親を含めた家族が保育の対象であることを説明できる。
- ・種々の援助活動及び関係機関との連携についても説明できる。
- ・「自分で考え、実践できる能力」(1)「現状をしっかりとらえることができる」を身につける。

●評価方法

授業におけるレポート・筆記試験及び出席状況により「自分で考え、実践できる能力」(1)獲得の程度(25%)、専門的理解の程度(60%)、授業参加度(15%)で評価する。試験採点后、講評を行う。

●教科書・参考文献

(教)「家庭支援論」中央法規出版

●授業内容

- オリエンテーション 家族・家庭・世帯
- 家族の変容と社会的要因
- 家族機能の変化
- 現代の家族関係
- 社会の変容と子どもの育ち
- 子育て支援活動と保育所における活動
- 少子化対策と子育て支援サービス
- 要保護児童及びその家族に対する支援
- ひとり親家庭及び障がい児家庭への支援
- 子どもの虐待と早期発見
- 被虐待児と親に対する援助
- 養護・保育現場との関係機関
- 子育て支援サービスの課題
- 家族援助の実際
- まとめ
- 筆記試験

●授業時間外の学習(必要な時間)

(予習) 次回行う単元部分の教科書を読む。(30分)

(復習) 要点、キーワードをまとめる。(20分)

授 業 科 目		担 当 者	
保育内容総論		花 田 嘉 雄	
授業形態	単 位 数	開 講 時 期	
演習	1	2 年次 前期	
幼 免	保 育 士	主事任用	
	●		

●テーマ・概要

保育に関わる全般的なことを学ぶ授業になります。皆さんは既に幼稚園で1週間、保育所で2週間の実習を経験していますから、その保育現場での経験をもとに更に次のステップアップを図ります。保育に関わる事例について、グループごとに各自の経験を話し合いながら解決法を探ることにより、自分自身の保育観を養ってもらいたいと思います。また、責任実習に向けた日案作成のポイントを理解してもらいたいと思います。

●到達目標

- ・保育所保育指針の内容を大筋で理解する。
- ・現在の保育が抱える諸問題を考察する。
- ・遊びをもとにした保育内容と5領域（健康・人間関係・環境・言葉・表現）とのつながりを考えながら、指導計画（日案）を立案する。
- ・「自分で考え、実践できる能力」(2)「実践について理解したり、分析したりすることができる」を身につける。

●評価方法

レポートや課題等の提出物による専門知識の理解や考え方の程度(60%)、授業参加度(15%)、責任実習の振り返りによる「自分で考え、実践できる能力」(2)獲得の程度(25%)で評価する。レポートや日案等は、採点后、添削して返却、または講評を行う。

●教科書・参考文献

(教)「保育所保育指針」フレーベル館
(参)「実習ノート」羽陽学園短期大学実習委員会編
(参)「保育をひらく造形表現」萌文書林

●授業内容

1. オリエンテーション
2. 保護者との関わりについて
3. 環境を通して行う保育
- 4～6. 保育内容の研究①～③
- 7～8. 指導計画（日案）を作成する①～②
9. 保育実習Ⅱの責任実習を振り返る
10. 災害対策について
11. 幼保一体化について
12. 子ども・子育て支援新制度について
13. 地域や小学校との連携について
14. 園行事について招待状を作る
15. 園だより（行事の招待状）を作る（後日提出）

●授業時間外の学習（必要な時間）

- (予習) 保育所保育指針を読んでおく。保育内容を考える (30分)
(復習) 授業の振り返り、課題の作成をする。(30分)

授 業 科 目		担 当 者	
乳児保育		柴 田 ふ じ み	
授業形態	単 位 数	開 講 時 期	
演習	2	1 年次 前期	
幼 免	保 育 士	主事任用	
	●		

●テーマ・概要

母親の就業率増加や出生率の低下により様々な少子化対策が講じられる中で、乳児保育の必要性が社会的にも高まってきている。乳児（3歳児未満）の発育・発達の特徴を理解し、日常生活における保育者の援助について教授する。

●到達目標

- ・乳児保育の現状や課題について理解できる。
- ・乳児の心身の発育・発達、乳児保育のあり方が理解できる。
- ・乳児の事故防止・安全について理解できる。
- ・「コミュニケーション能力」(1)「人間や人間の生活、社会についての知識・理解」を身につける。

●評価方法

筆記試験とレポートにより、乳児の状況の把握方法や発達の過程、養護の方法についての理解の程度(70%)、「コミュニケーション能力」(1)獲得の程度(20%)、授業参加度(10%)で評価する。試験答案、レポートは採点后、講評を行う。

●教科書・参考文献

(教)「やさしい乳児保育（第7版）」青踏社
(参)「国民衛生の動向」厚生労働省統計協会

●授業内容

1. オリエンテーション 乳児保育について
2. 母子保健施策の概要・母子健康手帳の理解
3. 乳児と保育園の一日
4. 乳児の発達と保育内容（6ヵ月未満）
5. 乳児の発達と保育内容（1歳3ヵ月未満）
6. 乳児の発達と保育内容（2歳未満）
7. 乳児の発達と保育内容（概ね2歳の保育）
8. 乳児保育の環境
9. 乳児保育における保健活動・乳児の病気と対応
10. 事故防止と安全・手洗いの演習
11. 乳児保育と連携・保護者や地域との連携
12. 家庭における子育て・養育の現状
13. 保育所における保育支援
14. 児童虐待に対する保育所の対応・発見ポイント
15. まとめ
16. 筆記試験

●授業時間外の学習（必要な時間）

授業内に配付する資料の内容を再度確認し、主体的にものごとに取り組み姿勢を身につけましょう。
(予習) 授業で扱う資料を読んでおく。(30分)
(復習) 他の関連資料も読んでみる。(30分)

授 業 科 目		担 当 者	
社会的養護内容		伊 藤 和 雄	
授業形態	単 位 数	開 講 時 期	
演習	1	2 年次 前期	
幼 免	保 育 士	主事任用	
	●		

●テーマ・概要

児童福祉施設への道を志す皆さん、今、現場では日常の児童養護、障がい児療育の援助を高めることが求められています。この授業では、日常の活動に流されがちな施設養護を福祉の技術を生かした実践に高められるよう、共に考えてみたいと思います。

●到達目標

- ・児童福祉施設における施設養護の基本原則、養護の技術と方法、日常生活指導及び施設職員の支援、地域ネットワーク作り等についての視点を説明できる。
- ・「自分で考え、表現できる能力」(2)「実践について理解したり、分析したりすることができる」を身につける。

●評価方法

筆記試験と提出してもらった課題レポートより、領域理解の程度(60%)、「自分で考え、表現できる能力」(1)獲得の程度(25%)、授業参加度(15%)で評価する。試験採点后、講評を行う。

●教科書・参考文献

(教)「社会的養護内容」中央法規出版

●授業内容

1. オリエンテーション 児童の社会的養護とは何か
 2. 施設養護の目的と機能
 3. 援助(社会的養護)の内容
 - 4～5. 援助(社会的養護)の理念①～②
 6. 児童福祉施設保育士としての資質・倫理
 7. 児童福祉施設保育士としての専門援助技術
 8. 相談援助とは(ソーシャルワークと保育)
 9. 相談援助の方法と技術
 - 10～11. 相談援助の展開①～②
(計画・記録・評価・関係機関との協働)
 12. 実習事例に基づく個別援助計画の作成
 13. 実習事例に基づくグループディスカッションと報告
 14. 視聴覚資料から学ぶ
 15. まとめ
 16. 筆記試験
- 授業時間外の学習(必要な時間)
(予習) 次回行う単元部分の教科書を読む。(20分)
(復習) 要点、キーワードをまとめる。(20分)

授 業 科 目		担 当 者	
保育相談支援		竹田雅彦、八柳律子	
授業形態	単 位 数	開 講 時 期	
演習	1	2 年次 後期	
幼 免	保 育 士	主事任用	
	●		

●テーマ・概要

保護者を受け止め、寄り添うということは、なかなか難しいことです。専門的知識・技術、倫理・価値等、保育に関する専門性に基づいた保護者支援を学び、保護者に信頼され子どもの最善の利益を護れる保育者となれるよう、共に学びたいと思います。

●到達目標

- ・保育相談支援の実際を学び、意義や原則、内容や方法を理解できる。
- ・保護者支援の基本及び保育所等児童福祉施設における保護者支援の実際について理解できる。
- ・保護者などとの信頼関係構築のための知識、技術を習得できる。
- ・「自分で考え、実践できる能力」(5)「自分の価値観に基づいて判断し、実践することができる」を身につける。

●評価方法

課題やレポートによる各領域理解の程度(80%)、「自分で考え、実践できる能力」(5)獲得の程度(10%)、出席状況及び授業態度(10%)で評価する。課題やレポートは採点后、講評や解説を行う。

●教科書・参考文献

(教)「保育相談支援」建帛社

●授業内容

1. 保育相談支援とは
 2. 保育相談支援の意義
 - 3～6. 保育相談支援の基本①～④
 - 7～10. 保育相談支援の実際①～④
 - 11～14. 児童福祉施設における保育相談支援①～④
 15. 保育士に求められる保育相談支援(まとめ)
- 授業時間外の学習(必要な時間)
(予習) 授業範囲の教科書を読んでおく。(20分)
(復習) 配付されたプリントや教科書にて学習内容を復習し、習得する。(20分)

授 業 科 目		担 当 者	
児童文化		阿 部 かをり	
授業形態	単 位 数	開 講 時 期	
講義	2	1 年次 前期	
幼 免	保 育 士	主事任用	
	◎		

●テーマ・概要

子どもたちにとって、絵本やペープサート等の教材は様々な情緒面を育てる大切な環境設定です。子どもたちが日々の生活の中でどのように成長していくのか、現場目線で見えてきた様子を紹介しながら、未来の保育士として今できることを一緒に学んでいきましょう。

●到達目標

- ・子どもの育ちの理解と育ちに合ったおもちゃとの関わりがわかる。
- ・手作りおもちゃ等の発表を通し、子どもを引きつける方法を身につける。
- ・グループワークや絵本・紙芝居の読み聞かせを通して、「コミュニケーション能力」(3)「伝え合う手段を見つける」を身につける。

●評価方法

手作りおもちゃ、絵本・紙芝居等の発表内容、レポートにより、児童文化の理解の程度(50%)、「コミュニケーション能力」(3)獲得の程度(35%)、授業参加度(15%)で評価する。

●教科書・参考文献

(参)「児童文化論」同文書院

(参)「保育所保育指針」フレーベル館

●授業内容

1. オリエンテーション
2. 児童文化の理解と伝承あそび
3. こどもの育ちとあそび
4. こどもと絵本
- 5～7. 手作りおもちゃの製作①～③
8. 絵本の選び方と読み聞かせ
9. イメージの共有と広がり
10. 「読み聞かせ」に取り組む
- 11～14. 「読み聞かせ」手作りおもちゃの発表・合評会①～④
15. まとめ

●授業時間外の学習(必要な時間)

毎回の授業の復習をする。絵本、ペープサート等を使ってみたり、おもちゃを作ってみたりなど、実習や現場で使える自分の財産を増やしてください。

授 業 科 目		担 当 者	
保育実習指導 I		実習委員会	
授業形態	単 位 数	開 講 時 期	
演習	2	1年次 後期(一部集中)	
幼 免	保 育 士	主事任用	
	●		

●テーマ・概要

実習は目指してきたことの実践の場であり、学外の施設で行うので、誰もが緊張し、不安を感じるが、不安を払拭し、自信をもって実習に臨めるように多様なプログラムを準備して学生を支援・指導していく。

●到達目標

- ・各種の施設の特徴や機能の違いを理解する。
- ・学習依頼の方法を学び、対社会への礼節を理解する。
- ・実習の意義を理解し、深い学びを実現する。
- ・事前事後指導を徹底し、実習を有益なものにする。
- ・「自分で考え、実践できる能力」(2)「実践について理解したり、分析したりすることができる」を身につける。

●評価方法

各領域理解の程度(20%)、専門的技能習得度(20%)、「自分で考え、実践できる能力」(2)獲得の程度(30%)、授業参加度(15%)、技能習得の努力度(15%)で評価する。レポート等には採点后、講評を行う。

●教科書・参考文献

(教)「実習ノート」羽陽学園短期大学実習委員会編

●授業内容

1. 保育実習指導OR、施設見学OR
2. 施設見学OR
- 3～6. 施設見学①～④
7. 施設見学の振り返り
8. 保育所実習(保育実習保育所・保育実習Ⅱ)OR施設実習(保育実習施設・保育実習Ⅲ)OR教育実習ⅢOR
9. 教育実習IOR(日誌の書き方)保育所実習OR(保育所保育指針について)
10. 保育所実習OR、施設実習OR(希望調査)教育実習ⅢOR(調査)
11. 教育実習IOR(附属主任)
12. 教育実習I直前指導
13. 感染症とその予防について
14. 保育所実習OR(園長講話)
15. 実習報告会(保育実習保育所・1年次対象)
16. 日案指導(含教育実習I事後指導)(附属主任)
17. 保育実習保育所 直前指導(全体指導・巡回者による直前指導)
18. 手紙と敬語 保育実習保育所 事後指導(全体指導)
19. 教育実習Iの振り返り・VTR「教育実習Ⅱ」
20. 施設実習OR(調整・Ⅲ希望調査)教育実習ⅢOR(依頼事務)
21. 保育実習保育所 巡回者による事後指導
22. 保育実習保育所の振り返り(全体指導)
- 23～24. 実習報告会(全種別・全学年対象)①～②
25. 施設実習OR(施設長講話)
26. 施設実習直前指導(全体指導・施設種別ごとの指導・巡回者による個別指導)
- 27～29. 日案作成演習①～③
30. まとめ

●授業時間外の学習(必要な時間)

(予習) 授業で扱う内容・資料に目を通しておく。(30分)

(復習) 授業内容を読み返しておく。(30分)

授 業 科 目		担 当 者	
保育実習保育所		実習委員会	
授業形態	単 位 数	開 講 時 期	
実習	2	1 年次	
幼 免	保 育 士	主事任用	
	●		

●テーマ・概要

自宅から通勤可能な、認可保育所での2週間の実習である。実習は、短大の勉強だけでは学ぶことのできない大切なことを実際に現場で学ぶチャンスである。明るく元気に積極的に子どもと関わり、体験を通して様々なことを学んでほしい。

●到達目標

- ・ 保育所の生活に参加し、1日の流れを理解する。
- ・ 保育所や保育士の職務全般について体験を通して理解する。
- ・ 保育士としての言葉遣い、姿勢、倫理観を学ぶ。
- ・ 各月齢の子どもと関わり、発達段階や子どもの個性についての理解を深める。
- ・ 読み聞かせ等の部分実習を経験して、保育技術を習得する。
- ・ 子どもとの関わりや部分実習を通して「フィードバック能力」(1)「自分の実践について検証し、課題を見つけることができる」を身につける。

●評価方法

保育所からの評価表、実習日誌の内容、事前事後指導の内容により各領域理解の程度(20%)、専門的技術習得度(40%)、「フィードバック能力」(1)獲得の程度(20%)、実習参加度(10%)で評価する。提出物には、採点后、講評を行う。

●教科書・参考文献

(教)「実習ノート」羽陽学園短期大学実習委員会編

●授業内容

<実習内容>

- ・ 環境整備、清掃の必要性を理解し、実践する。
- ・ 各年齢のクラスに入り、保育士の援助や子どもの行動を観察し、関わりを持つ。
- ・ 自由遊び等での援助に参加する。
- ・ 保育士の指導の下、養護及び生活面における援助を実践する。
- ・ 紙芝居、手遊びなどの部分実習を実践する。
- ・ 子どもの実態や保育活動を全般的に正しく記録する。

●授業時間外の学習(必要な時間)

(予習) 部分実習の準備。(30分)

(復習) 日々の実習の振り返りと日誌の記入。(30分)

授 業 科 目		担 当 者	
保育実習施設		実習委員会	
授業形態	単 位 数	開 講 時 期	
実習	2	1・2年次	
幼 免	保 育 士	主事任用	
	●		

●テーマ・概要

入所施設・通所施設での2週間の実習になる。施設は、施設利用者(児)にとっては生活の場であり、活動の場でもある。施設保育士として、施設利用者(児)と利用者の生活を援助していく。本実習を通して、自己の保育観を改めて見つめ直し、より望ましい、保育士像の再構築を目指す。

●到達目標

- ・ 施設の業務に参加し、実践することで、施設の社会的役割の理解を深め、施設保育士の業務内容を把握し、適切に実践できるようになる。
- ・ 施設利用者(児)と各種活動を通じて関わり、対象の理解を進め、適切なコミュニケーションが図れるようになる。
- ・ 施設利用者(児)のニーズを理解し、状況に応じ、適切な生活支援ができるようになる。
- ・ 施設利用者(児)との関わりを通じて、「コミュニケーション能力」(4)「対話する能力」に拡がりを作り、伸ばす。

●評価方法

実習施設の評価、実習報告書の完成度、記入された日誌の充実度、各種提出物の提出状況等から、総合的に、専門的理解の程度(60%)、「コミュニケーション能力」(4)獲得の程度(20%)、実習参加度(10%)で評価する。実習報告会報告者は加点あり。提出物には、採点后、講評を行う。

●教科書・参考文献

(教)「実習ノート」羽陽学園短期大学実習委員会編
(参)過去の施設実習実習報告書(図書館・施設担当教員)

●授業内容

<実習内容>

- ・ 施設で行われている業務に参加し、実践する。
- ・ 入所施設においては、職員の指導の下、利用者(児)の日常生活活動を支援し、自立に向けた援助を行う。
- ・ 施設利用者(児)と各種活動を通じて、コミュニケーションを図り、対象の理解を進める。
- ・ 施設内でのミーティング、研修等を通じて、施設保育士に求められる能力・資質についての理解を深める。
- ・ 実習内容を適切に記録し、活動についての省察を行う。

●授業時間外の学習(必要な時間)

(予習) 先輩の実習報告書に目を通し、実習内容の把握に努める。

自分が行く実習種別について、教科書等や施設のホームページを参考に、施設の理解、利用者の特性などについて、あらかじめ理解を深めておく。(30分)

(復習) 将来の就業を念頭に、日誌等を読み返す。(30分)

授 業 科 目		担 当 者	
保育実習指導Ⅱ		実習委員会	
授業形態	単 位 数	開 講 時 期	
演習	1	2年次 前・後期	
幼 免	保 育 士	主事任用	
	●		

●テーマ・概要

更なる深い実践の場としての種々の実習に向けての、事前や事後に於ける様々な指導を行い、保育士としての能力が高まるようなプログラムを準備し、学生を導いていく。

●到達目標

- ・各種の施設での更なる内容の濃い実習に対応できるようになる。
- ・事後指導によって実習を振り返り、学習の手助けとする。
- ・「フィードバック能力」(2)「見つけた課題について修正や改善をすることができる」を身につける。

●評価方法

毎回の出席の様子やレポートの内容により、各領域理解の程度(20%)、専門的技能習得度(20%)、「フィードバック能力」(2)獲得の程度(30%)、授業参加度(15%)、技能習得の努力度(15%)で評価する。レポート等には、採点后、講評を行う。

●教科書・参考文献

(教)「実習ノート」羽陽学園短期大学実習委員会編

●授業内容

1. 施設実習事後指導(全体指導と巡回者による個別指導)
2. 保育実習ⅡOR(含 ねらいと調書)
3. 附属幼稚園主任による模擬保育・日案指導
4. 保育実習ⅡOR(責任実習について)
5. 保育実習Ⅱ事前指導(巡回者による個別指導)
6. 教育実習ⅡOR(附属園主任による全体指導・巡回者による個別指導)
7. 教育実習ⅡOR(ねらいと調書・日案指導)
8. 保育実習Ⅱ事後指導(巡回者による個別指導)
9. 教育実習ⅡOR(日案指導)
10. 教育実習Ⅱ事前指導(巡回者による指導)
11. 施設実習事前指導・教育実習Ⅲ事前指導(巡回者による個別指導)
12. 教育実習Ⅱ事後指導(全体指導・巡回者による個別指導)
13. 施設実習事後指導・教育実習Ⅲ事後指導(巡回者による個別指導)
14. 保育実習Ⅱ事後指導(全体指導)
15. 講話「里親制度について」
16. まとめと授業評価
- 17～18. 実習報告会①～②

●授業時間外の学習(必要な時間)

- (予習) 毎回の授業で扱う資料に目を通しておく。(30分)
- (復習) 毎回の授業内容を、読み返し、振り返る。(30分)

授 業 科 目		担 当 者	
保育実習Ⅱ		実習委員会	
授業形態	単 位 数	開 講 時 期	
実習	2	2年次	
幼 免	保 育 士	主事任用	
	■		

●テーマ・概要

1年次の実習と同じ保育所(施設側の都合により変更する場合もある)での2度目の実習である。昨年よりも更に子どもと積極的に関わって保育を実践し、保育者や子どもから学び、また自分の経験や失敗からも学び、それらを生かして今後につなげよう。

●到達目標

- ・保育全般に参加して、日々の保育のつながりを理解して子どもと関わることができる。
- ・子どもの個人差について理解し、関わりを通して一人一人に合わせた援助方法を学ぶ。
- ・指導計画(日案)を立案し、最後まで実践する。
- ・実践を振り返り、保育士としての課題を明確にすることにより、「自分で考え、実践できる能力」(4)「実践における様々な問題を解決することができる」を身につける。

●評価方法

保育所からの評価表、実習日誌の内容、事前事後指導の内容により、各領域理解の程度(20%)、専門的技能習得度(40%)、「自分で考え、実践できる能力」(4)獲得の程度(20%)、実習参加度(10%)、技能習得の努力度(10%)で評価する。提出物には、採点后、講評を行う。

●教科書・参考文献

(教)「実習ノート」羽陽学園短期大学実習委員会編

●授業内容

<実習内容>

- ・担当するクラスに入り、保育士に合わせて養護及び生活面における援助を実践する。
- ・朝の会、帰りの会等の部分実習を実践する。
- ・保護者や地域との連携の方法について、観察を通して学ぶ。
- ・対象年齢に合わせた指導計画(日案)を立案する。
- ・指導計画を基に、全日(責任)実習を1回以上実践する。
- ・自らが行った保育活動について適切に記録し、課題を見つける。

●授業時間外の学習(必要な時間)

- (予習) 日案作成等、責任実習の準備。(30分)
- (復習) 日々の実習の振り返りと日誌の記入。(30分)

授 業 科 目		担 当 者	
保育実習指導Ⅲ		実習委員会	
授業形態	単 位 数	開 講 時 期	
演習	1	2 年次	
幼 免	保 育 士	主事任用	
	■		

●テーマ・概要

施設就職希望者を中心に行う保育実習Ⅲ履修者を対象として実施する。前後期にまたがった非定期的集中授業形式での実習指導になる。少人数での開講が予測されることから、ゼミ形式で綿密で丁寧な指導を進めていく。施設利用者支援の理解を深めることを目指す。

●到達目標

- ・施設の特徴や機能の違いについての理解を深める。
- ・実習を通じた主体的な学びの過程に気づき、確認する。
- ・実習を通じて学んだ成果について発表し、発表会を通じて、他者の学びについても気づくことができる。
- ・「学び続け、成長し続ける能力」(2)「実践の経験を再構築して、専門的知識・理解・技術へと高めることができる」を身につける。

●評価方法

授業参加度(50%)、レポートなどの提出物の内容から専門的理解の程度(25%)、事例報告の発表、記録用紙の記入内容から「学び続け、成長し続ける能力」(2)獲得の程度(25%)で評価する。提出物には、採点后、講評を行う。

●教科書・参考文献

(教)「実習ノート」羽陽学園短期大学実習委員会編教科書と合わせて、自らの「実習日誌」(施設配付の資料)2回分(保育実習施設・Ⅲ)を使用する。

●授業内容

1. 保育実習Ⅲオリエンテーション 実習希望調査
2. 実習依頼事務作業(手順、注意事項の指導)
3. 施設行事ボランティア参加オリエンテーション
- 4～7. 施設でのボランティア参加①～④
8. 事前指導(全体指導と巡回者による個別指導)
9. 事後指導(全体指導と巡回者による個別指導)
- 10～11. 実習報告会①～②
12. 事例報告とミニ検討会のための準備
- 13～14. 事例報告とミニ検討会①～②
15. 2回の施設での実習の振り返り

●授業時間外の学習(必要な時間)

(予習) 実習報告書などに目を通し、自分が行くボランティア先の施設についての理解を深めておく。(30分)

(復習) 自分が行った2つの施設の理念や方針をまとめ、利用者支援の共通性や違いについてノートにまとめておく。(30分)

授 業 科 目		担 当 者	
保育実習Ⅲ		実習委員会	
授業形態	単 位 数	開 講 時 期	
実習	2	2 年次	
幼 免	保 育 士	主事任用	
	■		

●テーマ・概要

保育実習の選択必修科目であり、施設で2週間実習を行う。本学では、保育実習Ⅱ(保育所での実習)を必修としているため、特に施設就職希望者がより施設の理解を深めることを目指す。

●到達目標

- ・各施設の社会的役割の理解を深め、施設保育士の業務内容を把握し、適切に実践できるようになる。
- ・施設ごとの理念に基づいた支援を行おうとすることができる。
- ・施設利用者(児)と各種活動を通じて関わり、理解を進め、コミュニケーションが図れるようになる。
- ・施設利用者(児)のニーズを理解し、状況に応じ、適切な生活支援ができるようになる。
- ・実習の経験を比較、検証をすることで、「学び続け、成長し続ける能力」(1)「自分の実践について振り返り、より良い実践を目指して、主体的に学ぶことができる」を身につける。

●評価方法

実習施設の評価、実習報告書の完成度、記入された日誌の充実度、各種提出物の提出状況等から、総合的に、専門的理解の程度(60%)、「学び続け、成長し続ける能力」(1)獲得の程度(20%)、実習参加度(10%)で評価する。実習報告会報告者は加点あり。提出物には、採点后、講評を行う。

●教科書・参考文献

(教)「実習ノート」羽陽学園短期大学実習委員会編
(参)過去の施設実習実習報告書(図書館・施設担当教員)

●授業内容

<実習内容>

- ・施設で行われている業務に参加し、実践する。
- ・入所施設においては、職員の下、利用者(児)の日常生活活動を支援し、自立に向けた援助を行う。
- ・施設利用者(児)と各種活動を通じて、コミュニケーションを図り、理解を進める。
- ・施設内でのミーティング、研修等を通じて、施設保育士に求められる能力・資質についての理解を深める。
- ・実習内容を適切に記録し、活動についての省察から、次の課題を自ら見つける。

●授業時間外の学習(必要な時間)

(予習) 先輩の実習報告書に目を通し、実習内容の把握に努める。

実習種別について、教科書等や施設のホームページを参考に、施設の理解、利用者の特性などについて、あらかじめ理解を深めておく。(30分)

(復習) 将来の就業を念頭に、日誌等を読み返す。(30分)

授 業 科 目		担 当 者	
保育実践研究Ⅰ		大関嘉成、松田知明 小林浩子、太田裕子	
授業形態	単 位 数	開 講 時 期	
演習	1	2年次 後期	
幼 免	保 育 士	主事任用	

●テーマ・概要

専門職としての実習を振り返り、保育教材の開発と実践をより深くより広範囲に検討していく。身の回りにある材料が、幼児のどんな能力を育てられるか、幼児教育者の一番大事な仕事とは何かについて、これまでの学習をまとめていく過程の作業となる。

●到達目標

- ・教材開発の意義を説明できる。
- ・適切な実践記録を書くことができる。
- ・保育実践を分析し、評価できる。
- ・「自分で考え、表現できる能力」(2)「実践について理解したり、分析したりすることができる」を身につける。

●評価方法

担当者4名の評価の総計による。各領域理解の程度(60%)、「自分で考え、実践できる能力」(2)獲得の程度(10%)、授業参加度(30%)で評価する。提出物に関しては、採点の後、講評を行う。

●教科書・参考文献

(参)久富陽子・梅田優子(2008)「保育方法の実践的理解」萌文書林

●授業内容

1. イントロダクションー実践と評価ー
- 2～4. 英語で遊ぼう①～③
- 5～7. 身近な素材で遊ぼう①～③
- 8～10. パソコンを使った教材作成①～③
11. 実践記録の意義と書き方
12. 実践記録に基づく評価
13. 実践をみる視点
14. 保育に生きる実践記録
15. まとめ

●授業時間外の学習(必要な時間)

- (予習) 参考書指定箇所を読む。(30分)
- (復習) 授業で行った演習資料、製作物を整理し、復習を行う。(30分)

●その他

履修者数が多い場合、抽選になる場合がある。また、教室の都合上、実施回が変更になる場合がある。

授 業 科 目		担 当 者	
保育実践研究Ⅱ		大木みどり、樋口健介、白崎直季	
授業形態	単 位 数	開 講 時 期	
演習	1	2年次 後期	
幼 免	保 育 士	主事任用	

●テーマ・概要

「保育」と「介護」の共通項の一つは他者とのコミュニケーションにあると思います。運動、音楽、造形などの表現活動をコミュニケーションの手段として、老人福祉施設や幼稚園でのワークショップ(以下WS)を企画、実践する中で、みなさん一人ひとりが「福祉」について、広く考えを深めていって下さい。

●到達目標

- ・コミュニケーションの手段として、運動、音楽、造形などの表現活動を活かすことができる。
- ・他者のWS実践を観察し、自己のWS実践へ活かすことができる。
- ・WSの企画、実践、振り返りを通じて、「学び続け、成長し続ける能力」(1)「自分の実践について振り返り、より良い実践を目指して主体的に学ぶことができる」を身につける。

●評価方法

WSの企画、準備、実践、振り返りレポートからWSを企画し実践する基礎的な知識、技術の獲得の程度(35%)、「学び続け、成長し続ける能力」(1)獲得の程度(35%)、授業参加度(30%)で評価する。レポートは、採点後講評する。

●教科書・参考文献

(参)「ワークショップと学び2」東京大学出版会

●授業内容

1. オリエンテーション
 - ー保育と介護の共通項とは？WSって何だろう？ー
2. 老人福祉施設でのWS実践補助
3. WS実践振り返り、WS実践計画
4. WS実践計画
5. 老人福祉施設でのWS実践①
6. WS実践振り返り、WS実践計画
7. WS実践計画
8. 老人福祉施設でのWS実践②
9. WS実践振り返り、WS実践計画
10. WS実践計画
11. 老人福祉施設でのWS実践③
12. WS実践振り返り、WS実践計画
13. WS実践計画
14. 幼稚園でのWS実践
15. 発表とまとめ

●授業時間外の学習(必要な時間)

- (予習) 活動の反省を踏まえてWS実践に向けて、必要な道具や材料を準備する。(30分)
- (復習) 次の活動を計画する。(30分)

授 業 科 目		担 当 者	
保育実践研究Ⅲ		高橋 寛、高桑秀郎、花田嘉雄 樋口健介、白崎直季	
授業形態	単 位 数	開 講 時 期	
演習	1	2年次 前期(集中)	
幼 免	保 育 士	主事任用	

●テーマ・概要

幼児教育者（保育者）の卵として、社会に出たら、即戦力となるように、経験を積み、幼児や保護者からのフィードバックを受け止めて、成長の糧としよう。

●到達目標

- ・自ら企画を立て実践することにより、企画・運営する能力を養う。
- ・初対面の幼児同士の遊び方を知り、また彼らとその保護者とのかかわり方をも学ぶ。
- ・学外の大きな舞台での発表を体験し、自信を持つ。
- ・幼児の活動の実際を理解させ、学ぶ。
- ・「フィードバック能力」(3)「実践中に瞬時に判断し、修正や改善をすることができる」を身につける。

●評価方法

毎回の実践と演習の様子や、レポートの内容により、幼児教育者としての企画・実践力を育てる領域理解の程度(20%)、専門的スキル習得度(20%)、「フィードバック能力」(3)獲得の程度(30点)、授業参加度(15%)、技能習得の努力度(15%)で評価する。提出物にはコメント等を加え返却し指導する。

●教科書・参考文献

(教)「こどもの歌ベストテン」ドレミ出版

●授業内容

1. 全体の内容についての講義とグループミーティング
2. 音楽的活動（うたう・おどる）の実践法
3. 美術（素材研究）
4. 身体表現（ごっこあそび）の実践法
5. 発表会を企画する方法とグループ別ミーティング
- 6～8. 遊びの考察（遊具等の制作）①～③
- 9～10. ステージ発表会へ向けての打ち合わせ①～②
- 11～12. 実践（学外にて）①～②
- 13～14. 発表会の実際（学外にて）①～②
15. まとめ（レポート等による合評会）

●授業時間外の学習(必要な時間)

活動のシミュレーションを多様にやってみることを習慣づける。

（予習）遊びのプランを作り、シミュレーションする。(30分)

（復習）活動を振り返り、改善点をさがす。(30分)

授 業 科 目		担 当 者	
子どもの生活と福祉		伊藤和雄、荒木隆俊 松田水月、宮地康子	
授業形態	単 位 数	開 講 時 期	
演習	2	1年次 前期	
幼 免	保 育 士	主事任用	
		○	

●テーマ・概要

児童福祉施設としての保育所の社会的役割だけでなく、児童のみならず高齢者・障がい者を含む社会福祉や地域保健についての総合的な理解ができるように、広く社会福祉や保健のあり方にも話を展開していく。

●到達目標

- ・保育所の課題、高齢者・障がい者等の介護福祉士の課題、社会福祉協議会等による地域福祉の課題、保育所等による地域保健の課題をとりあげ、講義やグループディスカッションと報告・レポート等により説明できる。
- ・「自分で考え、表現できる能力」(1)「現状をしっかりとらえることができる」を身につける。

●評価方法

筆記試験と提出してもらったレポートにより、領域理解の程度(60%)、「自分で考え、表現できる能力」(1)獲得の程度(25%)、授業参加度(15%)で評価する。試験採点后、講評を行う。

●教科書・参考文献

(参)「介護福祉士 国試ナビ」中央法規出版

●授業内容

1. オリエンテーション
2. 保育現場で気になる子
3. 保育所の歴史とアメリカの現状
4. 介護支援専門員の在宅介護
5. 介護現場の現状と課題
- 6～7. 福祉保健医療の連携と課題①～②
8. 児童福祉施設としての保育所
- 9～10. 保育するって何だろう①～②
- 11～12. 児童虐待って何だろう①～②
- 13～14. 事例研究レポート①～②
15. まとめ
16. 筆記試験

●授業時間外の学習(必要な時間)

（予習）事前配付資料を読む。(20分)

（復習）要点、キーワードをまとめる。(20分)

授 業 科 目		担 当 者	
介護福祉総論 I		伊藤和雄、荒木隆俊	
授業形態	単位数	開 講 時 期	
演習	1	1 年次 後期	
幼 免	保育士	主事任用	

●テーマ・概要

高齢化が進行し、介護福祉サービスはますます重要なものとなっている。

福祉コースでは、幼児教育や保育の専門科目に加えて、介護福祉サービス実践の方法を学び、幼児教育にも結びつく視点を理解したい。

●到達目標

- ・介護をめぐる現状と課題を説明できる。
- ・介護福祉制度のための基礎的知識を説明できる。
- ・介護福祉サービス実践を展開していくための視点を説明できる。
- ・「自分で考え、実践できる能力」(1)「現状をしっかりとらえることができる」を身につける。

●評価方法

筆記試験と提出してもらう課題レポートにより、領域理解の程度(60%)、「自分で考え、実践できる能力」(1)獲得の程度(25%)、授業参加度(15%)で評価する。試験採点后、講評を行う。

●教科書・参考文献

(参)「介護福祉士 国試ナビ」中央法規出版

●授業内容

- 1～5. 介護現場の理解①～⑤
(運営管理・介護・看護・介護支援専門員)
- 6～7. 高齢者保健福祉制度の理解①～②
8. 介護福祉サービスの意義
9. 介護福祉サービスの視点
- 10～11. 介護保険制度①～②
12. 介護予防
13. 介護職員の職業倫理と健康管理
14. コミュニケーション技術
15. まとめ
16. 筆記試験

●授業時間外の学習(必要な時間)

- (予習) 事前配付資料を読む。(20分)
(復習) 要点、キーワードをまとめる。(20分)

授 業 科 目		担 当 者	
介護福祉総論 II		荒木隆俊、松田水月、宮地康子	
授業形態	単位数	開 講 時 期	
演習	1	2 年次 前期	
幼 免	保育士	主事任用	

●テーマ・概要

社会問題にまで発展している介護問題。介護保険法が施行されて介護現場は大きく変化し、諸問題も山積している。このような状況の中、介護対象者とのように関わりをもっていけばいいのだろうかと考えた時、知識・技術を高めていくことはもちろん、人間理解も重要な部分である。

人間的成長も視野に入れながら、介護の世界も理解したい。

●到達目標

- ・介護をめぐる現状と課題を説明できる。
- ・介護サービスの基本的視点を説明できる。
- ・介護者の基本姿勢を身につける。
- ・「コミュニケーション能力」(1)「人間や人間の生活、社会についての知識・理解」を身につける。

●評価方法

筆記試験(課題・2回)より、領域理解の程度(60%)、「コミュニケーション能力」(1)獲得の程度(25%)、授業参加度(15%)で評価する。試験採点后、講評を行う。

●教科書・参考文献

(参)「介護の基本 I・II」中央法規出版
(参)「生活支援技術 I・II・III」中央法規出版

●授業内容

1. 介護対象者の理解
- 2～4. 介護概論①～③
- 5～6. サービス提供の基本視点①～②
7. サービス提供の基本視点③(課題)
- 8～11. 基本的介護技術の習得①～④
- 12～13. 介護職員の職業倫理①～②
14. 社会福祉実習指導
15. まとめ(課題)

●授業時間外の学習(必要な時間)

(予習) 毎回、次回の授業内容について伝える。その内容について、各自イメージを膨らませてくる。(20分)

(復習) 授業後は、授業内容等についてノートの整理を行い、まとめをプリントに残す。(20分)

授 業 科 目		担 当 者	
介護技術演習		宮地康子、松田水月、荒木隆俊	
授業形態	単 位 数	開 講 時 期	
演習	1	1年次 後期	
幼 免	保 育 士	主事任用	

●テーマ・概要

介護する時、場合によってはいじめや虐待にもつながる行為にもなりかねない危険性を含んでいる。まずこのことを理解したうえで、対象者の状況に応じた介護技術の提供を理解したい。

●到達目標

- ・基本的な介護技術を習得する。
- ・介護技術の援助を通して、介護対象者の立場になって考える力を身につける。
- ・互いに意見や気づきを共有し介護の視点について説明できる。
- ・「コミュニケーション能力」(3)「伝え合う手段を見つけることができる」を身につける。

●評価方法

筆記試験（課題・1回）と授業内容を理解するプリントにより、領域理解の程度(60%)、「コミュニケーション能力」(3)獲得の程度(25%)、授業参加度(15%)で評価する。試験採点后、講評を行う。

●教科書・参考文献

(参)「生活支援技術Ⅰ・Ⅱ・Ⅲ」中央法規出版

●授業内容

1. 介護場面の理解
- 2～3. ベッドメイキング①～②
4. 体位交換の方法
- 5～6. 衣服の着脱の介護①～②
- 7～8. 排泄の介護①～②
9. 食事の介護
- 10～11. 移動の介護①～②
12. 緊急時の対応
13. 腰痛予防等の健康管理
14. 喀痰吸引、経管栄養について
15. まとめ

●授業時間外の学習(必要な時間)

(予習) 毎回、次回の授業内容について伝える。その内容について、各自イメージを膨らませてくる。(20分)

(復習) 授業後は、授業内容等についてノートの整理を行い、まとめをプリントに残す。(20分)

授 業 科 目		担 当 者	
社会福祉実習		実習委員会	
授業形態	単 位 数	開 講 時 期	
実習	2	2年次 前期	
幼 免	保 育 士	主事任用	

●テーマ・概要

介護老人福祉施設（特別養護老人ホーム）、介護老人保健施設（老人保健施設）等で、施設利用者への日常生活援助の補助や、余暇活動への参加等を通して施設利用者と直接触れ合い、自分の存在をその場に参加させることにより、単に知識・技術のみならず本学の教育理念にもあるように、真の人間理解を追求し広い視野と洞察力も養ってほしい。

●到達目標

- ・介護対象者の理解及び基本的な介護技術の習得と援助視点について理解する。
- ・社会人としての自覚も含め、自己の適正能力を身につける。
- ・「自分で考え、実践できる能力」(1)「現状をしっかりとらえることができる」を身につける。

●評価方法

実習施設からの評価及び実習日誌により介護領域理解の程度(20%)、専門的技術の習得度(40%)、「自分で考え、実践できる能力」(1)獲得の程度(30%)、授業参加度(10%)で評価する。提出物には、採点后、講評を行う。

●教科書・参考文献

(教)「実習ノート」羽陽学園短期大学実習委員会編

●授業内容

<実習内容>

- ・施設の機能の理解
- ・介護対象者の理解
- ・基本的な介護技術の習得
- ・施設職員の理解及び職員の資質、能力等の理解
- ・介護の視点の理解
- ・自己の適正能力を探索。

●授業時間外の学習(必要な時間)

(予習) 実習前に実習施設の機能等について調べて実習に向けての準備を整える。

日誌記入及び、翌日の学習課題を明確にする。(30分)

(復習) 将来の就業を念頭に、日誌等を読み返す。(30分)

授 業 科 目		担 当 者
卒業研究		専任教員
授業形態	単 位 数	開 講 時 期
演習	2	1年次 後期, 2年次 前・後期
幼 免	保 育 士	主事任用

●テーマ・概要

卒業研究は学問に取り組む方法を学ぶ場であり、社会に出てからも自ら問題を発見し、それを克服していける力を養うために行うものである。学生自身が主体的に行う意味では、短大2年間に研究し学んだ内容の集大成でもある。この卒業研究（ゼミ）は、教員からの一方通行ではなく、学生諸君との対面通行で行われる。学生ががんばれば、教員だって一生懸命それに応じてくれる。教員からいろいろな事を引き出し、自分の糧にしてほしい。

●到達目標

- ・様々なことに興味・関心や疑問を持つことができる力を身につける。
- ・研究や論文の基本について理解することができる。
- ・「自分で考え、実践できる能力」(1)「現状をしっかりとりえることができる」を身につける。
- ・「フィードバック能力」(2)「見つけた課題について修正や改善をすることができる」を身につける。
- ・「学び続け、成長し続ける能力」(2)「実践の経験を再構成して、専門的知識・理解・技術へと高めることができる」を身につける。

●評価方法

「卒業研究」により、研究や論文の基本についての理解の程度(50%)、「自分で考え、実践できる能力」(1)、「フィードバック能力」(2)、「学び続け、成長し続ける能力」(2)獲得の程度(35%)、授業参加度(15%)で評価する。「卒業研究」は、評価後、講評等を行う。

●教科書・参考文献

なし。

●授業内容

- ・各ゼミとも5～10名程度の少人数で行う。1年に1回セミナーを学内外で行い、研修を深めている。
- ・学生各自が興味のある研究テーマを設定し、それぞれのテーマの専門の指導教員のもとに入って研究をすすめる。成果は2年次の12月に「卒業研究」として400字原稿用紙で30～50枚でまとめる。それらは「研究集録」として、レジュメの形で発刊する。

●授業時間外の学習

興味・関心や疑問を持ったことについて、自分でいろいろと追究してみる。

専攻科福祉専攻

授 業 科 目		担 当 者
介護保険制度と障害者自立支援制度		伊 藤 和 雄
授業形態	単 位 数	開 講 時 期
講 義	1	前 期
必 修	選 択	主事任用
○		○

●テーマ・概要

社会保障制度の概要を理解するとともに、介護保険制度及び障害者自立支援制度の創設の背景と目的を理解し、介護保険制度の見直しや背景、目的及び基本的視点を理解したい。

●到達目標

- ・社会保障制度の意義を説明できる。
- ・介護保険制度と障害者自立支援制度を説明できる。
- ・両制度の活用の仕方を説明できる。
- ・「コミュニケーション能力」(1)「人間や人間の生活、社会についての知識・理解」を身につける。

●評価方法

筆記試験と提出してもらった課題レポートにより、領域理解の程度(60%)、「コミュニケーション能力」(1)の獲得の程度(25%)、授業参加度(15%)で評価する。試験採点后、講評を行う。

●教科書・参考文献

(教)「社会と制度の理解」中央法規出版

●授業内容

1. 高齢者及び障害者の実態
2. 生活と福祉、人間の生活と社会の関わり、自助から公助へ
3. 社会保障制度の概要
4. 介護保険制度①成立の背景と制度内容
5. 介護保険制度②制度内容 活用事例
6. 障害者自立支援制度①成立の背景と制度内容
7. 障害者自立支援制度②制度内容 活用事例
- 8～9. 介護保険制度と障害者自立支援制度の関連①～②
- 10～15. 各種制度の概要
16. 筆記試験

●授業時間外の学習(必要な時間)

- (予習) 次回行う単元部分の教科書を読んでくる。(20分)
- (復習) 授業後は、授業内容等についてプリントに記録する。(20分)
- ・介護福祉士国家試験対策学習(一日60分)

授 業 科 目		担 当 者
介護の基本 I		荒 木 隆 俊
授業形態	単 位 数	開 講 時 期
講 義	4	前 期
必 修	選 択	主事任用
○		○

●テーマ・概要

尊厳の保持、自立支援の理念を中心に、基本的な介護の概念を理解したい。

●到達目標

- ・介護福祉士を取り巻く社会状況を説明できる。
- ・介護福祉士の役割を説明できる。
- ・各社会福祉関係法について説明できる。
- ・介護福祉士の役割を説明できる。
- ・「自分で考え、実践できる能力」(1)「現状をしっかりとりとえることができる」能力を身につける。

●評価方法

筆記試験と授業内容の理解を確認するプリントにより、領域理解の程度(60%)、「自分で考え、実践できる能力」(1)獲得の程度(25%)、授業参加度(15%)で評価する。試験採点后、講評を行う。

●教科書・参考文献

(教)「介護の基本 I・II」中央法規出版

●授業内容

1. 人間と生活の理解
- 2～4. 介護福祉士を取り巻く社会状況
- 5～6. 社会福祉士・介護福祉士法関連知識
7. 介護従事者の倫理
- 8～9. 尊厳を支える介護
(ノーマライゼーション・QOL)
10. 生活空間と介護
- 11～12. 介護福祉士の役割と機能を支える役割としくみ(他職種との連携を中心として)
- 13～14. 利用者主体の介護とは
15. まとめ
16. 筆記試験

●授業時間外の学習(必要な時間)

- (予習) 次回行う単元部分の教科書を読んでくる。(20分)
- (復習) 授業後は、授業内容等についてプリントに記録する。(20分)
- ・介護福祉士国家試験対策学習(一日60分)

授 業 科 目		担 当 者	
介護の基本Ⅰ		荒 木 隆 俊	
授業形態	単 位 数	開 講 時 期	
講義	—	後 期	
必 修	選 択	主事任用	
○		○	

●テーマ・概要

尊厳の保持、自立支援の理念を中心に、基本的な介護の概念を理解したい。

●到達目標

- ・介護概念を説明できる。
- ・介護サービスの基本視点を説明できる。
- ・自立支援について説明できる。
- ・求められる介護福祉士像を意識して学んでいる。
- ・「学び続け、成長し続ける能力」(1)「自分の実践について振り返り、より良い実践をめざして、主体的に学ぶことができる」能力を身につける。

●評価方法

筆記試験と授業内容の理解を確認するプリントにより、領域理解の程度(60%)、「学び続け、成長し続ける能力」(1)獲得の程度(25%)、授業参加度(15%)で評価する。試験採点后、講評を行う。

●教科書・参考文献

(教)「介護の基本Ⅰ・Ⅱ」中央法規出版

●授業内容

- 17～19. 介護福祉の概念
- 20～23. 介護の働きと基本視点
- 24～28. 自立に向けた介護の視点 (自立の考え方・自己決定・自己選択・生活支援の考え方・自立支援の展開例)
- 29. 介護従事者の安全
- 30. 求められる介護福祉士像
- 31. まとめ
- 32. 筆記試験

●授業時間外の学習(必要な時間)

- (予習) 次回行う単元部分の教科書を読んでくる。(20分)
- (復習) 授業後は、授業内容等についてプリントに記録する。(20分)
- ・介護福祉士国家試験対策学習 (一日60分)

授 業 科 目		担 当 者	
介護の基本Ⅱ		伊 藤 和 雄	
授業形態	単 位 数	開 講 時 期	
講義	2	前 期	
必 修	選 択	主事任用	
○		○	

●テーマ・概要

個人が自立した生活を営むということを理解するために、個人、家族、地域、社会の単位で人間を捉える視点を養い、人間の生活と社会との関わり、自助や公助にいたる経過を理解したい。

●到達目標

- ・介護サービスの概要を説明できる。
- ・介護サービス提供の場の特性を説明できる。
- ・諸制度の理解、及び他職種、他機関との連携を説明できる。
- ・「自分で考え、実践できる能力」(3)「学際的な視点で考えることができる」能力を身につける。

●評価方法

評価の方法として、講義内容の理解を確認するレポートにより、領域理解の程度(60%)、「自分で考え、実践できる能力」(3)獲得の程度(25%)、授業参加度(15%)で評価する。試験採点后、講評を行う。

●教科書・参考文献

(教)「介護の基本Ⅱ」中央法規出版

●授業内容

- 1～3. 介護サービスの概要
- 4～5. 介護サービス提供の場の特性 (居宅・施設)
- 6～8. 介護実践における連携 (職種・地域・インフォーマルサービス機能)
- 9. 地域包括支援センターの機能と連携
- 10. 成年後見制度の理解
- 11. 地域福祉計画と地域福祉活動計画の理解
- 12～13. 施設の社会化
- 14. 介護専門職者と家族との関係
- 15. まとめ
- 16. 筆記試験

●授業時間外の学習(必要な時間)

- (予習) 次回行う単元部分の教科書を読んでくる。(20分)
- (復習) 授業後は、授業内容等についてプリントに記録する。(20分)
- ・介護福祉士国家試験対策学習 (一日60分)

授 業 科 目		担 当 者	
介護の基本Ⅲ		柴 田 哲 也	
授業形態	単 位 数	開 講 時 期	
演 習	1	前 期	
必 修	選 択	主事任用	
○		○	

●テーマ・概要

リハビリテーションの意義や目的を理解し、介護現場において、その積極的な必要性を理解したい。

●到達目標

- ・リハビリテーションの意義を説明できる。
- ・高齢者・障害者介護におけるリハビリテーションの役割を説明できる。
- ・介護技術におけるリハビリテーション的視点を説明できる。
- ・現実場面での対応方法を考察できる。
- ・「自分で考え、実践できる能力」(2)「実践について理解したり、分析したりすることができる」能力を身につける。

●評価方法

実技試験等により、領域理解の程度(60%)、「自分で考え、実践できる能力」(2)獲得の程度(25%)、授業参加度(15%)で評価する。実技試験終了後、講評を行う。

●教科書・参考文献

(教)「介護の基本Ⅰ」中央法規出版

●授業内容

- 1～2. 自立に向けたリハビリテーションの考え方
- 3～7. リハビリテーションの実際 実技
- 8～12. 生活場面でのリハビリテーションの実際 実技
- 13. 介護予防の理解
- 14. 余暇活動の考え方
- 15. まとめ
- 16. 実技試験

●授業時間外の学習(必要な時間)

- (予習) 次回行う単元部分の教科書を読んでくる。(20分)
- (復習) 授業後は、授業内容等についてノートを整理する。(20分)
- ・介護福祉士国家試験対策学習 (一日60分)

授 業 科 目		担 当 者	
介護の基本Ⅳ		荒 木 隆 俊	
授業形態	単 位 数	開 講 時 期	
演 習	1	後 期	
必 修	選 択	主事任用	
○		○	

●テーマ・概要

介護実習の体験から、利用者のみならず家族等に対する精神的支援や援助のために、利用者の理解を深める技術を理解したい。

●到達目標

介護実習を通して得た知識・技術を振り返り整理しながら、

- ・介護を必要とする人の説明ができる。
- ・傾聴技術・観察技術の視点を説明できる。
- ・「学び続け、成長し続ける能力」(1)「自分の実践について振り返り、より良い実践を目指して、主体的に学ぶことができる」能力を身につける。

●評価方法

筆記試験と授業内容の理解を確認するプリントにより、領域理解の程度(60%)、「学び続け、成長し続ける能力」(2)獲得の程度(25%)、授業参加度(15%)で評価する。試験採点后、講評を行う。

●教科書・参考文献

(教)「介護の基本Ⅰ・Ⅱ」中央法規出版

●授業内容

- 1～5. 介護を必要とする人の理解 (その人らしさの理解・高齢者の暮らしの理解・障害のある人の暮らしの理解・生活環境の理解)
- 6～8. サービス提供の基本的視点を考える
- 9～10. 共感的態度
- 11～12. 傾聴技術
- 13～14. 観察技術
- 15. まとめ
- 16. 筆記試験

●授業時間外の学習(必要な時間)

- (予習) 次回行う単元部分の教科書を読んでくる。(20分)
- (復習) 授業後は、授業内容等についてプリントに記録する。(20分)
- ・介護福祉士国家試験対策学習 (一日60分)

授 業 科 目		担 当 者	
介護の基本Ⅴ		櫻 井 嘉 宏	
授業形態	単 位 数	開 講 時 期	
講義	2	後期	
必 修	選 択	主事任用	
○		○	

●テーマ・概要

個別化と尊厳を守る介護の理解を深める。また、リスクマネジメントについて理解したい。

●到達目標

- ・利用者の安全の確保と、生活を守る技術としてのリスクマネジメントを理解し、介護場面での具体的事故と予防対策についての手法を説明できる。
- ・人権、権利擁護、身体拘束禁止、高齢者虐待防止、プライバシー保護といったキーワードの説明ができ、利用者の「尊厳ある暮らし」を支えるケアを説明できる。
- ・「自分で考え、実践できる能力」(2)「実践について理解したり、分析したりすることができる」能力を身につける。

●評価方法

筆記試験（課題・3回）を行い、領域理解の程度(60%)、「自分で考え、実践できる能力」(2)獲得の程度(25%)、授業参加度(15%)で評価する。試験採点后、講評を行う。

●教科書・参考文献

(教)「介護の基本Ⅱ」中央法規出版

●授業内容

1. 利用者の人権と介護
- 2～3. 身体拘束禁止
4. 高齢者虐待（課題）
5. プライバシー保護（個人情報保護を含む）
- 6～7. 施設における安全の確保
- 8～9. 介護における安全の確保とリスクマネジメント（課題）
- 10～13. 安全で心地よい生活の場づくり（快適な室内環境の確保・浴室、トイレ、台所等の空間構成・プライバシーの確保と交流の促進・安全性への配慮）
14. 自立に向けた居住環境の整備
15. まとめ（課題）

●授業時間外の学習（必要な時間）

（予習）次回行う単元部分の教科書を読んでくる。
(20分)

（復習）授業後は、授業内容等についてノートに整理する。(20分)

- ・介護福祉士国家試験対策学習（一日60分）

授 業 科 目		担 当 者	
コミュニケーション技術Ⅰ		本間仁子、重吉正文	
授業形態	単 位 数	開 講 時 期	
講義	2	前期	
必 修	選 択	主事任用	
○		○	

●テーマ・概要

介護実践に必要とされる情報を関係者に伝達する技術を理解したい。

●到達目標

- ・介護におけるコミュニケーションの意義と目的を説明できる。
- ・介護技術とコミュニケーションの関係性を説明できる。
- ・チームにおけるコミュニケーションの意義と目的、種類を説明できる。
- ・チームアプローチに必要なコミュニケーションの種類や方法を説明できる。
- ・「コミュニケーション能力」(4)「対話する能力」を身につける。

●評価方法

筆記試験（課題・3回）を行い、領域の理解の程度(60%)、「コミュニケーション能力」(4)の獲得の程度(25%)、授業参加度(15点)で評価する。試験採点后、講評を行う。

●教科書・参考文献

(教)「コミュニケーション技術」中央法規出版

●授業内容

1. 介護におけるコミュニケーションの基本
- 2～4. 介護における記録（意義・目的・種類）
5. 記録の方法と留意点
6. 記録の管理
7. 介護記録の共有化（課題）
8. 情報通信記録を活用した記録の意義と活用の留意点
9. 介護記録における個人情報の保護
10. 介護記録の活用（課題）
- 11～12. 報告の意義・目的・留意点
- 13～14. 会議の種類・意義・目的・留意点
15. まとめ（課題）

●授業時間外の学習（必要な時間）

（予習）次回行う単元部分の教科書を読んでくる。
(20分)

（復習）授業後は、授業内容等についてノートを整理する。(20分)

- ・介護福祉士国家試験対策学習（一日60分）

授 業 科 目		担 当 者
コミュニケーション技術Ⅱ		荒 木 隆 俊
授業形態	単 位 数	開 講 時 期
演習	1	後期
必 修	選 択	主事任用
○		○

●テーマ・概要

日常生活の中で、利用者の心にゆとりの得られるコミュニケーション技術を理解したい。

●到達目標

- ・介護を必要とする人の理解と利用者の状況に応じたコミュニケーションの技法の理解について、事例を交えて整理しながら説明できる。
- ・コミュニケーションを通して、利用者の生活に安全と安らぎをもたらす、信頼の得られる能力を身につける。
- ・「コミュニケーション能力」(3)「伝え合う手段を見つけることができる」能力を身につける。

●評価方法

筆記試験と授業で行う演習課題により、領域理解の程度(60%)、「コミュニケーション能力」(3)獲得の程度(25%)、授業参加度(15%)で評価する。試験採点后、講評を行う。

●教科書・参考文献

(教)「コミュニケーション技術」中央法規出版

●授業内容

- 1～2. 介護におけるコミュニケーションの基本的確認
3. 介護場面における利用者・家族とのコミュニケーション
4. 介護におけるチームのコミュニケーション
- 5～8. コミュニケーションの実際(話を聞く技法・利用者の感情表現を察する技法・納得と同意を得る技法)
- 9～13. コミュニケーションの実際(相談・助言・指導・意欲を引き出す技法・利用者家族)
14. 利用者の状況に応じたコミュニケーションの技法
15. 自己理解と他者理解
16. 筆記試験

●授業時間外の学習(必要な時間)

(予習) 次回行う単元部分の教科書を読んでくる。(20分)

(復習) 授業後は、授業内容等についてプリントに記録する。(20分)

- ・介護福祉士国家試験対策学習(一日60分)

授 業 科 目		担 当 者
生活支援技術Ⅰ		宮地康子、松田水月、荒木隆俊
授業形態	単 位 数	開 講 時 期
演習	2	前期
必 修	選 択	主事任用
○		○

●テーマ・概要

尊厳保持の観点から、どのような状態であっても、その人の自立と意思を尊重し、各々個々人の持っている潜在能力や残存機能を引き出したり、維持したりしながら適切な介護技術を用いて、安全に援助できる基本的な技術を理解したい。

●到達目標

- ・安全かつ、適切な介護技術を提供できる能力を身につける。
- ・「自分で考え、実践できる能力」(2)「実践について理解したり、分析したりすることができる」能力を身につける。

●評価方法

筆記試験と介護技術の習得度により、領域理解の程度(60%)、「自分で考え、実践できる能力」(2)獲得の程度(25%)、授業参加度(15%)で評価する。試験採点后、講評を行う。

●教科書・参考文献

(教)「生活支援技術Ⅰ・Ⅱ・Ⅲ」中央法規出版

●授業内容

1. 生活支援とは
2. 自立に向けた住環境の意義と目的
3. 自立に向けた身じたくの介護の意義と目的
4. 自立に向けた移動の介護の意義と目的
- 5～7. 自立に向けた移動の介護
8. 自立に向けた食事の介護の意義と目的
- 9～11. 自立に向けた食事の介護
12. 自立に向けた入浴と清潔保持の介護の意義と目的
- 13～15. 自立に向けた入浴と清潔保持の介護
16. 自立に向けた衣服の着脱の介護の意義と目的
- 17～19. 自立に向けた衣服の着脱の介護
20. 自立に向けた排泄の介護の意義と目的
- 21～23. 自立に向けた排泄の介護
24. 自立に向けた睡眠の介護の意義と目的
25. 緊急時の対応
- 26～27. 感染症の予防と対策
28. 終末期の介護
29. 介護従事者の心身の健康
30. まとめ
31. 筆記試験

●授業時間外の学習(必要な時間)

(予習) 次回行う単元部分の教科書を読んでくる。(20分)

(復習) 授業後は、授業内容等についてプリントに記録する。(20分)

- ・介護福祉士国家試験対策学習(一日60分)

授 業 科 目		担 当 者	
生活支援技術Ⅱ		安 喰 功	
授業形態	単 位 数	開 講 時 期	
講義	2	前 期	
必 修	選 択	主事任用	
○		○	

●テーマ・概要

家政学の領域から、衣生活を中心として介護との関係性を理解したい。

●到達目標

- ・高齢者の生活の状況を説明できる。
- ・衣生活を生活支援、介護に活かすことができる視点を説明できる。
- ・身だしなみ、整容といった観点から、個々人の生活の潤いや社会との繋がりを説明できる。
- ・「コミュニケーション能力」(1)「人間や人間の生活、社会についての知識・理解」能力を身につける。

●評価方法

筆記試験と小試験により、領域理解の程度(60%)、「コミュニケーション能力」(1)獲得の程度(25%)、授業参加度(15%)で評価する。試験採点后、講評・解説を行う。

●教科書・参考文献

(教)「生活支援技術Ⅰ」中央法規出版

(教)「高齢社会白書」内閣府

●授業内容

1. 生活支援から見た家政学
- 2～4. 高齢者の生活状態の理解
- 5～6. 衣生活について
- 7～8. 介護と衣服
- 9～10. 衣服の素材
11. 社会における衣服の役割
- 12～13. 染色実習
14. 介護と家政学
15. まとめ
16. 筆記試験

●授業時間外の学習(必要な時間)

(予習) 次回行う単元部分の教科書を読んでくる。

(20分)

(復習) 授業後は、授業内容等についてノートを整理する。(20分)

- ・介護福祉士国家試験対策学習(一日60分)

授 業 科 目		担 当 者	
生活支援技術Ⅲ		阿 部 伸 一	
授業形態	単 位 数	開 講 時 期	
演習	1	前 期	
必 修	選 択	主事任用	
○		○	

●テーマ・概要

視覚障害者の自立を可能にするための支援の考え方・あり方についてともに考える中で介護福祉士のあるべき姿を理解したい。

●到達目標

- ・視覚障害について説明できる。
- ・視機能について説明できる。
- ・視覚障害者の「心」を重視できる能力を身につける。
- ・「コミュニケーション能力」(2)「人間への信頼」能力を身につける。

●評価方法

筆記試験により、領域理解の程度(60%)、「コミュニケーション能力」(2)獲得の程度(25%)、授業参加度(15%)で評価する。試験採点后、講評を行う。

●教科書・参考文献

(教)「生活支援技術Ⅲ」中央法規出版

●授業内容

1. 視覚障害者の生活支援とは
2. ものが見えるということ
3. 視覚機能とその障害の理解
- 4～6. 視覚障害者の生活や行動における不自由の理解
7. 情報入手手段としての点字
8. 「障害」についての考え方
- 9～10. 盲学校における見学と体験実習
- 11～14. 視覚障害者に関する生活支援の実践
15. まとめ
16. 筆記試験

●授業時間外の学習(必要な時間)

(予習) 次回行う単元部分の教科書を読んでくる。

(20分)

(復習) 授業後は、授業内容等についてノートを整理する。(20分)

- ・介護福祉士国家試験対策学習(一日60分)

授 業 科 目		担 当 者	
生活支援技術Ⅳ		楠 本 健 二	
授業形態	単 位 数	開 講 時 期	
演 習	2	前 期	
必 修	選 択	主事任用	
○		○	

●テーマ・概要

「食」の重要性を理解し、必要な知識と調理技術を理解したい。

●到達目標

- ・ 食べることの意味、必要性を説明できる。
- ・ 基礎となる調理技術を身につける。
- ・ 自分の「食」を見直すとともに、介護福祉士としての役割を食の観点から自信と思いやりのある心で食事援助のできる能力を身につける。
- ・ 「コミュニケーション能力」(1)「人間や人間の生活、社会についての知識・理解」能力を身につける。

●評価方法

課題と調理実習評価により、領域理解の程度(60%)、「コミュニケーション能力」(1)獲得の程度(25%)、授業参加度(15%)で評価する。課題及び調理実習評価については、その都度講評を行う。

●教科書・参考文献

(教)「生活支援技術Ⅲ」中央法規出版

●授業内容

1. 自立に向けた家事の介護（食生活）
2. 生活支援と食事の介護
- 3～4. 身体機能と栄養（栄養素と消化吸収）
- 5～6. 高齢者・障害者の栄養（調理実習）
- 7～8. 食品の成分・保存・管理
9. 食品の安全（食品衛生・食中毒）
- 10～11. 献立と調理
12. 調理器具と設備
- 13～14. 生活習慣病に必要な食事の知識
15. 特別食の調理と対応（高血圧症）
- 16～17. 特別食の調理（高血圧症）
18. 特別食の調理と対応（心臓病）
- 19～20. 特別食の調理（心臓病）
21. 特別食の調理と対応（糖尿病）
- 22～23. 特別食の調理（糖尿病）
24. 特別食の調理と対応（脂質異常症）
- 25～26. 特別食の調理（脂質異常症）
27. その他の症状にあわせた介護食
28. 知っておきたい食事計画と応用
29. 安全で安心できる食事提供の視点
30. まとめ

●授業時間外の学習(必要な時間)

(予習) 次回行う単元部分の教科書を読んでくる。

(20分)

(復習) 授業後は、授業内容等についてノートを整理する。(20分)

- ・ 介護福祉士国家試験対策学習（一日60分）

授 業 科 目		担 当 者	
生活支援技術Ⅴ		宮 地 康 子	
授業形態	単 位 数	開 講 時 期	
演 習	1	後 期	
必 修	選 択	主事任用	
○		○	

●テーマ・概要

尊厳保持の観点から、どのような障害であっても、その障害を正しく理解し、自立と意思を尊重し、個々人の持っている潜在能力や残存機能を引き出したり、維持したりしながら適切な介護技術を用いて、安全に援助できる基本的な技術を理解したい。

●到達目標

- ・ 介護対象者の生活、生活支援の考え方を理解している。
- ・ 安全かつ、適切な介護技術を提供できる能力を身につける。
- ・ 「学び続け、成長し続ける能力」(1)「自分の実践について振り返り、より良い実践を目指して、主体的に学ぶことができる」能力を身につける。

●評価方法

筆記試験と授業内容の理解を確認するプリントにより、領域理解の程度(60%)、「コミュニケーション能力」(1)獲得の程度(25%)、授業参加度(15%)で評価する。試験採点后、講評を行う。

●教科書・参考文献

(教)「生活支援技術Ⅲ」中央法規出版

●授業内容

1. 障害別に考える生活支援の視点
- 2～3. 利用者の状態、状況に応じた生活支援とは
- 4～5. 運動機能障害に応じた介護
- 6～7. 知的障害に応じた介護
- 8～9. 発達障害に応じた介護
- 10～11. 精神障害に応じた介護
12. 認知症のある人に応じた介護
- 13～14. 高次脳機能障害に応じた介護
15. まとめ
16. 筆記試験

●授業時間外の学習(必要な時間)

(予習) 次回行う単元部分の教科書を読んでくる。

(20分)

(復習) 授業後は、授業内容等についてのまとめをプリントに記録する。(20分)

- ・ 介護福祉士国家試験対策学習（一日60分）

授 業 科 目		担 当 者	
生活支援技術Ⅵ		鈴木 寿 美	
授業形態	単 位 数	開 講 時 期	
演 習	1	後 期	
必 修	選 択	主事任用	
○		○	

●テーマ・概要

コミュニケーションに障害のある聴覚、言語障害者を正しく理解し、豊かな支援ができるよう援助の視点を理解したい。

●到達目標

- ・聴覚の仕組みや言語の働きについて説明できる。
- ・聴覚、言語障害者が社会生活を送るうえでの不便さや困難さを説明できる。
- ・聴覚、言語障害者に対して、障害に配慮した介護ができる能力を身につける。
- ・「コミュニケーション能力」(2)「人間への信頼」能力を身につける。

●評価方法

筆記試験により、領域理解の程度(60%)、「コミュニケーション能力」(2)獲得の程度(25%)、授業参加度(15%)で評価する。試験採点后、講評を行う。

●教科書・参考文献

(教)「生活支援技術Ⅲ」中央法規出版
 (教)「障害の理解」中央法規出版

●授業内容

1. 障害とは何か
- 2～3. 聞こえのしくみと、聴覚、言語障害の種類
- 4～5. 聴覚、言語障害者のコミュニケーション
6. 障害者の教育の歩み
7. 重複障害(盲ろう)に応じた介護
- 8～9. 聴覚、言語障害教育の実践
(聾学校参観と交流)
- 10～11. 聴覚障害者の補装具等について
12. 聴覚、言語障害者の生活支援
13. 聴覚、言語障害者の生活支援の実際
14. 聴覚、言語障害者の生活を高める介護福祉機器
15. まとめ
16. 筆記試験

●授業時間外の学習(必要な時間)

- (予習) 次回行う単元部分の教科書を読んでくる。
(20分)
- (復習) 授業後は、授業内容等についてノートを整理する。(20分)
- ・介護福祉士国家試験対策学習(一日60分)

授 業 科 目		担 当 者	
生活支援技術Ⅶ		黄 木 信 子	
授業形態	単 位 数	開 講 時 期	
演 習	2	後 期	
必 修	選 択	主事任用	
○		○	

●テーマ・概要

介護に適した衣服を、心地よく清潔に保ち生活を送るための援助の視点を理解したい。

●到達目標

- ・介護に適した衣、衣生活を考えられ、快適でしかも実用性のある衣の選択、管理までできる能力を身につける。
- ・「学び続け、成長し続ける能力」(1)「自分の実践について振り返り、より良い実践を目指して、主体的に学ぶことができる」能力を身につける。

●評価方法

ものづくりを基本とし、完成した作品を点数で評価する。作品づくりにより、領域理解の程度(60%)、「学び続け、成長し続ける能力」(1)獲得の程度(25%)、授業参加度(15%)で評価する。提出作品には、講評を行う。

●教科書・参考文献

(教)「生活支援技術Ⅰ」中央法規出版

●授業内容

1. 自立に向けた生活支援(衣生活)
- 2～4. 衣服着用の目的と機能(洗濯から収納まで)
- 5～6. 縫製基礎技術の習得(手縫い)
- 7～8. 縫製基礎技術の習得(ミシン縫い)
- 9～10. 折り紙遊び(レクリエーションの視点)
- 11～12. 製作(布と針を使って)
- 13～14. 製作(リボンを使って)
- 15～18. 応用縫製技術の習得
- 19～20. 知育に繋がる製作物
- 21～22. 補綴の仕方
- 23～24. 継ぎ方
- 25～26. ほころび直し
- 27～28. 繊維製品の取り扱い方法
29. 繊維の特徴
30. まとめ

●授業時間外の学習(必要な時間)

- (予習) 作品提出日まで、作品の完成を目指す。
(各自)
- ・介護福祉士国家試験対策学習(一日60分)

授 業 科 目		担 当 者
介護過程 I		荒 木 隆 俊
授業形態	単 位 数	開 講 時 期
講義	2	前 期
必 修	選 択	主事任用
○		○

●テーマ・概要

他科目で学習する知識や技術も統合して、介護計画を立案し、適切な介護サービスを提供できる視点を理解したい。

●到達目標

- ・介護実践において、介護過程の意義、目的を理解し、適切な情報収集能力、介護計画の立案ができ、適切な介護サービスができる能力を身につける。
- ・「コミュニケーション能力」(1)「人間や人間の生活、社会についての知識・理解」能力を身につける。

●評価方法

筆記試験と課題（介護過程視点・留意点等ノートの作成）により、領域理解の程度(60%)、「コミュニケーション能力」(1)獲得の程度(25%)、授業参加度(15%)で評価する。試験採点后、講評を行う。

●教科書・参考文献

(教)「介護過程」中央法規出版

●授業内容

1. 介護過程とは
2. 生活支援の考え方と介護過程の必要性
3. 介護過程の意義と目的
- 4～5. 介護過程の展開の基本視点
6. 介護過程の全体像
7. アセスメントとは（ICFの視点）
8. 情報収集の手段
9. 情報の分析・解釈・統合
10. 課題の明確化
- 11～12. 計画立案の方法
13. 実施の際の留意点及び実施状況の把握
14. 評価について
15. まとめ
16. 筆記試験

●授業時間外の学習(必要な時間)

(予習) 次回行う単元部分の教科書を読んでくる。
(20分)

(復習) 授業後は、授業内容等についてプリントに記録し、毎回、課題のノート作成を行う。
(30分)

- ・介護福祉士国家試験対策学習（一日60分）

授 業 科 目		担 当 者
介護過程 II		櫻井嘉宏、山本清智、鈴木春香
授業形態	単 位 数	開 講 時 期
演習	2	前 期
必 修	選 択	主事任用
○		○

●テーマ・概要

介護過程 I の授業で学んだ内容について、理解をより深めるために、介護の実践活動が介護過程とどのように生かされ行われていくかについて、その過程の考え方や構成要素について、実際に行われていく介護過程の展開について演習を通して理解したい。

●到達目標

- ・介護実践において、介護過程の意義、目的を理解し、適切な情報収集能力、介護計画の立案ができ、適切な介護サービスが提供できること。また、記録の整理の仕方や書き方なども合わせて的確に準備できる能力を身につける。
- ・「自分で考え、実践できる能力」(1)「現状をしっかりととらえることができる」能力を身につける。

●評価方法

毎回行う介護過程の演習課題により、領域理解の程度(60%)、「自分で考え、実践できる能力」(1)獲得の程度(25%)、授業参加度(15%)で評価する。課題については、その都度講評を行う。

●教科書・参考文献

(教)「介護過程」中央法規出版

●授業内容

1. 利用者の特性に応じた介護過程の実践的展開
- 2～5. グループワーク：事例①（アセスメント・介護計画の立案・実施・評価と修正）
- 6～8. 各視点の共有 グループ発表
- 9～12. グループワーク：事例②（アセスメント・介護計画の立案・実施・評価と修正）
- 13～15. 各視点の共有 グループ発表
- 16～29. 個別介護計画作成演習

介護実習の指定時間数210時間内では、介護過程の計画、実施、評価といった一連の具体的な介護過程を展開していくには、時間的な余裕がない。そのため、介護実習Ⅰ－①で、対象利用者を選定し、個々の情報収集をするよう指導していく。これに基づき、介護実習Ⅱで具体的に展開するにあたり、具体的な計画案を作成し、介護実習Ⅱに備える作業を行う。

30. まとめと各自が行った介護過程の評価

●授業時間外の学習(必要な時間)

(予習) 次回の授業に支障のないよう演習課題の準備をする。(各自)

(復習) 授業後は、各自の課題を完成する。(各自)

- ・介護福祉士国家試験対策学習（一日60分）

授 業 科 目		担 当 者	
介護過程Ⅲ		荒木隆俊、松田水月、宮地康子	
授業形態	単位数	開 講 時 期	
演習	2	後期	
必 修	選 択	主事任用	
○		○	

●テーマ・概要

他科目で学習する知識や技術を統合して、実際に介護実習で取り組んだ事例に対して、適切な介護サービスを提供できる能力と、それらを的確に記録し、説明できる能力を身につけたい。

●到達目標

- ・介護実践において、介護過程の意義、目的を理解し、適切な情報収集能力、介護計画の立案ができ、適切な介護サービスが提供できる能力を身につける。
- ・各自が介護実習で取り組んだ介護過程を整理し記録できる能力を身につける。
- ・その展開事例を、口頭で報告できて、質問に答えられる能力を身につける。
- ・他の学生の事例を理解できる能力を身につける。
- ・「フィードバック能力」(2)「見つけた課題について修正や改善をすることができる」能力を身につける。
- ・「学び続け、成長し続ける能力」(2)「実践の経験を再構成して、専門的知識・理解・技術へと高めることができる」能力を身につける。

●評価方法

研究発表の内容等（質問・意見・考え方等）により、各自が介護実習で取り組んだ介護過程の展開の報告書作成(60%)、「フィードバック能力」(2)、「学び続け、成長し続ける能力」(2)獲得の程度(25%)、授業参加度(15%)で評価する。研究発表会の内容等を優先。最後に全体講評を行う。

●教科書・参考文献

(教)「介護過程」中央法規出版

●授業内容

- 1～2. カンファレンス
(意義と目的・効果的視点)
- 3～4. モニタリング (意義と目的・効果的視点)
- 5～6. 評価 (意義と目的・効果的視点)
7. 介護過程とチームアプローチ
8. 介護過程に必要な記録等
- 9～12. 介護実習で取り組んだ事例の紹介
- 13～21. 介護実習で取り組んだ介護過程の整理と研究
- 22～30. 研究発表会
31. まとめ

●授業時間外の学習(必要な時間)

- (予習) 自分の事例を十分に発表できる準備を行う。(各自)
- (復習) 他の学生の取り組み事例に対して、自分の考えを述べられる準備をする。(各自)
- ・介護福祉士国家試験対策学習 (一日60分)

授 業 科 目		担 当 者	
介護総合演習Ⅰ		荒木隆俊、松田水月、宮地康子	
授業形態	単位数	開 講 時 期	
演習	1	前期	
必 修	選 択	主事任用	
○		○	

●テーマ・概要

体験する介護実習を共有し、介護福祉士としての質的向上を図る。介護実習に向けての心構えや動機づけを行いながら、介護福祉士としての専門職に求められる福祉・介護の理念や職業倫理等を理解したい。

●到達目標

- ・介護実習に向けての目的を明確にして望んでいる。
- ・社会人としての規範、心構え、礼儀等を身につけようと努力している。
- ・専門職として介護福祉士の自覚を持ち、他者に共感でき相手の立場に立って介護サービスを提供できる視点を明らかにしようとする。
- ・「自分で考え、実践できる能力」(1)「現状をしっかりとりとえることができる」能力を身につける。

●評価方法

評価の方法として、実習に関する提出書類や課題により、領域理解の程度(60%)、「自分で考え、実践できる能力」(1)獲得の程度(25%)、授業参加度(15%)で評価する。

●教科書・参考文献

(参)「介護総合演習・介護実習」中央法規出版

●授業内容

- 1～3. 介護実習とは
- 4～5. 介護実習計画
- 6～7. グループ討議 実習課題や悩み、不安の共有
- 8～9. 社会人としての規範、心構え、礼儀等の社会性を実習にどう結び付けていくか
10. 記録の書き方 実習への諸注意
- 11～12. 介護実習Ⅰの整理
(自己評価及び課題の修正等)
- 13～15. 実習施設ごとの今後の方向性の共有
16. まとめと、介護実習Ⅰ-② Ⅱへの実習指導

●授業時間外の学習(必要な時間)

- (予習・復習) 実習前に実習施設種別について深く発展させて調べて、各実習のねらい、目的等を明確にしノートに記録する。(30分)
- ・介護福祉士国家試験対策学習 (一日60分)

授 業 科 目		担 当 者	
介護総合演習Ⅱ		松田水月、宮地康子、荒木隆俊	
授業形態	単位数	開 講 時 期	
演習	1	後期	
必修	選択	主事任用	
○		○	

●テーマ・概要

介護過程Ⅲと連動して、体験した介護実習を共有し、介護福祉士としての質的向上を明確にしたい。

●到達目標

- ・介護実習の成果を整理でき、記録としてまとめ、各自の課題を説明できる。
- ・介護福祉士として、どんな姿勢を持って対象者と関わっていくかを明確にしてサービスを提供できる能力を身につける。
- ・「自分で考え、実践できる能力」(5)「自分の価値観に基づいて判断し、実践することができる」能力を身につける。

●評価方法

実習に関する提出課題（介護過程のまとめ）により、領域理解の程度(60%)、「自分で考え、実践できる能力」(5)獲得の程度(25%)、授業参加度(15%)で評価する。

●教科書・参考文献

(教)「介護過程」中央法規出版

(参)「介護総合演習・介護実習」中央法規出版

●授業内容

- 1～3. 介護実習の整理
 - 4～8. 介護実習報告会
 - 9～14. 介護実習で学んだ情報の共有(分析と研究)
 15. 介護福祉士としての質、サービス提供を行う際の基本的な視点を明らかにする。
 16. まとめ
- 授業時間外の学習(必要な時間)
- (予習・復習) 介護実習で学んだ情報を整理して、自分の観点で介護過程の展開を記録する。(各自)
- ・介護福祉士国家試験対策学習（一日60分）

授 業 科 目		担 当 者	
介護実習Ⅰ－①		荒木隆俊、松田水月 宮地康子、伊藤和雄	
授業形態	単位数	開 講 時 期	
実習	2	前期	
必修	選択	主事任用	
○			

●テーマ・概要

個々の生活リズムや個性を理解するという観点から、個別ケアを理解し、利用者・家族とのコミュニケーションの実践、介護技術の確認、他職種協働や関係機関との連携等を体験し、チームの一員として介護福祉士の役割について理解したい。

●到達目標

- ・介護という職業の意義深さ、介護を行う者としての働く姿勢、職業倫理等を身につけ、常に介護対象者の人権を護り、介護の本質を探究する基本的な姿勢を身につける。
- ・「フィードバック能力」(1)「自分の実践について検証し、課題を見つけることができる」能力を身につける。

●評価方法

施設からの実習評価及び実習日誌により、介護全般に対する領域理解の程度(40%)、「フィードバック能力」(1)獲得の程度(30%)、実習参加度(30%)で評価する。

●教科書・参考文献

(参)「介護総合演習・介護実習」中央法規出版

●授業内容

実習施設・事業(Ⅰ)における実習

特別養護老人ホーム

老人保健施設

障がい者支援施設

- ・介護実習Ⅰ－①では、介護対象者の生活の場である介護現場で、人間形成をしながら慣れ親しんだ伝統や文化のある地域社会で暮らす高齢者や障害のある人が、施設等の利用に際しても、そのらしさを維持しながら生活状況について理解する。
- ・生活を維持させるためには何が必要なのかという、個別ケアの実践の重要性について理解する。
- ・介護実践のための基本的な生活支援技術を学び、介護をする上で必要な他の職種の役割等にも触れ、生活支援チームの一員としての介護福祉士の役割についても理解する。

●実習時間外の学習(必要な時間)

(予習・復習) 日誌記入及び、学習課題等を明確にする。(各自)

授 業 科 目		担 当 者	
介護実習Ⅰ－②		荒木隆俊、松田水月 宮地康子、伊藤和雄	
授業形態	単位数	開 講 時 期	
実習	1	前期	
必 修	選 択	主事任用	
○			

●テーマ・概要

介護対象者の暮らしや住まい等の日常生活の理解や多様な介護サービスの理解を行うことができるよう、訪問介護、通所介護現場での介護実習を行う。

●到達目標

- ・介護対象者の生活理解を中心として、介護対象者・家族とのコミュニケーション等の実践を通して、介護のみならず、様々な介護現場で適切な介護サービスを提供できる能力を身につける。
- ・「フィードバック能力」(1)「自分の実践について検証し、課題を見つけることができる」能力を身につける。

●評価方法

施設からの実習評価及び実習日誌により、介護全般に対する領域理解の程度(40%)、「フィードバック能力」(1)獲得の程度(30%)、実習参加度(30%)で評価する。

●教科書・参考文献

(参)「介護総合演習・介護実習」中央法規出版

●授業内容

- 実習施設・事業(Ⅰ)における実習
 - 訪問介護事業所
 - 通所介護事業所
 - 小規模多機能型居宅介護事業所

- ・介護実習Ⅰ－②では、在宅介護現場での実習を行う。
- ・個々の生活リズムや個性を理解するという観点から、様々な生活の場において種々の介護サービスが行われていることを理解しながら、その人らしさを維持しながら生活している状況について学ぶ。

●実習時間外の学習(必要な時間)

(予習・復習) 日誌記入及び、学習課題等を明確にする。(各自)

授 業 科 目		担 当 者	
介護実習Ⅱ		荒木隆俊、松田水月 宮地康子、伊藤和雄	
授業形態	単位数	開 講 時 期	
実習	3	前期	
必 修	選 択	主事任用	
○			

●テーマ・概要

介護実習Ⅰ－①と介護実習Ⅰ－②を基礎にして、個別ケアを行うためには個々の生活リズムや個性を理解し、介護対象者の課題を明確にしなければならない。そこで介護実習Ⅱでは、介護対象者ごとの介護計画の作成、実施後の評価やこれを踏まえた計画の修正といった介護過程を展開し、他科目で学習した知識や技術を総合して、具体的な介護サービスの提供の基本となる実践力を身につけたい。

●到達目標

- ・一連の介護過程の展開ができ、これらを意識しながら介護サービスを提供できる能力を身につける。
- ・「フィードバック能力」(3)「実践中に、瞬時に判断し、修正や改善をすることができる」能力を身につける。

●評価方法

施設からの実習評価及び実習日誌により、介護全般に対する領域理解の程度(40%)、「フィードバック能力」(3)獲得の程度(30%)、実習参加度(30%)で評価する。

●教科書・参考文献

(参)「介護総合演習・介護実習」中央法規出版

●授業内容

- 実習施設・事業(Ⅱ)における実習
 - 特別養護老人ホーム
 - 老人保健施設
 - 障がい者支援施設

- ・介護対象者の情報収集をもとに、各自の立てた介護計画を持参し、実習指導者と十分相談、連携を行いながら介護過程の展開を進めていく。
- ・介護過程の展開を思考、実践する際は、個々の介護対象者の生活背景や生活リズムを理解し、必要な情報を収集し、自立支援の観点から実際の場面での介護過程の展開能力を身につける。また、介護計画の作成、実施後の評価や、これを踏まえた計画の修正といった一連の介護過程のすべてを継続的に繰り返し実施し、日々の介護活動に対して、自ら行った介護実践の評価や計画を修正しながら関わりあえる姿勢と能力を身につける。
- ・介護実習全体を通して介護という職業の意義深さ、介護を行うものとして働く姿勢、職業倫理を身につけ、常に人権を守り、介護の本質を探究する介護福祉士をめざす。

●実習時間外の学習(必要な時間)

(予習・復習) 日誌記入及び、学習課題等を明確にする。(各自)

- ・日々の生活を、人間を相手にする専門職者として、人間としての成長を自覚しながら生活をする。

授 業 科 目		担 当 者	
発達と老化の理解		宮 地 康 子	
授業形態	単 位 数	開 講 時 期	
講義	2	前 期	
必 修	選 択	主事任用	
○		○	

●テーマ・概要

成長・発達の観点から老化を理解し、老化に関する心理や身体機能の変化に関する基礎的な知識を習得し、生活支援技術の根拠となる具体的な知識を理解したい。

●到達目標

- ・人間の発達と老化を理解し、心理面からサポートできる介護福祉士像を意識して学んでいる。
- ・人間の成長と発達の基礎的理解を深め、高齢者の心理的、身体的特徴を説明できる。
- ・「コミュニケーション能力」(1)「人間や人間の生活、社会についての知識・理解」能力を身につける。

●評価方法

筆記試験と授業内容の理解を確認するプリントにより、領域理解の程度(60%)、「コミュニケーション能力」(1)獲得の程度(25%)、授業参加度(15%)で評価する。試験採点后、講評を行う。

●教科書・参考文献

(教)「発達と老化の理解」中央法規出版

●授業内容

1. 人間の成長と発達の基礎的理解
2. 老年期の定義 (WHO、老人福祉法、老人保健法の老人医療制度)
3. 老年期の発達と成熟
- 4～5. 老化に伴うこころとからだの変化と日常生活
- 6～7. 老化に伴う心身機能の変化と日常生活への影響
- 8～9. 高齢者の心理
- 10～11. 高齢者の疾病と生活上の留意点
12. 高齢者と健康
13. 高齢者に多い病気とその日常生活上の留意点
14. 保健医療職との連携
15. まとめ
16. 筆記試験

●授業時間外の学習(必要な時間)

(予習) 次回行う単元部分の教科書を読んでくる。(20分)

(復習) 授業後は、授業内容等についてプリントに記録する。(20分)

- ・介護福祉士国家試験対策学習 (一日60分)

授 業 科 目		担 当 者	
認知症の理解		松田水月、宮地康子、荒木隆俊	
授業形態	単 位 数	開 講 時 期	
講義	4	前 期	
必 修	選 択	主事任用	
○		○	

●テーマ・概要

認知症に関する基礎知識を習得するとともに、認知症のある人の体験や意思表示が困難な特性を理解し、本人のみならず家族を含めた周囲の環境にも配慮した介護の視点を理解したい。

●到達目標

- ・認知症の基礎知識、特性を理解し、本人または家族を含めた介護を展開できる基本的な支援方法を説明できる。
- ・「コミュニケーション能力」(1)「人間や人間の生活、社会についての知識・理解」能力を身につける。

●評価方法

筆記試験と授業内容の理解を確認するプリントにより、領域理解の程度(60%)、「コミュニケーション能力」(1)獲得の程度(25%)、授業参加度(15%)で評価する。試験採点后、講評を行う。

●教科書・参考文献

(教)「認知症の理解」中央法規出版

●授業内容

- 1～2. 認知症を取り巻く状況
- 3～4. 認知症に関する行政の方針と施策
- 5～6. 認知症と間違われやすい症状
- 7～12. 医学的側面から見た認知症の基礎
(認知症とは・認知症の診断・判定・認知症の主要疾患とその治療・認知症の予防・認知症の人の行動と心理的状況)
- 13～14. 認知機能の変化が生活に及ぼす影響
15. まとめ
16. 筆記試験

●授業時間外の学習(必要な時間)

(予習) 次回行う単元部分の教科書を読んでくる。(20分)

(復習) 授業後は、授業内容等についてプリントに記録する。(20分)

- ・介護福祉士国家試験対策学習 (一日60分)

授 業 科 目		担 当 者	
認知症の理解		松田水月、宮地康子、荒木隆俊	
授業形態	単位数	開 講 時 期	
講義	—	後期	
必修	選択	主事任用	
○		○	

●テーマ・概要

認知症に関する基礎知識を習得するとともに、認知症のある人の体験や意思表示が困難な特性を理解し、本人のみならず家族を含めた周囲の環境にも配慮した介護の視点を理解したい。

●到達目標

- ・ 認知症の基礎知識、特性を理解し、本人または家族を含めた介護を展開できる介護福祉士を目指している。
- ・ 「学び続け、成長し続ける能力」(1)「自分の実践について振り返り、より良い実践を目指して、主体的に学ぶことができる」能力を身につける。

●評価方法

筆記試験と授業内容の理解を確認するプリントにより、領域の理解の程度(60%)、「学び続け、成長し続ける能力」(1)獲得の程度(25%)、授業参加度(15%)で評価する。試験採点后、講評を行う。

●教科書・参考文献

(教)「認知症の理解」中央法規出版

●授業内容

17. 認知症の人への関わり方の基本
- 18～22. 認知症の人の特徴的な心理・行動とその対応
- 23～25. 認知症に伴う機能の変化と日常生活
26. 地域におけるサポート体制
- 27～28. 連携と協働
- 29～30. 家族への支援
31. まとめ
32. 筆記試験

●授業時間外の学習(必要な時間)

- (予習) 次回行う単元部分の教科書を読んでくる。(20分)
- (復習) 授業後は、授業内容等についてプリントに記録する。(20分)
- ・ 介護福祉士国家試験対策学習 (一日60分)

授 業 科 目		担 当 者	
障害の理解		伊 藤 和 雄	
授業形態	単位数	開 講 時 期	
講義	2	後期	
必修	選択	主事任用	
○		○	

●テーマ・概要

障害のある人の心理や身体機能に関する基礎的知識を習得するとともに、障害のある人の体験を理解し、本人のみならず、家族を含めた周囲の環境にも配慮した介護の視点を理解したい。

●到達目標

- ・ 障害者福祉の動向を説明できる。
- ・ 障害のある人の心理や身体機能に関する基礎的知識を習得させ、本人、家族を含めた介護のあり方についてアセスメントを行い、介護の展開を説明できる。
- ・ 「コミュニケーション能力」(1)「人間や人間の生活、社会についての知識・理解」能力を身につける。

●評価方法

筆記試験と提出してもらった課題レポートにより、領域理解の程度(60%)、「コミュニケーション能力」(1)獲得の程度(25%)、授業参加度(15%)で評価する。試験採点后、講評を行う。

●教科書・参考文献

(教)「障害の理解」中央法規出版

●授業内容

- 1～2. 障害の基礎的理解
3. 肢体不自由(運動機能障害)のある人の理解
4. 内部障害のある人の理解
5. 視覚障害のある人の理解
6. 聴覚障害のある人の理解
7. 言語に障害を認める人の理解
8. 発達障害のある人の理解
9. 精神障害のある人の理解
10. 高次脳機能障害を認める人の理解
11. 難病及び全介助を要する人の理解
- 12～13. 障害者介護における連携と協働
14. 障害者を持つ家族への支援
15. まとめ
16. 筆記試験

●授業時間外の学習(必要な時間)

- (予習) 次回行う単元部分の教科書を読んでくる。(20分)
- (復習) 授業後は、授業内容等についてプリントに記録する。(20分)
- ・ 介護福祉士国家試験対策学習 (一日60分)

授 業 科 目		担 当 者	
こころとからだⅠ		松 田 水 月	
授業形態	単 位 数	開 講 時 期	
講義	2	前 期	
必 修	選 択	主事任用	
○		○	

●テーマ・概要

介護実習等で習得した介護技術の根拠となる人体の構造や機能および、介護サービスの提供時における安全への留意点や心理的側面での配慮について理解したい。

●到達目標

- ・こころとからだの連携性を説明できる。
- ・ターミナルケアの視点を説明できる。
- ・人体の構造や機能を理解したうえで、適切な介護サービスを提供できる基本的な視点を説明できる。
- ・「コミュニケーション能力」(1)「人間や人間の生活、社会についての知識・理解」能力を身につける。

●評価方法

筆記試験と授業内容の理解を確認するプリントにより、領域理解の程度(60%)、「コミュニケーション能力」(1)獲得の程度(25%)、授業参加度(15%)で評価する。試験採点后、講評を行う。

●教科書・参考文献

(教)「こころとからだのしくみ」中央法規出版

●授業内容

1. こころとからだのしくみの理解
- 2～3. 身じたくに関連したこころとからだのしくみ
- 4～5. 移動に関連したこころとからだのしくみ
- 6～7. 食事に関連したこころとからだのしくみ
- 8～9. 入浴、清潔保持に関連したこころとからだのしくみ
- 10～11. 排泄に関連したこころとからだのしくみ
- 12～13. 睡眠に関連したこころとからだのしくみ
14. 死にゆく人のこころとからだのしくみ
15. まとめ
16. 筆記試験

●授業時間外の学習(必要な時間)

- (予習) 次回行う単元部分の教科書を読んでくる。(20分)
- (復習) 授業後は、授業内容等についてプリントに記録する。(20分)
- ・介護福祉士国家試験対策学習(一日60分)

授 業 科 目		担 当 者	
こころとからだⅡ		松 田 水 月	
授業形態	単 位 数	開 講 時 期	
講義	2	後 期	
必 修	選 択	主事任用	
○		○	

●テーマ・概要

近年、施設、住宅においても医療的知識が不可欠となってきたおり、福祉と医療の連携はますます重要になってくると思われる。このことを踏まえ、介護福祉に携わるものとして、基礎的な医学的知識、心理状態について理解したい。

●到達目標

- ・人体の構造や機能を理解したうえで、適切な介護サービス提供を説明できる。
- ・「学び続け、成長し続ける能力」(1)「自分の実践について振り返り、より良い実践を目指して、主体的に学ぶことができる」能力を身につける。

●評価方法

筆記試験と授業内容の理解を確認するプリントにより、領域理解の程度(60%)、「学び続け、成長し続ける能力」(1)獲得の程度(25%)、授業参加度(15%)で評価する。試験採点后、講評を行う。

●教科書・参考文献

(教)「こころとからだのしくみ」中央法規出版

●授業内容

1. 介護福祉士にとって医療・看護とは
- 2～4. 人体の構造と機能・疾患
- 5～9. 現代社会と疾病
10. リハビリテーション医療
- 11～12. 在宅医療の現状
- 13～14. 保健、医療システムの現状
15. まとめ
16. 筆記試験

●授業時間外の学習(必要な時間)

- (予習) 次回行う単元部分の教科書を読んでくる。(20分)
- (復習) 授業後は、授業内容等についてプリントに記録する。(20分)
- ・介護福祉士国家試験対策学習(一日60分)

授 業 科 目		担 当 者
社会福祉演習		伊藤和雄、宮地康子 松田水月、荒木隆俊
授業形態	単位数	開 講 時 期
演習	2	前・後期
必修	選択	主事任用
	○	

●テーマ・概要

介護実践に必要な知識を習得する。
国家試験の受験対策を主とする。

●到達目標

- ・福祉職としての介護福祉士の知識を習得する。
- ・「学び続け、成長し続ける能力」(2)「実践の経験を再構成して、専門的知識・理解・技術へと高めることができる」能力を身につける。

●評価方法

評価の方法として、講義内容の理解を確認する模擬試験等により、領域理解の程度(60%)、「学び続け、成長し続ける能力」(2)獲得の程度(25%)、授業参加度(15%)で評価する。試験採点后、講評を行う。

●教科書・参考文献

- (教)「専攻科使用テキスト」中央法規出版
(参)「介護福祉士 国試ナビ」中央法規出版
(参)「介護福祉士国家試験過去問題集」中央法規出版
(参)「介護福祉士国家試験模擬問題集」中央法規出版

●授業内容

- 1～30. 国家試験対策
31. 筆記試験

●授業時間外の学習(必要な時間)

- (予習) 次回行う単元部分の教科書を読んでくる。
(20分)
(復習) 授業後は、授業内容等についてプリントに記録する。(20分)
・介護福祉士国家試験対策学習(一日60分)

授 業 科 目		担 当 者
医療的ケア I		松田水月、宮地康子
授業形態	単位数	開 講 時 期
講義	4	前期
必修	選択	主事任用
	○	

●テーマ・概要

喀痰吸引・経管栄養は医行為である。利用者に対して医療提供上の危機管理を踏まえて安全に提供されるべきものである。介護を学ぶ上で医療の倫理を遵守し、チーム医療を担う一員であることを自覚し実践に当たることを理解したい。

●到達目標

- ・医療的ケアを安全・適切に実施する為に必要な知識・技術を説明できる。
- ・「自分で考え、実践できる能力」(3)「学際的な視点で考えることができる」能力を身につける。

●評価方法

筆記試験と授業内容を理解するプリントにより領域理解の程度(65%)、「自分で考え、実践できる能力」(3)獲得の程度(20%)、授業参加度(15%)で評価する。試験採点后、講評を行う。

●教科書・参考文献

- (教)「医療的ケア」中央法規出版

●授業内容

〈「喀痰吸引等研修実施要綱について」に準じて実施する為、時間数は60分単位とする〉

1. 人間と社会 個人の尊厳と自立 (0.5時間)
2. 人間と社会 医療の倫理 (0.5時間)
3. 人間と社会 利用者や家族の気持ちの理解 (0.5時間)
4. 保健医療制度とチーム医療
医療保険に関する制度 (1.0時間)
5. 保健医療制度とチーム医療
医行為に関係する法律 (0.5時間)
6. 保健医療制度とチーム医療
チーム医療と介護職員との連携 (0.5時間)
7. 安全な療養生活
喀痰吸引や経管栄養の安全な実施 (2.0時間)
8. 安全な療養生活 救急蘇生 (2.0時間)
9. 清潔保持と感染予防 感染予防 (0.5時間)
10. 清潔保持と感染予防
職員の感染予防 (0.5時間)
11. 清潔保持と感染予防
療養環境の清潔、消毒法 (0.5時間)
12. 清潔保持と感染予防 滅菌と消毒 (1.0時間)
13. 健康状態の把握 身体・精神の健康 (1.0時間)
14. 健康状態の把握 健康状態を知る項目
(バイタルサインなど) (1.5時間)
15. 健康状態の把握 急変状態について (0.5時間)

●授業時間外の学習(必要な時間)

- (予習) 次回行う単元部分の教科書を読んでくる。
(20分)
(復習) 授業後は、授業内容等についてプリントに記録する。(20分)
・介護福祉士国家試験対策学習(一日60分)

授 業 科 目		担 当 者	
医療的ケア I		松田水月、宮地康子	
授業形態	単 位 数	開 講 時 期	
講義	—	前 期	
必 修	選 択	主事任用	
○			

●テーマ・概要

喀痰吸引・経管栄養は医行為である。利用者に対して医療提供上の危機管理を踏まえて安全に提供されるべきものである。介護を学ぶ上で医療の倫理を遵守し、チーム医療を担う一員であることを自覚し実践に当たることを理解したい。

●到達目標

- ・医療的ケアを安全・適切に実施する為に必要な知識・技術を説明できる。
- ・「自分で考え、実践できる能力」(3)「学際的な視点で考えることができる」能力を身につける。

●評価方法

筆記試験、課題レポートにより各領域理解の程度(65%)、「自分で考え、実践できる能力」(3)獲得の程度(20%)、授業参加度(15%)で評価する。試験採点后、講評を行う。

●教科書・参考文献

(教)「医療的ケア」中央法規出版

●授業内容

〈「喀痰吸引等研修実施要綱について」に準じて実施する為、時間数は60分単位とする〉

〈喀痰吸引(基礎的知識・実施手順)〉

16. 高齢者および障害児・者の喀痰吸引概論
呼吸のしくみとはたらき (1.5時間)
17. 高齢者および障害児・者の喀痰吸引概論
いつもと違う呼吸状態 (1.0時間)
18. 高齢者および障害児・者の喀痰吸引概論
喀痰吸引とは (1.0時間)
19. 高齢者および障害児・者の喀痰吸引概論
人工呼吸器と吸引 (2.0時間)
20. 高齢者および障害児・者の喀痰吸引概論
子どもの吸引について (1.0時間)
21. 高齢者および障害児・者の喀痰吸引概論
吸引を受ける利用者や家族の対応、説明と同意 (0.5時間)
22. 高齢者および障害児・者の喀痰吸引概論
呼吸器系の感染と予防(吸引と関連して) (1.0時間)
23. 高齢者および障害児・者の喀痰吸引概論
喀痰吸引により生じる危険、事後の安全確認 (1.0時間)
24. 高齢者および障害児・者の喀痰吸引概論
急変・事故発生時の対応と事前対策 (2.0時間)

●授業時間外の学習(必要な時間)

- (予習) 次回行う単元部分の教科書を読んでくる。(20分)
- (復習) 授業後は、授業内容等についてプリントに記録する。(20分)
- ・介護福祉士国家試験対策学習(一日60分)

授 業 科 目		担 当 者	
医療的ケア I		松田水月、宮地康子	
授業形態	単 位 数	開 講 時 期	
講義	—	前 期	
必 修	選 択	主事任用	
○			

●テーマ・概要

喀痰吸引・経管栄養は医行為である。利用者に対して医療提供上の危機管理を踏まえて安全に提供されるべきものである。介護を学ぶ上で医療の倫理を遵守し、チーム医療を担う一員であることを自覚し実践に当たることを理解したい。

●到達目標

- ・医療的ケアを安全・適切に実施する為に必要な知識・技術を説明できる。
- ・「自分で考え、実践できる能力」(3)「学際的な視点で考えることができる」能力を身につける。

●評価方法

筆記試験、課題レポートにより各領域理解の程度(65%)、「自分で考え、実践できる能力」(3)獲得の程度(20%)、授業参加度(15%)で評価する。試験採点后、講評を行う。

●教科書・参考文献

(教)「医療的ケア」中央法規出版

●授業内容

〈「喀痰吸引等研修実施要綱について」に準じて実施する為、時間数は60分単位とする〉

〈喀痰吸引(基礎的知識・実施手順)〉

25. 高齢者および障害児・者の喀痰吸引実施手順解説
喀痰吸引で用いる器具・器材とそのしくみ、清潔保持 (1.0時間)
 26. 高齢者および障害児・者の喀痰吸引実施手順解説
吸引の技術と留意点 (5.0時間)
 27. 高齢者および障害児・者の喀痰吸引実施手順解説
喀痰吸引にともなうケア (1.0時間)
 28. 高齢者および障害児・者の喀痰吸引実施手順解説
報告および記録 (1.0時間)
- 〈経管栄養(基礎的知識・実施手順)〉
29. 高齢者および障害児・者の経管栄養概論
消化器系のしくみとはたらき (1.5時間)
 30. 高齢者および障害児・者の経管栄養概論
消化・吸収とよくある消化器の症状 (1.0時間)
 31. 高齢者および障害児・者の経管栄養概論
経管栄養とは (1.0時間)
 32. 高齢者および障害児・者の経管栄養概論
注入する内容に関する知識 (1.0時間)
 33. 高齢者および障害児・者の経管栄養概論
経管栄養実施上の留意点 (1.0時間)
 34. 高齢者および障害児・者の経管栄養概論
子どもの経管栄養について (1.0時間)

●授業時間外の学習(必要な時間)

- (予習) 次回行う単元部分の教科書を読んでくる。(20分)
- (復習) 授業後は、授業内容等についてプリントに記録する。(20分)
- ・介護福祉士国家試験対策学習(一日60分)

授 業 科 目		担 当 者	
医療的ケアⅠ		松田水月、宮地康子	
授業形態	単位数	開 講 時 期	
講義	—	前期	
必修	選択	主事任用	
○			

●テーマ・概要

喀痰吸引・経管栄養は医行為である。利用者に対して医療提供上の危機管理を踏まえて安全に提供されるべきものである。介護を学ぶ上で医療の倫理を遵守し、チーム医療を担う一員であることを自覚し実践に当たることを理解したい。

●到達目標

- ・医療的ケアを安全・適切に実施する為に必要な知識・技術を説明できる。
- ・「自分で考え、実践できる能力」(3)「学際的な視点で考えることができる」能力を身につける。

●評価方法

筆記試験、課題レポートにより各領域理解の程度(65%)、「自分で考え、実践できる能力」(3)獲得の程度(20%)、授業参加度(15%)で評価する。試験採点后、講評を行う。

●教科書・参考文献

(教)「医療的ケア」中央法規出版

●授業内容

〈「喀痰吸引等研修実施要綱について」に準じて実施する為、時間数は60分単位とする〉

〈経管栄養(基礎的知識・実施手順)〉

35. 高齢者および障害児・者の経管栄養概論
経管栄養に係る感染と予防 (1.0時間)
36. 高齢者および障害児・者の経管栄養概論
経管栄養を受ける利用者や家族の気持ちと対応、説明と同意 (0.5時間)
37. 高齢者および障害児・者の経管栄養概論
経管栄養により生じる危険、注入後の安全確認 (1.0時間)
38. 高齢者および障害児・者の経管栄養概論
急変・事故発生時の対応と事前対策 (1.0時間)
39. 高齢者および障害児・者の経管栄養実施手順解説
経管栄養で用いる器具・器材とそのしくみ、清潔保持 (1.0時間)
40. 高齢者および障害児・者の経管栄養実施手順解説
経管栄養の技術と留意点 (5.0時間)
41. 高齢者および障害児・者の経管栄養実施手順解説
経管栄養に必要なケア (1.0時間)
42. 高齢者および障害児・者の経管栄養実施手順解説
報告および記録 (1.0時間)
43. まとめ
44. 筆記試験

* 〈 〉内は、各項目の実施時間を示す。

●授業時間外の学習(必要な時間)

(予習) 次回行う単元部分の教科書を読んでくる。(20分)

(復習) 授業後は、授業内容等についてプリントに記録する。(20分)

授 業 科 目		担 当 者	
医療的ケアⅡ		宮地康子、松田水月	
授業形態	単位数	開 講 時 期	
演習	2	後期	
必修	選択	主事任用	
○			

●テーマ・概要

喀痰吸引・経管栄養は医行為である。利用者に対して医療提供上の危機管理を踏まえて安全に提供されるべきものである。介護を学ぶ上で医療の倫理を遵守し、チーム医療を担う一員であることを自覚してほしい。

●到達目標

- ・演習により当該科目を理解し、適切に実施できる。
- ・「フィードバック能力」(1)「自分の実践について検証し、課題を見つけることができる」能力を身につける。

●評価方法

「喀痰吸引等研修実施要綱について」に準ずる。

●教科書・参考文献

(教)「医療的ケア」中央法規出版

●授業内容

1. 喀痰吸引の演習

- 口腔内吸引 5回以上
- 鼻腔内吸引 5回以上
- 気管カニューレ内部 5回以上
- * 医療的ケアの総論及び喀痰吸引の講義すべて終了後に実施
- * 回数については、正確な手順で各項目について5回以上実施
- * 確認テストを実施し、合格したものを終了した者と認める

2. 経管栄養の演習

- 胃ろうまたは腸ろう 5回以上
- 経鼻 5回以上
- * 医療的ケアの総論及び経管栄養の講義すべて終了後に実施
- * 回数については、正確な手順で各項目について5回以上実施
- * 確認テストを実施し、合格したものを終了した者と認める

3. 救急蘇生法 1回以上

- * 医療的ケアの総論及び喀痰吸引及び経管栄養の講義をすべて終了後に実施
- * 回数については、正確な手順で各項目について1回以上実施

4. まとめ

●授業時間外の学習(必要な時間)

(予習) 次回行う単元部分の教科書を読んでくる。(復習) 授業後は、授業内容等についてプリントに記録する。(20分)

・介護福祉士国家試験対策学習(一日60分)

平成30年度 幼児教育科時間割 (前期)

	1 年 次				2 年 次			
	Aクラス	Bクラス	Cクラス	Dクラス	Aクラス	Bクラス	Cクラス	Dクラス
月 1	保育原理 太田 (6号室)		教育原理 大関 (7号室)			こどもと音楽C(歌) 高橋寛(音楽室)		
2	教育原理 大関 (7号室)		音楽基礎A(歌) 高橋寛(音楽室)		保育内容研究(言葉)－1・社会的養護内容－3 柏倉 (8号室)・伊藤 (5号室)			
3	社会福祉概論 伊藤 (7号室)		児童文化 阿部 (6号室)		日本国憲法 高木 (8号室)			
4	児童文化 阿部 (6号室)		社会福祉概論 伊藤 (7号室)		(保育実践研究Ⅲ：4月～6月) 高橋寛・高桑・花田・樋口・白崎			
5	幼児教育者論 大関 (8号室)							
火 1	音楽基礎B(器楽) 白・福・櫻・佐・米 佐々木(レッスン室)	英語コミュニケーション 小林浩(4号室)	体育実技 高桑・沼田(体育館)	図画工作 樋口(図画工作室)	こどもと音楽C(歌) 高橋寛(音楽室)	社会的養護内容－2・保育内容研究(言葉)－3 伊藤 (6号室)・柏倉 (8号室)		
2	英語コミュニケーション 小林浩(4号室)	音楽基礎B(器楽) 白・福・櫻・佐・米 佐々木(レッスン室)	図画工作 樋口(図画工作室)	体育実技 高桑・沼田(体育館)	保育実習指導Ⅱ・就職指導講座 実習委員会・就職指導委員会 (8号室)			
3	新入生支援講座 1学年担任団、他 (4、5、6、8号室)				こどもと音楽B(器楽) 白・福・櫻・佐・米 佐々木(レッスン室)	保育内容研究(健康)－2 高桑 (7号室)		情報処理演習 松田知(情報処理演習室)
4	子どもの生活と福祉 伊藤・荒木・松田水・宮地 (6号室)				情報処理演習 松田知(情報処理演習室)	体育 大木(体育館)	こどもと音楽C(歌) 高橋寛(音楽室)	保育内容総論 花田(5号室)
5					卒業研究B			
水 1	乳児保育－1 柴田 (7号室)		英語コミュニケーション 小林浩(4号室)		保育内容研究(健康)－1 高桑 (8号室)		こどもと音楽B(器楽) 白・福・櫻・佐・米 佐々木(レッスン室)	体育 大木(体育館)
2	音楽基礎A(歌) 高橋寛(音楽室)	子どもの食と栄養B 中村(栄養実習室)	乳児保育－3 柴田 (7号室)		保育内容総論 花田(5号室)	こどもと音楽B(器楽) 白・福・櫻・佐・米 佐々木(レッスン室)	保育内容研究(健康)－3 高桑 (8号室)	
3	教育実習指導 実習委員会 (8号室)				保育内容研究(表現) 大木・樋口・白崎(講堂)	情報処理演習 松田知(情報処理演習室)		
4	乳児保育－2 柴田 (7号室)		音楽基礎A(歌) 高橋寛(音楽室)		保育内容総論 花田(5号室)	情報処理演習 松田知(情報処理演習室)	保育内容研究(表現) 大木・樋口・白崎(講堂)	
5	幼児教育者論 大関 (8号室)							
木 1	倫理学・文学 平田 (7号室)・柏倉 (8号室)				社会的養護内容－1 伊藤 (6号室)		保育内容研究(表現) 大木・樋口・白崎(講堂)	こどもと音楽C(歌) 高橋寛(音楽室)
2	音楽基礎A(歌) 高橋寛(音楽室)		保育原理 太田 (6号室)		国語表現法・介護福祉総論Ⅱ 柏倉 (5号室) 荒木・松田水・宮地 (7号室)			
3	子どもの食と栄養A 中村 (7号室)		子どもの保健Ⅰ 小林美 (6号室)		子どもの生活と文化Ⅱ 大類 (5号室)		体育 大木(体育館)	
4	子どもの保健Ⅰ 小林美 (6号室)		子どもの食と栄養A 中村 (7号室)				子どもの生活と文化Ⅱ 大類 (5号室)	
5								
金 1	体育実技 高桑・沼田(体育館)	図画工作 樋口(図画工作室)	音楽基礎B(器楽) 白・福・櫻・佐・米 佐々木(レッスン室)	英語コミュニケーション 小林浩(4号室)	保育内容研究(人間関係)－1・保育内容研究(言葉)－2・臨床心理学－3 太田 (6号室)・柏倉 (8号室)・浅倉 (7号室)			
2	図画工作 樋口(図画工作室)	体育実技 高桑・沼田(体育館)	子どもの食と栄養B 中村(栄養実習室)	音楽基礎B(器楽) 白・福・櫻・佐・米 佐々木(レッスン室)	相談援助－1・臨床心理学－2・保育内容研究(人間関係)－3 竹田・八柳 (5号室) 浅倉 (7号室) 太田 (6号室)			
3	視聴覚教育論 坂部 (8号室)		社会的養護 菅原 (6号室)		臨床心理学－1・相談援助－2 浅倉 (7号室) 竹田・八柳 (5号室)			こどもと音楽B(器楽) 白・福・櫻・佐・米 佐々木(レッスン室)
4	社会的養護 菅原 (6号室)		視聴覚教育論 坂部 (8号室)		体育 大木(体育館)	保育内容研究(人間関係)－2・相談援助－3 太田 (7号室) 竹田・八柳 (5号室)		
5	基礎教養入門 松田知、他 (8号室)					保育内容研究(表現) 大木・樋口・白崎(講堂)	保育内容総論 花田(5号室)	
土 1								
2								

音楽基礎B(器楽)…白崎、福島、櫻田、佐藤、米澤、佐々木
 保育実践研究Ⅲ(集中講義＝2年次前期)…高橋寛、高桑、花田、樋口、
 白崎

こどもと音楽B(器楽)…白崎、福島、櫻田、佐藤、米澤、佐々木
 保育実習指導Ⅲ(集中講義＝2年次前期)…実習委員会

平成30年度 幼児教育科時間割（後期）

	1 年 次				2 年 次			
	Aクラス	Bクラス	Cクラス	Dクラス	Aクラス	Bクラス	Cクラス	Dクラス
月 1	指導法の研究 大関（5号室）		子どもの保健Ⅱ 柴田（2号室）	こどもと音楽A（歌） 高橋寛（音楽室）			図画工作Ⅱ 樋口（図画工作室）	
2	発達心理学 太田（6号室）		こどもと音楽A（歌） 高橋寛（音楽室）	子どもの保健Ⅱ 柴田（2号室）			図画工作Ⅱ 樋口（図画工作室）	
3			指導法の研究 大関（5号室）		子どもの生活と文化Ⅰ 柏倉（8号室）		家庭支援論 伊藤（7号室）	
4			発達心理学 太田（6号室）		家庭支援論 伊藤（7号室）		子どもの生活と文化Ⅰ 柏倉（8号室）	
5								
火 1	保育内容研究（環境） 大類（5号室）	こどもと音楽B（器楽） 白・福・櫻・佐・米 佐々木（レッスン室）	教育心理学－3 大関（6号室）		子どもの保健Ⅲ 小林美（7号室）			
2	教育心理学－1 大関（6号室）		保育内容研究（環境） 大類（5号室）	こどもと音楽B（器楽） 白・福・櫻・佐・米 佐々木（レッスン室）	子どもの生活と文化Ⅲ 高桑・太田（7号室）			
3	総合科目・介護福祉総論Ⅰ・経済学 渡邊（5号室） 伊藤・荒木（4号室） 下平（6号室）				保育実習指導Ⅱ・就職指導講座 実習委員会・就職指導委員会（8号室）			
4	学級経営論 松田知（8号室）		保育・教育課程論 小林浩（5号室）		保育・教職実践演習（幼稚園）－1・保育・教職実践演習（幼稚園）－2・保育・教職実践演習（幼稚園）－3 柏倉・高桑・花田（4号室） 柏倉・高桑・花田（6号室） 柏倉・高桑・花田（7号室）			
5	卒業研究A				卒業研究C			
水 1	図画工作 花田（図画工作室）	保育内容研究（環境） 大類（5号室）		体育実技・講義 高桑（体育館・6号室）	保育実践研究Ⅰ 大関・松田知・太田・小林浩（7号室）			
2	子どもの食と栄養B 中村（栄養実習室）	こどもと音楽A（歌） 高橋寛（音楽室）	英語コミュニケーション 小林浩（4号室）	保育内容研究（環境） 大類（5号室）	情報処理演習 松田知（情報処理演習室）	体育 大木（体育館）		
3	保育実習指導Ⅰ 実習委員会（8号室）				体育 大木（体育館）	情報処理演習 松田知（情報処理演習室）		
4	こどもと音楽A（歌） 高橋寛（音楽室）	体育実技・講義 高桑（体育館・6号室）	図画工作 花田（図画工作室）	英語コミュニケーション 小林浩（4号室）	保育実践研究Ⅱ 大木・樋口・白崎（7号室）			
5								
木 1	英語コミュニケーション 小林浩（4号室）	教育心理学－2 大関（6号室）			図画工作Ⅱ 樋口（図画工作室）	情報処理演習 松田知（情報処理演習室）	体育 大木（体育館）	
2	介護技術演習 宮地・松田水・荒木（介護実習室）				図画工作Ⅱ 樋口（図画工作室）	体育 大木（体育館）	情報処理演習 松田知（情報処理演習室）	
3	保育・教育課程論 小林浩（5号室）		子どもの保健Ⅰ 小林美（7号室）		保育原理Ⅱ 海和（4号室）			
4	子どもの保健Ⅰ 小林美（7号室）							
5								
金 1	体育実技・講義 高桑（体育館・6号室）	英語コミュニケーション 小林浩（4号室）	こどもと音楽B（器楽） 白・福・櫻・佐・米 佐々木（レッスン室）	図画工作 花田（図画工作室）				
2	こどもと音楽B（器楽） 白・福・櫻・佐・米 佐々木（レッスン室）	子どもの保健Ⅱ 柴田（2号室）	体育実技・講義 高桑（体育館・6号室）	子どもの食と栄養B 中村（栄養実習室）	保育相談支援－1・障害児保育－3 竹田・八柳（7号室） 鏡（5号室）			
3	子どもの保健Ⅱ 柴田（2号室）	図画工作 花田（図画工作室）	児童家庭福祉 菅原（6号室）		障害児保育－1・保育相談支援－2 鏡（5号室） 竹田・八柳（7号室）			
4	児童家庭福祉 菅原（6号室）		学級経営論 松田知（8号室）		障害児保育－2・保育相談支援－3 鏡（5号室） 竹田・八柳（7号室）			
5								
土 1								
2								

こどもと音楽B（器楽）…白崎、福島、櫻田、佐藤、米澤、佐々木

保育・教職実践演習（幼稚園）…柏倉、高桑、花田
 保育実践研究Ⅰ…大関、松田知、太田、小林浩 保育実践研究Ⅱ…大木、白崎、樋口
 保育実習指導Ⅲ（集中講義＝2年次後期）…実習委員会

平成30年度 専攻科福祉専攻授業時間割

<前期>

	月	火	水	木	金	土
9:00 I ~ 10:30	介護の基本 I (荒木)	介護過程 I (荒木)	介護保険制度と 障害者自立支援制度 (伊藤)	こころとからだ I (松田)	生活支援技術 I (宮地・松田・荒木)	
10:40 II ~ 12:10	介護総合演習 I (荒木・松田・宮地)	社会福祉演習 (伊藤・荒木 松田・宮地)	介護の基本 II (伊藤)	生活支援技術 IV (楠本)	生活支援技術 I (宮地・松田・荒木)	
13:00 III ~ 14:30	発達と老化の理解 (宮地)	認知症の理解 (松田・宮地・荒木)	生活支援技術 III (阿部)	生活支援技術 IV (楠本)	生活支援技術 II (安喰)	
14:40 IV ~ 16:10	コミュニケーション 技術 I (本間・重吉)	介護過程 II (櫻井・山本・鈴木春)		介護の基本 III (柴田)	医療的ケア I (松田・宮地)	
16:20 V ~ 17:50		介護過程 II (櫻井・山本・鈴木春)			医療的ケア I (松田・宮地)	

<後期>

	月	火	水	木	金	土
9:00 I ~ 10:30	介護の基本 I (荒木)	認知症の理解 (松田・宮地・荒木)	障害の理解 (伊藤)	生活支援技術 V (宮地)	介護過程 III (荒木・松田・宮地)	
10:40 II ~ 12:10	介護の基本 IV (荒木)	社会福祉演習 (伊藤・荒木 松田・宮地)	生活支援技術 VI (鈴木寿)	介護の基本 V (櫻井)	介護過程 III (荒木・松田・宮地)	
13:00 III ~ 14:30	こころとからだ II (松田)	生活支援技術 VII (黄木)			コミュニケーション 技術 II (荒木)	
14:40 IV ~ 16:10	介護総合演習 II (松田・宮地・荒木)	生活支援技術 VII (黄木)			医療的ケア II (宮地・松田)	
14:40 IV ~ 16:10					医療的ケア II (宮地・松田)	